

令和7年度
活動記録集

三重県産業教育振興会

活動の様子

農業部会



F1 日本グランプリ開催記念花壇装飾



自動操舵トラクターの体験

工業部会



工業高校生フェア ものづくり体験



ものづくりコンテスト

商業部会



四日市商店街 活性化ポスター



四日市まちなか文化祭販売実習

家庭部会



産業教育フェア



四日市農芸高校 生活文化科 製菓衛生
コース 外部講師による製菓実習



明野高校 生活教養科 デザインコース



亀山高校 総合生活科 幼児教育系列

水産部会



全国マリンロボットコンテスト参加



水産高校 海洋・機関科 機関コース

看護部会



母性看護学（校内実習：沐浴）



基礎看護（校内実習：清拭）

総合学科部会



成人看護学（校内実習：外科的手洗い）



産フェア 地元企業とのコラボ商品販売



教育研究大会 発表の様子



産フェア ワインディング体験

福祉部会



三重県高校生介護技術コンテスト



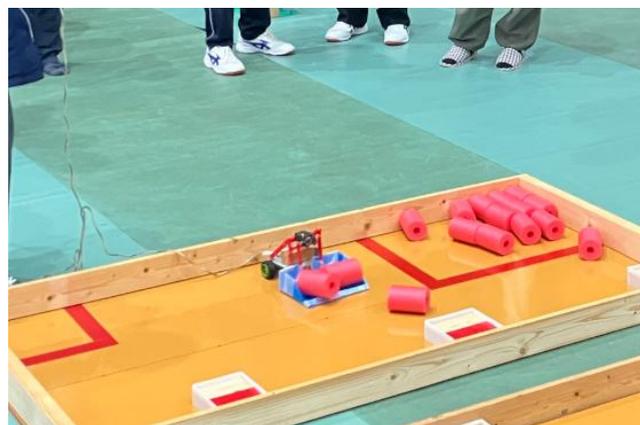
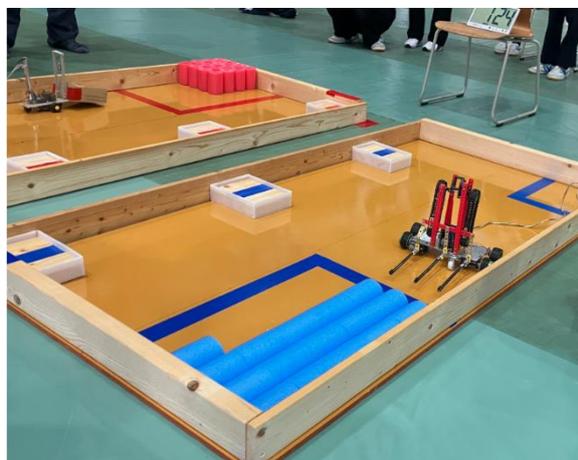
生徒成果発表会

情報部会



ハイスペック PC を活用したプログラミング実習

中学校部会



創造アイデアロボットコンテスト

目次

会長 挨拶	2
教育長 挨拶	4
令和7年度事業報告	5
三重県産業教育振興会総会	5
三重県産業教育懇談会	7
産業教育振興に関する懇談会	8
特別研究成果報告	9
産業教育に関する研究文・作文コンクール	11
部会活動報告	51
一般会員 より	66
県教育委員会事務局高校教育課 より	68
会員名簿	70

会長挨拶

三重県産業教育振興会

会長 西村 信博



会員の皆様には、日頃より本会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、近年、我が国全体では少子化が加速度的に進行してきており、本県の産業界にとっても避けることのできない課題となっています。

県教育委員会の推計によりますと、15年先には本県の中学校卒業生数は現在の6割を切る程度にまで減少すると見込まれています。このことは、将来の地域産業を支える人材の確保に直結する深刻な問題であると受け止めています。加えて、若者の進路選択の多様化や都市部志向の傾向も見られる中、地域における人材の確保と定着は、産業界自らが主体的に取り組むべき喫緊の課題であると考えています。

また、産業界においては、急速な技術革新、とりわけAIの進展が、産業構造や働き方に大きな変化をもたらしています。知識や情報処理を中心とする分野では省力化が進む一方で、ものづくりや現場での対応力を必要とする分野では人材需要が今後も変わらず、そればかりか人手不足が一層深刻化すると言われていています。これからの地域を担う人材には、新しい技術を柔軟に取り入れる力に加えて、AIでは代替できない判断力や創造力、他者と協働して課題に向き合う力が強く求められていると感じているところです。こうした力を育むためには、学校教育の充実はもとより、産業界が教育活動に積極的に関わり、現場で培われた知見や経験を伝えていくことがこれまで以上に重要であると考えています。

その様な中、本会では、こうした力を有する人材を育成するために、職業に関する専門教育の更なる充実と発展が不可欠と考えています。また、若者に本県を拠点として活躍しようとする意欲を持ってもらうために、本県で生活して働くことの魅力や、地域に魅力的な産業や事業所が多くあることを伝えていくことが重要であると考えています。その実現のためには、企業側においても、働きやすい環境づくりや人材育成体制の整備、デジタル技術の活用など、将来を見据えた取組を一層進めていくことが求められています。本会会員の皆様におかれましては、ぜひそれぞれの立場から積極的にご参画いただき、学校との連携をさらに深めていただきますようお願い申し上げます。

本年度は、その実現に向けた取組の一つとして、会員である事業所の皆様を紹介する冊子（データ版）を作成し、関係の学校に配信させていただきました。作成にご協力を賜りました多くの一般会員の皆様に改めて感謝申し上げます。この取組が高校生や教職員の皆様にとって、県内事業所への理解を深める一助になるとともに、企業と学校との新たな連携のきっかけとなることを期待しております。

また、11月に開催した産業教育懇談会では、IXホールディングス株式会社代表取締役社長の浜田吉司様をお招きし、「アントレプレナーシップ教育について」をテーマにご講演いただきました。若者が学びと挑戦を重ねる中で課題を自ら見だし行動する力を育むことの重要性や、若者が自分らしさを社会で生かしていけるよう学校と産業界が連携する

意義について、改めて認識を共有できた大変有意義な機会であったと感じています。

県内事業所の中には、高等学校におけるキャリア教育の講師派遣やインターンシップの受入れだけではなく、技術や機械等の提供を通して教育活動を支えたいと考えてくださっている事業所が少なくありません。今後も、本県の産業界と教育界がより一層連携を深め、地域全体で若者を育てる体制を築いていくことが、地域の持続的な発展につながるものと確信しております。

県産業教育振興会では、今後も学校・地域・産業をつなぐ架け橋としての役割を果たし、未来を担う人材育成に引き続き尽力して参る所存です。会員の皆様には今後とも、変わらぬご支援とともに、主体的かつ積極的なご参画を賜りますよう、心よりお願い申し上げ、ご挨拶といたします。

教育長挨拶

三重県教育委員会

教育長 福永 和伸



三重県産業教育振興会の皆様におかれましては、平素から本県における産業教育の振興に多大なる御尽力を賜っておりますことに、厚く御礼申し上げます。

令和7年度の職業学科等の生徒の取組を振り返りますと、各専門分野において、全国大会や各種コンテストで優秀な成績を収めるなど、日頃の学習成果が高く評価されました。7月には第73回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会が本県で開催され、生徒が主体的に大会運営や研究発表に携わったことは、本県の産業教育の実践力を全国に発信する貴重な機会となりました。10月には、第35回三重県立高等学校職業教育フェアを開催し、生徒が日頃の学習成果を広く県民の皆様を紹介いたしました。本フェアは、地域の大型商業施設において実施することで、多様な世代の方々に職業学科の取組を直接伝えるとともに、生徒自身が来場者との対話や発表、販売活動等を通じて学びの成果について評価を受けるという貴重な機会となっており、このような経験は、生徒の主体性や責任感を育むとともに、学習意欲の向上にもつながっています。

さて、本年2月、文部科学省は2040年を見据え、我が国の未来を左右する喫緊の重要課題として高校教育改革を位置付け、その実現に向けて前例のない規模の財政支援のもと、取組を強力に推進する方針を示しました。その背景には、人口減少の進行とともに、急速な技術革新や産業構造の大きな転換があります。経済産業省の推計によると、AI技術の飛躍的な進化により、2040年には事務・販売・サービスなどの仕事に従事するホワイトカラー人材が約320万人余剰となる一方、数理・デジタル分野の専門人材は約330万人、生産工程や輸送・運搬等を担うエッセンシャルワーカーは約450万人不足するなど、深刻な労働力の需給ギャップが生じるとされています。

こうした産業構造の転換に対応するため、特に職業学科においては、その学びの機能の強化・高度化に取り組み、社会の「イノベーションを起こす力を底上げする起点」としての役割を果たすことが求められています。

本県におきましても、「職業教育の充実・発展のための推進計画」に基づき、DXハイスキル事業の活用や先端技術を取り入れた探究的・実践的な学びの充実など、社会の変化に対応した教育を推進しているところです。AIをはじめとするデジタル技術が急速に進展する中、AI・DX等を駆使した生産性向上を実現する産業イノベーション人材や「自ら問いを立てる力」や「他者ととともに価値を創り出す力」を身に付け、地域社会の持続的な発展を担う人材を育成することが、これまで以上に求められています。

県教育委員会としましては、地域の産業界と連携しながら実践的な学びを展開することで、社会が目まぐるしく変化する中でも、生徒一人ひとりが自らの可能性を広げ能力を最大限に伸ばし、「持続可能な社会の創り手」としてたくましく成長していくことができるよう、本県産業教育のさらなる充実に努めてまいります。

結びに、本県産業教育の一層の発展のため、引き続き御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、三重県産業教育振興会のますますの御発展と、会員の皆様の御健勝、御活躍を祈念申し上げ、挨拶とさせていただきます。

令和7年度事業報告

総 会

- 1 日 時 令和7年6月17日(火) 13:00～
- 2 場 所 三重県総合文化センター「フレンテみえ」多目的ホール
(三重県津市一身田上津部田1234)
- 3 内 容

(1) 議 案

- 第1号議案 令和6年度事業報告
第2号議案 令和6年度一般会計収支決算書、監査報告書
第3号議案 令和7年度役員
第4号議案 令和7年度活動方針・事業項目
第5号議案 令和7年度事業計画
第6号議案 令和7年度一般会計収支予算書

(2) 令和6年度御下賜金記念産業教育功労者

久居農林高等学校	前校長	吉川 秀明	(農業)
松阪工業高等学校	前校長	村田 武俊	(農業)
明野高等学校	前教頭	城 秀教	(農業)
明野高等学校	教諭	鈴木 啓二	(農業)
明野高等学校	教諭	山元 通央	(農業)
伊賀白鳳高等学校	前教頭	中田 英幸	(農業)
桑名工業高等学校	教諭	野村 和弘	(工業)
四日市工業高等学校	教諭	真弓 守	(工業)
四日市工業高等学校	教諭兼実習助手	青木 旭	(工業)
四日市中央工業高等学校	教諭	吉田 聖司	(工業)
稲生高等学校	前校長	前川 欣也	(工業)
津工業高等学校	教諭	中村 能也	(工業)
松阪工業高等学校	教諭	山本 勝也	(工業)
伊賀白鳳高等学校	校長	松本 徳一	(工業)
四日市商業高等学校	教諭	尾上 篤	(商業)
北星高等学校	教諭	後藤 茂之	(商業)
津商業高等学校	教諭	宇佐見 徹	(商業)
津商業高等学校	教諭	大西 育子	(商業)
津商業高等学校	教諭	中森 功	(商業)
飯南高等学校	教諭	堀内 洋二	(総合学科)
津商業高等学校	教諭	松生 浩久	(普通)

※事業所(学校)名・職名は令和6年度のものである。

(3) 令和7年度感謝状受領者

理事	三重県商工会連合会	会長	坂下 啓登 様
副会長・理事	大台町立大台中学校	校長	佐藤 光一 様
理事	三重県立桑名高等学校	校長	早川 巖 様
理事	三重県立桑名西高等学校	校長	岡村 芳成 様
理事	三重県立朝明高等学校	校長	早川 知宏 様
理事	三重県立亀山高等学校	校長	廣島 朗 様
理事	三重県立みえ夢学園高等学校	校長	庄村 哲 様
理事	三重県立伊賀白鳳高等学校	校長	松本 徳一 様

※事業所（学校）名・職名は令和6年度のものである。

(4) 研 修 会

講師	I Xホールディングス株式会社	代表取締役社長	浜田 吉司 様
演題	「一人前になるということ」		

三重県産業教育懇談会

1 日 時 令和7年11月18日(火) 13:00～

2 場 所 三重県総合文化センター「フレンテみえ」多目的ホール
(三重県津市一身田上津部田1234)

3 内 容

- (1) 開会のことば
- (2) 主催者挨拶
- (3) 来賓祝辞
- (4) 来賓紹介
- (5) 令和7年度産業教育に関する研究文・作文コンクール入選者表彰及び研究文・作文発表
〔研究文の部〕

会長賞	四日市農芸高校	農業科学科	3年	主濱 遥斗 阿部 芽依 遠藤 優 豊田 亮凱 山中 彩
農業部会長賞	相可高校	生産経済科	2, 3年	宮崎 咲妃 長岡 明日香 西村 美咲 細木 優亜
家庭部会長賞	亀山高校	総合生活科	3年	葛原 アロハ
看護部会長賞	桑名高校	衛生看護専攻科	2年	高田 莉緒

〔作文の部〕

会長賞	相可高校	食物調理科	3年	宇井 真優
農業部会長賞	明野高校	生産科学科	3年	辻井 悠斗
工業部会長賞	伊勢工業高校	機械科	3年	橋野 心子
商業部会長賞	宇治山田商業高校	国際科	3年	森本 陽菜
家庭部会長賞	四日市農芸高校	生活文化科	3年	中原 聖菜
水産部会長賞	水産高校	海洋・機関科	3年	植田 愛夢
看護部会長賞	桑名高校	衛生看護科	3年	豊住 優里奈
総合学科部会長賞	いなべ総合学園高校	総合学科	3年	桑原 陸
福祉部会長賞	明野高校	福祉科	3年	阪本 明優
情報部会長賞	亀山高校	システムメディア科	3年	伊藤 吏玖
中学校部会長賞	鈴鹿市立天栄中学校		3年	渡辺 和樹

(6) 第35回三重県立高等学校産業教育フェア生徒実行委員会報告

(7) 懇談会

講 師 I Xホールディングス株式会社 代表取締役社長 浜田 吉司 様

テーマ 「アントレプレナーシップ教育について」

(8) 閉会のことば

産業教育振興に関する懇談会

- 1 日 時 令和7年12月16日(火) 13:00~13:25
- 2 場 所 三重県庁7階 教育長室 (三重県津市広明町13番地)
- 3 訪 問 者 西村 信博 会 長 (株式会社誠文社 代表取締役社長)
萬井 洋 副会長・理事長 (久居農林高等学校長)
- 4 教育委員会側出席者
- | | |
|-------|-----------|
| 福永 和伸 | 教育長 |
| 山北 正也 | 高校教育課長 |
| 渡部 浩史 | 高校教育課指導主事 |
| 中村 圭吾 | 高校教育課指導主事 |
| 山田 篤史 | 高校教育課指導主事 |

5 内容

要望書を手交し、専門高校における教職員定数の改善や計画的な教員採用、専門教科担当教職員の養成・採用・研修等の充実と処遇改善、ICT環境を含めた教育施設・設備の整備、職業教育及びキャリア教育の充実と進路保障、三重県立高等学校産業教育フェアの継続と発展等について要望を行い協議した。

教育委員会からは、引き続き教職員定数の改善を文部科学省に継続して要望すること、大学3年生等を対象とした特別選考について、対象を来年度教員採用選考試験で実施するすべての校種・教科等へ拡大すること、外部から専門的な知識を有した講師を、特別非常勤講師として採用すること、DXハイスクール事業によるものや今年度7校の施設・設備をICT環境を含めて整備したこと、インターンシップ、地域の職業人からの講演会や出前講座、就職した卒業生との交流等、関係機関との協力や、昨年度に引き続き、「未来のスペシャリスト育成プログラム」を実施し、キャリア教育の機会の拡充に取り組んでいること、進路保障については、就職実現コーディネーター等の専門人材の配置や、進学支援に関する給付型奨学金等の情報を1・2年生にも周知するようにすること、三重県立高等学校産業教育フェアの継続と発展については、来年度も予算面の支援を継続する等の説明があった。



「農林業の草木廃棄物の処理方法について」 ～特に焼却(野焼き)について～(2年目報告)

三重県立明野高等学校

教諭 山元 通央

①はじめに

現在農林業の野外焼却は一定の条件で認められており、これらを把握し生徒に正しく伝える事は、私たち農業教員の役目でもある。

①関係する法規

廃棄物処理法 第四章 雑則 (焼却禁止)

第十六条の二 何人も、次に掲げる方法による場合を除き、廃棄物を焼却してはならない。

第三号 公益上若しくは社会の慣習上やむを得ない廃棄物の焼却又は周辺地域の生活環境に与える影響が軽微である廃棄物の焼却として政令で定めるもの

廃棄物処理法施行令 第六章 雑則 第十四条

廃棄物処理法第十六条の二 第三号 の政令で定める廃棄物の焼却は、次のとおりとする。

四 農業、林業又は漁業を営むためにやむを得ないものとして行われる廃棄物の焼却

②施行令第十四条 四の適用範囲(判例等より)

i 三田事件(騒動) 平成29年ころ

ワラ焼きを許容する三田市と取り締まる警察が対立。環境省が話し合いでの解決を促すが平行線。市が野焼きのガイドラインを制作するものの、兵庫県が野焼きの推奨ではなく、削減につながる内容に変更要請。「里山共生条例案」にも、同様に野焼き削減の内容に変更要請。

ii 高松事件 平成30年5月高裁平成30年9月

古畳20枚345kgを田んぼで焼却した。畳は焼却すると草木灰＝加里成分が肥料として残るが、畳は農業とは関係ない。

iii 山口事件 平成31年4月高裁令和元年9月

農業機械庫のある自宅敷地内の雑木(600kg)を伐採し、後日自分が管理する水田に持込み焼却した。農業を営む上でやむを得ない伐採であるが、水田に搬入出来るなら焼却施設に搬入出来た。

iv 千葉事件 令和2年1月高裁令和2年8月

竹や柿の枝約25kgを自宅敷地に重機で穴を掘り焼却していたところを警察官が現認する。

焼却時間は30分と少量で、キャンプファイヤーと比べて軽微である。(弁護側)

畑・住宅・倉庫が建ち並ぶ所で、周辺環境への支障を生じる恐れがあり、これらの焼却が周辺住民から必ず承認されるとは考え難い。竹はタケノコの出荷量から環境保全が主な目的で農業ではない。柿の枝は自治体の規定通りに縛れば燃えるゴミとして収集がある。

③農業廃棄物の焼却許容範囲(個人的推計)

(1)住宅との距離は、田舎なら200m以上都会は500m以上取る。容認範囲には地域差がある。

(2)自治体のゴミ収集車の来ないところ。ゴミ収集のある所まで運べない場合。

(3)シュレッダーやトラクターなどが入らず、土に埋める(返す)事ができない場合。

(4)草木廃棄物の出たところで焼却を考える。

(運搬できるなら焼却施設まで運びなさい)

ワラと刈草を水田で焼却→しょうがないな

ワラと梨園の枝木を水田で焼却→

梨はゴミで出せる

(5)資材倉庫の雑木の伐採焼却は倉庫敷地内で行う。農地に運搬しない。(4)と同じ

「特産松阪牛肥育の継承と飼養管理の改善について」

三重県立相可高等学校

実習助手 山口 仁希

1 はじめに

相可高校では地元多気町の伝統産業である「特産松阪牛」の肥育に取組み、今年で35年目となる。本校で松阪牛の肥育に取組む意義は、地域の伝統産業である特産松阪牛の魅力や歴史を生徒に伝え、肥育技術を継承し、後継者を育成していくことや、学校での取組みを地域へ還元することではないかと考える。生徒とともに取組んでいく今回の研究が何かしらの形で松阪牛肥育の参考になればと考える。

2 「松阪牛」と「特産松阪牛」の定義

松阪牛

- ・黒毛和種未経産の雌牛であること
- ・松阪牛個体識別管理システムに登録されていること
- ・松阪牛生産区域での肥育期間が最長・最終であること
- ・生後12か月齢までに松阪牛生産区域に導入し、導入後の移動は生産区域内に限ること

特産松阪牛（松阪牛の定義に加えて）

- ・兵庫県産の子牛を導入したもの
- ・松阪牛生産区域で900日以上長期肥育したもの

3 特産松阪牛肥育の現状と課題

特産松阪牛の出荷頭数は松阪牛全体の3.7%（R6年）である。生産頭数の減少にはいくつかの理由があるが、上述の通り、特産松阪牛の肥育日数は一般的な和牛で生後20～30ヶ月で出荷されるのに対し、生後12ヶ月齢までに生産地域に導入し、そこから900日以上肥育する長期肥育であることが1つの要因である。牛を長期肥育すると

病気やケガのリスクが増加するだけでなくコストが多くかかる。しかし、特産松阪牛の上質な肉は、肥育農家が秘伝の技を駆使し、1頭1頭大切に長期肥育することで作り出されている。そこで、長期肥育にかかるコストを少しでも抑えることのできる肥育方法を検討することで、その成果を松阪牛肥育に還元し特産松阪牛の出荷頭数の増加につながるのではないかと考える。

4 本校の飼養方法と本研究での取組

本校では、表1のような肥育期間で肥育している。育成期間では、仔牛の胃の発達を促し、ルーメン（第一胃）の形成を助けることで、900日もの長期肥育に耐えることのできるしっかりとした胃袋作りを行っている。また、筋肉を充実させる時期でもあるため、粗剛性に優れた稲わらと繊維質が豊富で嗜好性に優れ、栄養バランスの良いチモシーを与えている。肥育前期からは、肉質向上を目的にビタミンAを制限するため、ビタミンの前駆物質であるβカロテンを多く含むチモシーは与えず、稲わらのみを給与している。チモシーは栄養価や嗜好性に優れているが稲わらに比べ高価である。

そこで、本研究ではチモシーを安価な稲わらに代替することで飼養コストを抑えることができるのではないかと考え、育成期間にチモシーを与える個体と稲わらのみで飼養する個体で成育方法の違いを比較し、検証を行うこととした。

表1.相可高校特産松阪牛肥育期間および給餌飼料の種類

導入からの経過期間	期間	給餌飼料	
～3ヶ月	育成期間	粗飼料：稲わら+チモシー	濃厚飼料：前期飼料
4ヶ月～11ヶ月	肥育前期	粗飼料：稲わら	濃厚飼料：前期飼料
12ヶ月～16ヶ月	肥育中期	粗飼料：稲わら	濃厚飼料：前期飼料+後期飼料
17ヶ月～	肥育後期	粗飼料：稲わら	濃厚飼料：後期飼料

廃材ウールで化学肥料低減を目指して

三重県立四日市農芸高等学校

農業科学科 3年 主濱 遥斗 阿部 芽依 遠藤 優
豊田 亮凱 山中 彩

・研究のきっかけ

三重県四日市市は、全国有数の工業都市として知られていますが、その発展の始まりは紡績産業やお茶の輸出などにありました。特にお茶の生産量では全国第3位を誇り、なかでも「かぶせ茶」の生産量は全国1位を記録しています。



先輩方が令和3年度より、御幸毛織株式会社様と共同で、毛織物製造過程にて廃棄されるウールの農業への有効利用について研究を行っており、私たちはその研究を引き継ぎ、一つの形にしていきたいと取組を進めていきました。ウールには、肥料の三要素である窒素のほか、リン酸やカリウムも豊富に含まれており、先輩方の研究によって、畑や水田への投入が植物の生育や収量に影響することが明らかになってきています。

ウールの可能性
成分分析の結果

項目	分析値	標準範囲
水分	10.01 % (wet)	10.00 - 10.05 %
粗タンパク質	16.81 % (wet)	16.00 - 17.50 %
粗脂肪	1.10 mg/kg (wet)	0.00 - 1.50 mg/kg
粗繊維	22.80 mg/kg (wet)	0.00 - 25.00 mg/kg
灰分	0.02 % (wet)	0.00 - 0.05 %
炭素	47.50 %	45.00 - 50.00 %
窒素	12.00 %	11.00 - 13.00 %
リン	0.10 %	0.05 - 0.15 %
カリウム	0.50 %	0.40 - 0.60 %

植物の生育に必要な元素を多く含む
⇒ 栄養分として吸収されたと考える

天然の有機物肥料としての可能性

年間の廃棄量は約 100kg と限られているため、

本校の水田や、地域の特産である「茶」への投入に限定し、環境負荷の少ない農業の確立とその普及を目指して取り組むようになりました。

・取組

今年度は、①水田へのウールの投入による収量への影響があるか、②茶園への投入による影響があるかの2つを重点的に取組、環境に優しい農業の普及とつながるのではと研究に関わる広報活動を行いました。

今年度の目標

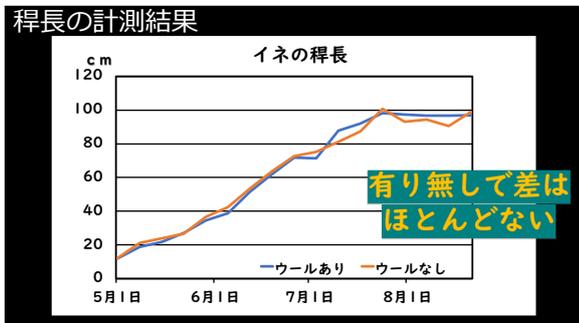
- ①水田へのウールの投入による収量への影響
- ②茶園へのウールの投入による影響

①水田へのウールの投入による収量への影響

本校水田のうち、三重県で育成された酒米品種の「神の穂」を栽培している2枚を研究対象とし、1枚はウールを入れた試験区、もう1枚を対象区として、それ以外の条件を同じに行いました。ウールの量は1aあたり8kg程とし、御幸毛織の方々と2人1組ウールを投入しました。



その後田起こし、代掻きと行き、トラクターにウールがほとんど絡まることなく土の中にすきこむことができました。私たちは生育調査として週に1度、稈長を計測、このグラフが結果です。稈長は試験区、対象区で差は見られませんでした。



次に作物の授業で学習した収量構成要素を用いて1穂あたりのもみ数や千粒重などを計測しました。圃場の端からサンプルを取ってしまったことで、1穂あたりのもみ数、登熟歩合がかなり低い値となってしまいましたが、ウールありの方が千粒重や登熟歩合の値は大きくなっており、ウールが化学肥料の代替肥料として十分に価値があることが確認できました。

収量調査の結果

	ウールあり	ウールなし
総もみ数	10297	10534
平均穂数	11.61	10.92
1穂あたりのもみ数	68.61	67.68
千粒重 (g)	25.13	23.83
登熟歩合 (%)	40.5	32.2

また、JGAPの認証を取得、収穫した米は津にある寒紅梅酒造様に出荷し、本校オリジナルのお酒として醸造され、日本酒、梅酒が販売しております。

②四日市水沢地区の茶園への投入による影響

私たちは、四日市水沢地区で茶園だけでなく、製造販売とともにかぶせ茶のカフェを運営されているマルシゲ清水製茶様の茶園に、2年前からウールを入れさせていただいています。11町ほどの茶園のうち100mの畝13列を共同研究圃場とし、品種は若者でも飲みやすいと評判の

「つゆひかり」、若い苗木だったものからウールを投入し、今年ようやく本格的に収穫ができるようになってきました。

ウールは追肥として投入を行っており、3月と11月の年2回行っています。ウールは手のひら大の量のウールを1.5m間隔で入れていきました。2人1組となり、水田と同様に一人が穴を掘り、もう一人がウールを置き、土を被せるといった手順で、御幸毛織や清水製茶の方々とともに作業を行い、1時間ほどで作業を終えました。1列あたり1kgほどの投入量となるため、研究圃場全体で約13kgを投入しました。



5月には一芯二葉の若い芽を摘む手摘みでの収穫体験を行い、収量は約180kg、そして手続きが完了し「ウールのお茶」として約1万2千パックの量の販売を開始しました。

圃場では、慣行栽培に比べ化学肥料を15%削減して代わりにウールを投入しています。成分分析を行い、試験区と対照区で比べたところ、慣行栽培のものとは何ら遜色ない結果が出ました。

成分分析結果

ウールのお茶	慣行栽培
測定日: 2024/05/30 08:55:38 産地: 熊本 サンプルID: SM1 カテゴリID: 20240530-01	測定日: 2024/05/30 09:40:40 産地: 熊本 サンプルID: SM2 カテゴリID: 20240530-02
水分: 4.2 % 全窒素: 6.4 % 遊離アミノ酸: 4.7 % アミン: 2.6 % 繊維: 19.5 % タンニン: 7.5 % カフェイン: 8.9 % カフェイン: 2.5 % ビタビC: 0.32 %	水分: 4.9 % 全窒素: 6.4 % 遊離アミノ酸: 4.7 % アミン: 2.6 % 繊維: 20.1 % タンニン: 7.6 % カフェイン: 8.8 % カフェイン: 2.4 % ビタビC: 0.31 %
水分基準: 100% AFスコア: 69 点 ランク: 1	水分基準: 100% AFスコア: 66 点 ランク: 1

化学肥料と遜色ない

マルシゲ清水製茶の清水聖一様からは、「化学肥料を15%削減しても変わらず良い結果となった。今後は茶園の様子を見ながら、30%削減を目指し、それに合わせてウール施肥を増やしていきたい。」と話を伺いました。

結果

- ①ウールを入れることで収量は増加、化学肥料の低減が達成可能である
- ②化学肥料15%低減しウールを代替肥料とした茶園でも問題なく収穫できた

化学肥料の低減だけでなく、本来産業廃棄物として廃棄されるはずだったウールを代替肥料として使用したことで、環境に優しい農業方法の一つとして結果を出すことができました。

普及活動

御幸毛織様と協力し、廃材ウールを肥料として用いた環境に配慮した新しい取組としてSDGs愛知エキスポに出展し、私たちの取り組みを多くの方に知っていただくことができました。



また、四日市商業高校の課題研究の取組で、観光甲子園に出場する際にウールのお茶に興味を持ち取材を受けた他、文化祭やイベントで販売をするなど普及や認知をしてもらう取組も行ってきました。



販売が開始された「ウールのお茶」の評判を聞くと、「エコなのが良い」、「もっと頑張って有名にして、四日市の名物にして」と言った声があり、ある企業の方は、「四日市市の企業と学校の共同研究なのが良い」と言っていただき、その企業のお歳暮に起用していただきました。また、四日市

市のふるさと納税の返礼品の一つとなり、四日市市認定地場特選品の泗水十貨店にも認定され、そのつながりから四日市市長の表敬訪問を行うことができました。



課題、今後の展望

水田へのウールの投入による影響はサンプル採取数が少なかったことや水田ポンプ故障の影響で予想していた結果を得ることができませんでした。今後の活動ではデータの重要性を認識し、事前にしっかりと学習をしたいと思っています。また、ウールを散布する行程では、機械化ができないため、どうしても時間がかかってしまっています。ウールをどうすれば効率的に散布することができるのかなど、効率化についても研究をしていきたいと考えています。

また茶園についても、環境に優しい農業、地域の魅力を伝える手段として活動を継続し、地域を盛り上げる一つ的手段としていきたいと思っています。今後も様々な場面で産官学が連携し、肥料の地産地消のモデルとして、取り組みを発信し、環境に優しい農業に取り組んでいきます。



守れ！地域の特産物 ～地域連携で伊勢茶復活～

三重県立相可高等学校

生産経済科 3年 宮崎 咲妃 長岡 明日香
西村 美咲
2年 細木 優亜

表1をご覧ください。明治の時代には日本1のお茶の産地であった三重県が現在は大きく引き離された第3位。また、栽培面積や生産量も年々減少しています。そこで、相可高校農業クラブでは10年前より伊勢茶を守る活動を展開しています。

のミカン、カキの葉、伊勢茶のエキスが入っており、経済産業大臣賞やモンドセレクションを受賞する等、高品質の商品を開発できました（写真2）。

表1

茶葉生産量 令和2年度

順位	都道府県名	生産量(t)
1位	静岡県	26,200
2位	鹿児島県	23,900
3位	三重県	5,080
4位	宮崎県	3,060
5位	京都府	2,500

他の産地に比べ認知度が低い
栽培面積の減少
栽培農家の減少
生産量の減少 等

三重県のお茶栽培の推移

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
面積 (千ha)	3,210	3,180	3,170	3,150	3,110	3,040	3,000	2,980	2,880	2,780	2,710

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
生産量 (t)	7,100	7,280	7,740	7,130	6,830	6,370	6,130	6,240	5,910	5,980	

資料水産省「園林水産統計」



また、写真3は伊勢茶を中心にブレンドしたお茶です。宇宙大豆やヨモギ、桑の葉などをブレンドした健康茶の「なの茶」、多気町の耕作放棄されたみかん園のみかんを入れた「カームオレンジティ」の開発にも取り組みました。

今までの活動

写真1は伊勢茶の普及のために開発したコスメです。相可高校で開発するコスメは地域農産物が入っています。



これらすべての商品には伊勢茶のエキスが入っており、伊勢茶の普及を目標にした商品です。例えば、まごころteaハンドジェルは三重県産



表2の商品を購入されたお客様によるアンケートの結果を見ると、商品開発の取り組みで伊勢茶を知ってもらえるキッカケづくりにはなりましたが、目標である伊勢茶の復活には至っていないのが現状です。

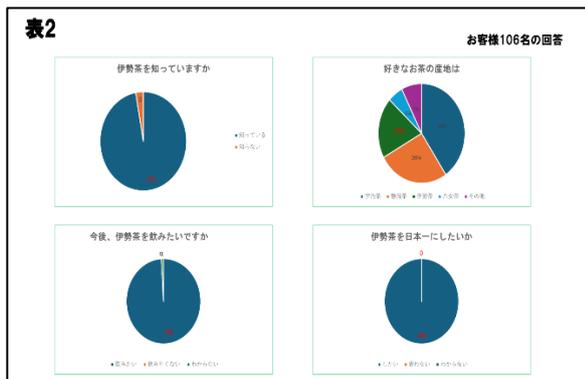
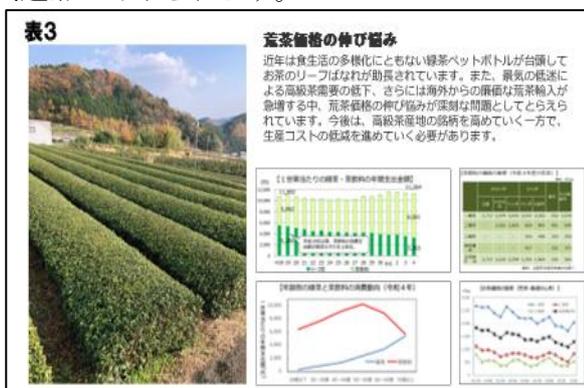


表3の伊勢茶の現状を見ると、労働力の不足、摘採期間の短期集中化、荒茶価格の伸び悩み、比較的平坦茶園が多い大規模経営の出現といった問題点があげられます。



その対策として、高性能茶園管理機による作業の効率化、高性能茶園管理機の導入に適した茶園基盤整備の実施、経営の大規模化による低コスト化、企業的経営体の育成、品種偏重の是正に三重県としても取り組んでいます。そこで、私たち高校生でも荒茶価格の伸び悩み対策への取り組みができるのではと考えました。

近年、食生活の多様化にともない緑茶ペットボトルが台頭してお茶のリーフ離れが助長されています。また、景気の低迷による高級茶需要の低下、荒茶価格の伸び悩みが深刻な問題としてとらえられています。今後は、高級茶産地の銘柄を高めていく一方で、生産コストの低減を進めていく必要があります。そこで私たちは伊勢茶復活を目標に向けて4つの取り組みをしました。

① お茶を使ったコスメの新商品開発

写真4は多気町内の耕作放棄された茶畑です。また、最近では太陽光発電に変わるなど少し寂しい状況となっています。



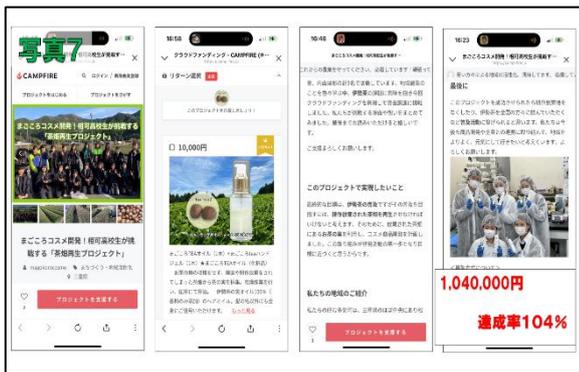
そこで、小さな1歩ではありますがイノベーションにつながると考え、耕作放棄された茶畑等からお茶の実を拾い、そのお茶の実で商品開発を目指しました(写真5)。



お茶の実には抗酸化作用のあるビタミンEや保湿成分が多く含まれています。そして、まめ茶同様に何度かの会議や試作を行い「まごころTEA OIL」を完成させることができました(写真6)。



この開発にはクラウドファンディングにも挑戦し、開発費と伊勢茶のPR活動のために100万円の目標をたて、見事、104万円を達成することができました(写真7)。



② 新しい農産物開発

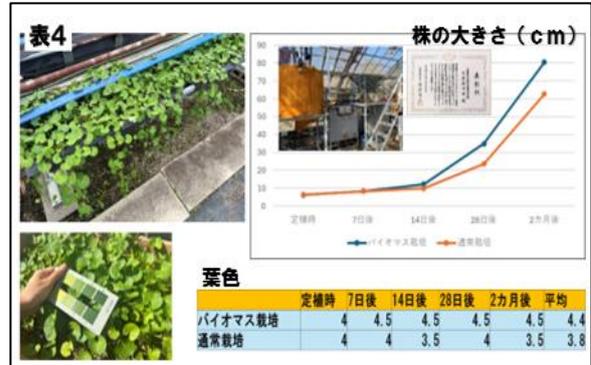
伊勢茶を含めどこの産地でもお茶だけで産地を守るには限界があります。こだわった栽培で高級な玉露を作る。パッケージにこだわったお茶を作る。また、ティーパックや花を咲かせるお茶など内容にこだわった商品が多く出回っています。私たちは以前も開発の経験があるブレンド茶に着目しました。そのブレンドする農産物がつぼ草です(写真8)。



つぼ草とは東南アジア原産のハーブで日本でも関東より南野地域に自然に生えているセリ科の植物です。WHO、世界保健機構、が21世紀の驚異的薬草、保護すべき薬用植物の中でもっとも重要なものの1つとして認めたことも話題となりました。そのつぼ草の葉や茎から抽出したエキスには、肌自活力を高め、お肌にハリやツヤを与え、健やかな肌本来の美しさに導く効果があるとされています。CICA と言ったらおわかりだと思います。つぼ草は多くの化粧品に使われている美に効果があるとされている野草です。

そのつぼ草をバイオマス栽培で生産しました。バイオマス栽培とはバイオマス発電所から排出される消化液を肥料として利用した環境を考えた内閣総理大臣賞を受賞した栽培法です。表4の上段は、定植後から2か月間にわたり株の中心部から、ランナーが

伸びている部分までを切った株の大きさの推移です。通常の栽培に比べバイオマス栽培のつぼ草は、定植1週間後からランナーを発生させ順調に生育しました。これは、消化液がつぼ草の元肥、追肥として有効であるとわかります。



また、表4の下段はカラーチャートによる葉色を表しています。葉色についてもバイオマス栽培のほうが、平均4.4と有利性が認められました。

つぼ草は、ランナーで繁殖させます。そこで繁殖しやすい育苗法の調査結果が表5にある育苗方法の比較調査表です。切り離してポットに植えるより直接ポットへ受けてから切り離す育苗方法のほうが、活着率が高いことがわかりました。



③ 食物調理科との学科間連携

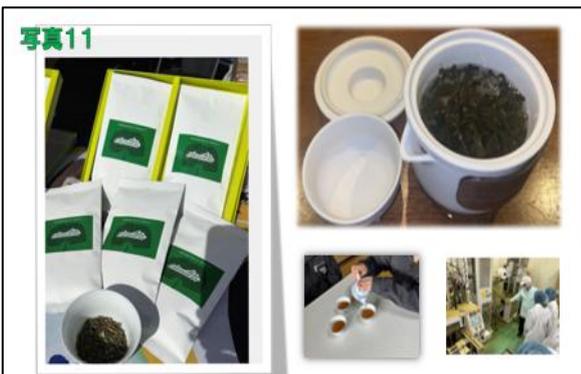
つぼ草を何とか有効利用できないかと取り組んだのがご当地絶品うまいもん甲子園への挑戦です。昨年度はつぼ草を粉末にし、キッシュの生地練りに、「キッシュDEシカジカ」を完成させ、全国大会に進むことができました(写真9)。

今年度は、耕作放棄地から拾ったお茶の実を絞り食べるができるお茶の実オイルを搾油し、そのお茶の実オイルを使ったメニュースペイン風ウツボチャーハンを開発し、連続で全国大会出場することがで

きました。(写真10)



④ 相可高校オリジナルお茶商品開発



つば草栽培の成功や安全性を証明することによりつば草を使ったお茶開発に取り組みました。

表6は商品開発の流れです。

連携する企業と何度かの打ち合わせを行い、CICATEAを完成させることができました(写真11)。

相可高校で栽培するつば草の収量に限度があったため初回生産量は、約100袋と限定の量しか完成させることができませんでしたが地域のイベント等で完売しました。

まとめ

写真12は私たちの連携する企業や団体です。



伊勢茶の復活は地域の方々の大きな目標でもあることが分かります。写真13の川原製茶様とは商品開発の協力をいただくだけでなく、伊勢茶の生産から製造、流通までも学ばせていただける連携企業です。



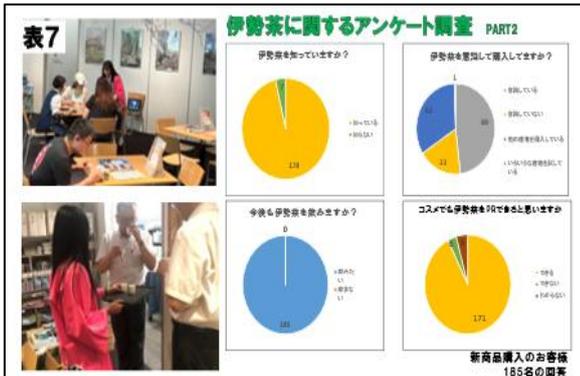
また、写真14の製菓会社である万協製菓様とも地域の産業やビジネスマナーなど高校生活では学べないビジネスマンとの交流もできました。



表15の神都ライオンズクラブ様とは、3年間の歳月をかけて伊勢の新商品開発に協力いただくことができました。

以上のように、多くの企業や団体と連携できたことで農業クラブが目指す3大目標である指導性、社会性、科学性を学ぶことに繋がったと考えています。

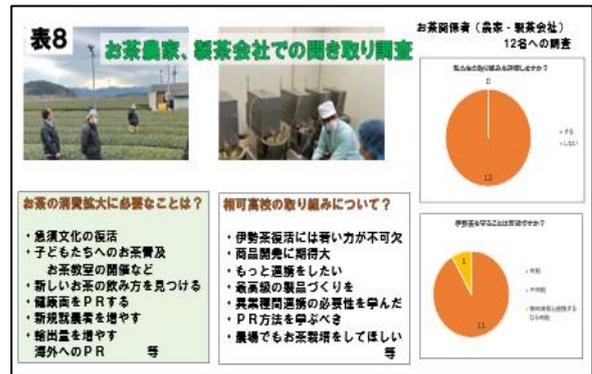
表7は伊勢茶に関するアンケート結果です。



CICATEA、ヘアオイルを購入いただいたお客様のアンケートです。元々伊勢茶を知っている方も多くいましたが意識して伊勢茶を購入されている人は、約半数でした。私たちの思いを伝えることによりほぼ全員の方が今後伊勢茶を飲みたいと答えてくれました。また、お茶以外の商品で伊勢茶をPRできることが可能かという問いに関しても、9割以上の方が可能だと答えていただきました。

表 8 は、お茶農家さんや製茶会社の方によるアンケート及び聞き取り調査です。

私たちが取り組む異業種間連携の大切さや若い力に期待する声が多かったのがうれしかったです。また、伊勢茶を守ることにに対して相可高校と連携していきたいと聞き、私たちも頑張っていこうとあらためて思ったプロジェクトとなりました。この思いを忘れず伊勢茶を守るためこれからも研究を続けます。



災害に負けない家族を目指して

三重県立亀山高等学校
総合生活科 3年 葛原 アロハ

I. 題目設定の理由

令和6年8月8日、日向灘を震源とするマグニチュード7.1の地震が発生し、大規模地震の発生可能性が平常時に比べて相対的に高まっていると考えられ、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意報）が発表されました。三重県で過ごしていた私は、地震が起こった意識はなく、ニュースを見て南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意報）が発表されていてとても驚きました。これまでも能登半島地震などをニュースなどで目にすることや、南海トラフ地震について学習する機会はありましたが、なんとなく「大丈夫だろう」という漠然とした考えで過ごしてきました。しかし、南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意報）が発表され、三重県も注意が必要な地域に入っていたことで、私の周辺でも飲料水や備蓄食品が売り切れるといったことが起こりました。

南海トラフ地震が発生した場合、亀山市では最大震度6強と予想されています。今回の出来事で私は、大きな災害の可能性を身近に感じ、備えについて改めて考えるようになり、災害に負けない家族でいたい、家族を守るために私にできることは何かを考えようと今回の取り組みを行うことにしました。

II. 研究計画

1. 現状把握
2. 問題点
3. 実践活動
4. まとめ

III. 研究内容

1. 現状把握

(1) 亀山市の防災に関する取組について

自宅がある亀山市の防災に関する取り組みについて調べてみることにしました。そのなかで私は、「亀山市総合防災マップ」に関心を持ちました。

ア) 亀山市総合防災マップについて

亀山市総合防災マップとは、「防災冊子（わたしの防災マップ）」（資料1）「地震ハザードマップ」（資料2）「風水害ハザードマップ」（資料3）、上記3つから構成されているもので、令和3年3月に亀山市防災安全課防災安全グループにより作成され、必要に応じて改定されているものです。各ハザードマップは、災害への備えとして、地域の危険を日頃から認識するために作られており、また「防災冊子（わたしの防災マップ）」として、地域住民がそれぞれの状況にあった災害対策を自らが確認し、記述して作成できるようになっています。「防災冊子（わたしの防災マップ）」には、過去の災害や今後起こり得る災害についてや、地震災害が起こった際の行動などもまとめられています。大人だけでなく誰でもわかりやすい内容を掲載されているので、とても役立つと感じました。また、多言語版も作成されており、亀山市内に在住する外国の方にも使えるものとなっていました。私は、これまで「亀山市総合防災マップ」は目にしたことがなかったので、今回の研究では、「防災冊子（わたしの防災マップ）」を参

把握しているか」質問2「災害時のことは考えているか」という内容を聞きました。避難場所は全員把握していましたが、避難経路はあいまいな答えだったので、あまり考えていないことがわかりました。

災害への意識は、全員が「備えは必要だとは思っているけど行動できていない気がする」と回答しました。また姉から「自宅にいるときには、災害が起きて家族と一緒にいるから不安はないが、仕事に行っている時や自宅から離れている際に災害が起きた場合は、どうなるのか不安がある」ということを聞きました。

2. 問題点

現状把握のための調査を行った中で、次の点が問題であると考えました。

- ① 災害時用備蓄品が不足
- ② 家族の災害時への意識が低い
- ③ 自宅外で被災した際を考えていない

この3点について、今回の取り組みで改善に向けた実践活動を行うことにしました。

3. 実践活動

(1) 避難経路の確認

家族全員、聞き取りによって、避難場所は把握していることがわかりましたが、避難経路については考えていなかったため、実際に避難所までの避難経路を調べて歩き、どのような経路がよいのかを考えました。自宅から避難所である亀山市立亀山西小学校までは、大きく3つのルートが考えられました。

ルート1	1.4 km	急こう配の道が長く続く 石壁が崩れる可能性あり
ルート2	1.2 km	急こう配の道が長く続く 林があり土砂崩れの可能性あり
ルート3	1.1 km	ややきつめの坂が続く 道は広く新しい

亀山市は城下町のため、どのルートを通っても急こう配の箇所はあり、その他には上表のような危

険箇所がありました。このことから、ルート3は、ややきつめの坂道ではありましたが、比較的新しい道で道路周辺の環境を見ても、倒壊して道が通れなくなる可能性も少なく感じ、高齢の祖母のためにもできるだけ負担を減らそうと考え、距離が一番短い、ルート3を選択しました。さらに危険箇所がないかを見て回り、危険な場所を示した我が家の避難経路マップを作成しました。マップには避難経路だけでなく、家族がバラバラに避難をすることになったときのことも想定し、災害時伝言ダイヤルの使い方も書いておくことにしました。マップは、防災用備蓄品の中に入れておくことにしました。



(2) 手作り防災グッズづくり

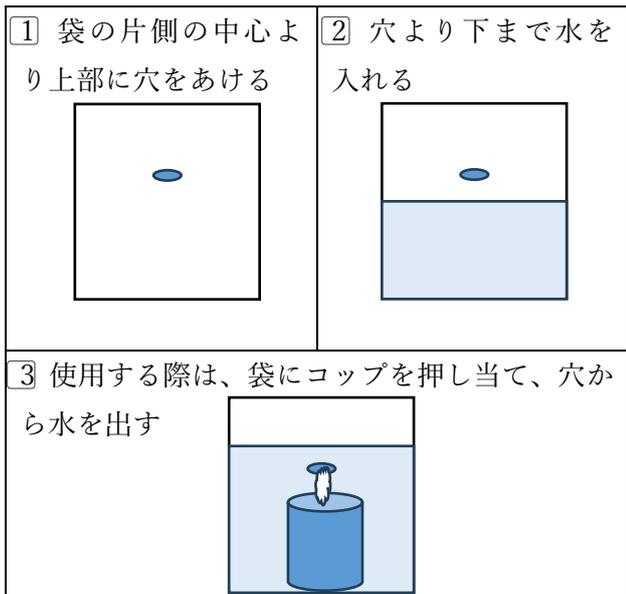
家族の災害時への意識を高めるために家にあるものを使って、いざというときにどのようなことができるかを考え、実践してみることにしました。

① チャック付き保存袋を使ったウォーターバック

生活の中で、水は必ず必要になります。飲み水だけでなく、生活にも水は欠かせません。災害時は、水が貴重になると考え、できるだけ生活用水で使う水を無駄なく使いやすくなるように、チャック付き保存袋で簡易ウォーターバックを作ってみました。



<作り方・使い方>



しかし、強度がなく、すぐに破れそうに感じたことや履いて歩くには薄く足を保護することが難しいと感じました。改良を検討し、複数回折った新聞紙を中敷きにする事で厚みをだしました。厚みが出たことで、破れる心配は少し改善しましたが、履いて歩くには、中敷きにした新聞紙がズレるなど、活用するにはさらに改良が必要だと思いました。新聞紙には保温効果があり、履いていると暖かくなっていくのを感じ、災害時に足元を温めるために活用できると感じたので、家族分製作し、備蓄用品に入れることにしました。



災害時、少しでも気持ちが明るくなるようにイラストを描いてみました。水を出したり止めたりするのが簡単にできて、片手で水を使用できることや、使う水の量を調節できるため、無駄なく必要な分だけ使用することができると感じました。また、ペットボトルなどが重く扱いにくい高齢者や子どもにも使いやすくなると感じました。吊り下げ場所が必要になるデメリットはありますが、今回は、磁石を使って止めることができたので、磁石も備蓄しておくことにしました。

② 新聞で作る簡易スリッパ

災害時はガラスが割れるなど足元が危険になることがあるため、新聞紙を使って簡易スリッパを作成することにしました。インターネットで作り方を調べて、最初に作ったスリッパは、新聞1枚で簡単に作ることができました。



(3) 百円ショップで防災グッズ購入

「防災冊子(わたしの防災マップ)」にある非常持ち出し品・非常備蓄品を参考に、我が家の備蓄品を見直してみると不足しているものがたくさんあり、備蓄品を充実させようと考えました。実際に、母と一緒にホームセンター等で購入することも検討しましたが、今回は、私ができることで取り組もうと決めていたので、自宅近くにある百円ショップを利用して購入することにしました。

少しずつ日頃から備える意識を持つために、一度に買い揃えるのではなく、「1,000円」と予算を決めて実施することにしました。百円ショッ

ブに行ってみると、防災グッズは数多く取り揃えられており、手軽に備蓄品を購入できることにとっても驚きました。今回は、災害時に活用できる便利グッズ、衛生用品を中心に購入しました。



<購入品>

ポリ袋	簡易ブランケット
ガーゼテープ	レインポンチョ
簡易トイレ (2)	ガーゼ
マルチツール	絆創膏
マジックペン	

購入した商品は、自宅の備蓄に加えておくことにしました。また、今回の取り組みの中で、自宅は洪水による浸水の可能性がある地域だと分かったので、これまで1階に保管していた備蓄品をまとめて、2階に置くことにしました。

(4) 持ち歩き防災ミニセットづくり

家族への聞き取りを行った際、姉から自宅外で災害にあう可能性への不安を聞いて、これまで自宅で災害に遭遇したことしか考えていませんでしたが、自宅外で被災した際の準備も必要だと感じました。そこで、勤務先が亀山市外である姉のために持ち歩き防災ミニセットを作成してみようと思い、次のような条件を決めました。

条件

- ①百円ショップを利用
- ②予算は、1000円程度
- ②姉が自宅に戻るまでに少しでも不安が解消されるような工夫をする
- ③持ち歩きやすい工夫をする

まず最初に、持ち歩きやすさを重視し、普段か

ら鞆に入れやすいサイズにしようと考え、入れ物を探しました。また災害時に活用できる入れ物の方がいいと思い、今回は、百円ショップで見つけたプラスチック製の水筒を使うことにしました。大きさは、500ml容量を使用することで鞆に入れても邪魔にならないようにしました。プラスチック製の水筒は、丈夫な作りになっていること、鞆に入れておく際にも中身を守ることができます。いざというときに中身を出せば、水筒として活用できることがメリットになると考えました。中身については、インターネットで事前に調べたことや、姉と相談をして中身を考えました。姉は、「ちょっとお菓子が入っていると嬉しい」という意見だったので、食料も少し入れることにしました。実際に持ち歩いていたらいざというときに便利だなと感じる物が多く、容器に収まるように中身を購入するのは大変でした。



<購入品>

ペン型ライト・電池	簡易トイレ
歯ブラシ	マスク
絆創膏	ウェットシート
簡易ブランケット	食品

次に、姉が自宅に帰るまでに不安が少しでも解消される工夫を考えました。まずは、ボトルに少しでも気持ちが明るくなるように姉が好きなキャラクターなどを描きました。



少しでも家族を感じて、安心してもらいたいという思いから、裏にはメッセージを書きました。



作ってみて感じたことは、持ち歩きやすさを重視したため容器が小さく中身があまり入らず、入れるのに苦労しました。

完成後、姉に渡すと早速鞆に入れてくれました。姉には、日ごろから使えるグッズや食料が入っていることを伝え、使ったら買い足しをするローリングストックの方法についても伝え活用してもらえるようにしました。



姉は、「自宅外で被災したときに安心できる」と喜んでくれました。また後日、姉から今回の取り組みをきっかけに「今までは考えなかった自宅外での被災について、改めて考える機会となり、会社にいるときに災害が起きた際の避難場所などについて確認することができた。また、防災ミニセットを持ち歩くことで安心感が増した」、「会社で防災ミニセットの話をしたら、ほかの人も同じように持ち歩くようになった」、「私の事を考えて専用の防災ミニセットを準備してくれて嬉しい」と言ってくれました。

(5) 災害時について家族で話しあう

まずは、避難経路について調べたことや実践したことを中心に「ハザードマップ」、「防災冊子(わたしの防災マップ)」を活用し、いざというときに避難所に集合できるように話し合いました。ま

た災害時、家族が別々の場所にいる場合も考え、自宅に戻れない場合、どのようにして連絡をとって集合するかなどを話し合いました。今回の研究で見直した災害用備蓄についても共有し、日ごろから家族全員でチェックしたり、補充したりすることを確認しました。姉に渡した防災ミニセットも家族に見せたところ、母や祖母も作りたいと意欲をもってくれたので、家族の災害への意識が少しでも高まったのではないかと感じました。

4. まとめ

今回は、南海トラフ地震臨時情報が発表されたことをきっかけに、より身近に災害をとらえ行動することができたと思います。しかし、現在の我が家の災害に対する備えは十分とは言えない状況です。災害用備蓄はまだ不足しているものも多く、家族の中には備蓄するものは「あくまでも非常用」という意識も残っており、災害時でも普段に近い生活ができるようにしておくという考えを新たに家族全員が意識しないといけないと感じました。百円ショップを活用し、購入しやすい金額で備蓄品を準備できることもわかり、家族で共有し全員が意識して日頃から災害時に必要になるものを揃えていけるようにしたいです。備蓄している食品についても今後は、ローリングストックの考え方を取り入れ、生活の中で、無理なく災害への備えを行い、いざというときに普段に近い生活ができる準備をして家族が安全に安心して災害時にも生活できるようにして、災害に負けない家族になりたいです。また、家族全員が必ずしも家にいるときに災害が起こるとは限らない事に気づくことができたので、家族全員分の持ち歩き防災ミニセットづくりをしていく計画をしています。これまでは、災害に備えることは母に任せているだけでしたが、今回の取組を通して私にも家族のためにできることがあると実感し、家族を守ることにつながると気づき、大切な家族を守り、大切な家族とともに大好きな亀山市で生活していくために今後も家族で一丸となって災害への備えを続けていこうと思います。

在宅療養者に対する継続的なセルフマネジメント支援の実践と効果 —ナッジ理論の活用による行動変容の促進—

三重県立桑名高等学校

衛生看護専攻科 2年 高田 莉緒

I はじめに

2022年では、65歳以上の者のいる世帯は2747万4千世帯(全世帯の50.6%)となっており、65歳以上の者のいる世帯のうち、高齢者世帯の世帯構造をみると、「単独世帯」が873万世帯(高齢者世帯の51.6%)と最も多くなっている。

近年、医療技術の進展や医療制度の変化により入院期間の短縮が進められ、退院後の生活を支える在宅看護の重要性がますます高まっている。さらに、超高齢社会の進展に伴い、独居高齢者の増加が顕著であり、慢性疾患を抱える高齢者が住み慣れた地域でその人らしく生活を継続するための支援が、看護職にとって重要な課題となっていることが考えられる。

今回、在宅看護実習において、2型糖尿病を主疾患とする利用者を受け持った。2型糖尿病は長期にわたり自己管理が求められる疾患であり、利用者においては、自己流の健康管理、服薬やインスリン注射の中断、生活習慣の維持困難などから慢性合併症が生じている状態であった。

本論文では、「自分の生き方」に強いこだわりを持ちながらも、正しい知識の理解や行動変容が困難である利用者との関わりを通して、ナッジ理論を活用した支援の有効性を考察し、在宅でその人らしく健康に生活するための看護支援について検討することを目的としてここに報告する。

II 事例紹介

氏名：Bさん（受持ち利用者）

年齢：80歳代

性別：男性

主疾患：2型糖尿病

既往歴：心疾患（慢性心不全）、高血圧症、腎不全

介護保険：要支援2

訪問目的：低温熱傷による右母趾球内側にある潰瘍の処置を行うこと

訪問内容：足部の観察、処置、足浴の実施や食事摂取状況や内服状況の確認、血糖測定
家族構成：本人の他に、妻と長女、長男がいる
妻が他界後独居

キーパーソン：長男

週に1回程度訪問して、必要な物を自宅に届けている

<受け持ちまでの経過>

Bさんは、家族が遠方で病院受診に困り、在宅診療開始となり、今回右足母趾球内側の潰瘍処置を目的として、一時的に頻回な訪問看護が開始された。訪問時には、感染を防止し、血液循環を促進させることで治癒過程を促進させることのできるフットケアを実施したほか、食事や服薬、インスリン注射の自己管理状況についての観察を行っていた。

訪問時の観察から、Bさんは日常的に臥床して過ごしており、食事は摂取しているものの、低血糖を感じた際や歩行困難時に甘酒を補食として用いることが多く、結果として不規則な食生活となっていたことや薬の自己中断、血糖測定の拒否など、セルフマネジメントに課題が多く見られた。また、糖尿病性神経障害による感覚鈍麻と既往歴に基づく身体的制限も加わり、安全な生活継続に

対するリスクが高い状態であった。

その一方で、デイサービスや施設よりも自宅で過ごしたいという B さん本人の意思があり、自分の生き方に強い信念を有していることがうかがわれた。

III 看護の実施と評価

B さんは糖尿病の管理において自己流の対応を行っており、特にインスリン注射や内服薬の中断、血糖自己測定拒否などが認められた。これらは腎機能低下や低血糖への不安、そして自分の生活や生き方に対する強いこだわりが背景にあると考えられた。そのため、看護の実施にあたっては、無理に生活習慣の大幅な変更を促すのではなく、本人の意思を尊重しながら、少しずつ必要な行動変容を促す関わりを心がけた。

訪問時には、服薬摂取やインスリン注射、食事摂取状況の確認を毎回実施し、必要に応じて短時間で理解しやすい説明を行った。説明の際には B さんのこれまでの方法を否定せず、本人の考えを受け止めたうえで、糖尿病合併症の予防や健康維持に必要な行動について情報提供を行った。また、血糖自己測定が行われていないため、低血糖や高血糖の兆候について訪問時の観察を強化し、体調変化や訴えを傾聴することに努めた。

足部の創傷については、糖尿病性神経障害による感覚低下の影響を考慮し、訪問ごとに足部観察と足浴を継続した。併せて、訪問時の会話の中で足部の状態について質問し、創傷への関心と自己観察を促した。創傷は徐々に治癒傾向を示し、新たな低温熱傷の発生は認められなかった。

活動量については、立位時のめまいが軽減し、歩行時のふらつきが改善されたことから、廊下での歩行練習や身近な家事動作（加湿器の水の入れ替えなど）を促した。その結果、B さんから「昨日廊下 10 周歩いた」といった自発的活動の報告が得られるようになり、活動意欲の向上が認められた。活動量の増加は、筋力維持だけでなく、気分転換や生活リズムの改善にもつながる可能性があるため、焦らさず本人のペースで活動機会を

広げる支援を継続する必要があると考えられる。

食事面では、甘いものを摂取した方がよいという独自の理解を持っており、糖分摂取制限が困難な様子があった。そのため、禁止や否定ではなく、会話の中で自然に代替食品を提示し、過剰摂取を控えられるように働きかけた。宅食弁当については好まない発言が続き、継続は困難と判断されたため、本人が選んだ食材について内容を確認し、見守る形で関わった。

また、B さんは「若い子と話すことが楽しみ」「話せてストレス発散できた」と話すなど、訪問時のコミュニケーションが心理的に良い影響を及ぼしている様子が見られた。このため、看護師としての役割は単なる指導や管理だけでなく、信頼関係を築き、安心して気持ちを表出できる存在であることが重要であると考えられた。

これらより、本介入により、服薬・インスリン注射の実施頻度は訪問時においては安定し、足部創傷の悪化防止、活動意欲の向上が見られた。今後も本人の価値観を尊重しつつ、生活の中に自然に取り入れられる形で健康行動を継続できるよう支援を続けることが必要であると考えられる。

IV 考察

本事例において、B さんは糖尿病性神経障害や心不全の既往を有し、独居生活の中で服薬自己中断や食事管理の困難、活動量の低下といった課題を抱えていた。さらに、本人は「自分の生き方」に強いこだわりを持ち、従来の教育的な関わりや生活指導では十分な行動変容に結びつきにくい状況であった。こうした背景を踏まえ、強制や制限ではなく、本人の意思を尊重しながら望ましい行動を自然に選択できるよう支援することが重要であると考えられた。

そこで、本論文においては、これまでの介入を「ナッジ理論」の視点から振り返ることで、その有効性について検討を行う。「ナッジ理論」は 2017 年にノーベル経済学賞を受賞した米シカゴ大学のセイラー教授によって提唱された理論である。ナッジというのは「肘でつく」あるいは「背中を

押す」という意味で、人に強要するのではなく自然に良い方向へ誘導し、自然な形で行動変容を促す理論¹⁾である。その具体的な実践枠組みとして、EASTがあり、本事例の介入もこの視点から整理することができる。「EASTは、英国のナッジ・ユニットである The Behavioral Insights Team (BIT)で開発されたナッジを実践する際に役立つ枠組み(ツール)で、「Easy(簡単に)」「Attractive(印象的に)」「Social(社会的に)」「Timely(タイムリーに)」の頭文字を取ったもの²⁾である。

EASTの4分野、11項目のポイントに沿って介入を振り返ることで、Bさんにおける看護支援の可能性を検討していく。

1. Easy (簡単に)

Easyは、内容や手続きを簡単・シンプルにすることである。

Bさんの服薬においては、E-1「デフォルト機能を活用する」として服薬カレンダーを導入し、自然に薬を手にとれる仕組みを整えられていた。さらに、E-2「面倒な要因を減少させる」として宅食弁当の利用を推奨し、調理や買い物の負担を軽減した。食事を本人の生活動線上に配置する工夫は、意思決定に伴う労力を低減させ、自然に適切な食行動につながるよう配慮した。また、E-3「メッセージを単純化する」として、食事・運動・服薬といった健康行動に関する説明を簡潔に伝えることで、本人の理解を促進した。

2. Attractive (印象的に)

Attractiveは行動したくなる要素を入れ、注意を引くことである。

Bさんへの介入においては、A-1「関心を引く」として、日々の会話や体調確認を通してBさんの関心に寄り添い、介入を身近なものとして受け止められるようにした。また、A-2「動機付け設計を行う」として、運動や服薬ができた際には肯定的なフィードバックを行い、達成感を強化した。このような肯定的関わりは、Bさんの行動を内発的に強化する要因となったと考えられる。

3. Social (社会的に)

Socialは、人の社会性に着目したナッジである。Bさんは独居であるが、S-1「社会規範を示す」として「糖尿病管理は誰もが取り組むべき行動である」という一般的な価値観を意識化させるよう関わった。また、S-2「つながりを活用する」として孫やひ孫の話題を取り入れ、交流意欲を高めることで生きる意味に繋がるよう配慮した。さらに、S-3「コミットメントを促す」として、訪問時に「次回までにできそうなこと」を本人と確認し、小さな約束を重ねることで行動の継続を支援した。

4. Timely (タイムリーに)

Timelyとは、タイミングに着目したナッジである。

Bさんは訪問当初、低温熱傷やメニエール病により活動制限があった。そのため、T-1「タイミングを見極める」として、創傷治癒やめまいの軽快を待ちながら、無理のない範囲で活動促進を行った。また、T-2「現在バイアスを踏まえる」として、長期的な合併症予防だけでなく「今日少し歩けたこと」「薬を忘れずに飲めたこと」といった即時的な利益を強調するよう努めた。さらに、T-3「事前に対処行動を決めるよう促す」として、体調不良時の服薬・食事の対応方法を事前に話し合い、不測の事態でも適切な行動がとれるよう関わった。

本事例を通して、ナッジ理論に基づくEASTの枠組みを踏まえた介入は、Bさんの生活習慣や価値観を尊重しながらセルフマネジメント行動を支える有効なアプローチであった。

特に、従来の「指導」や「教育」ではなく、本人の価値観を尊重しながら行動を選びやすくする環境調整が効果的であったと考える。

また、在宅での糖尿病セルフマネジメント支援においては、単に知識を提供するだけでなく、専門的知識を基盤とした「見守り」「寄り添い」「気にかける存在」として関わるのが重要であると考えられた。看護者が継続的に生活に関心を寄せ、

本人の思いや行動を尊重しながら支援を行うことで、信頼関係が形成されやすくなる。その結果、本人が自らの生活や健康行動を振り返る契機となり、小さな行動変容につながる可能性が高まると考えられる。さらに、こうした信頼関係に基づく関わりは、生活指導を自然に導入するための基盤ともなり、本人の価値観を尊重しながら健康的な生活習慣の定着を図る上で有効な支援方法であるといえる。

V 結論

- 1) EASTの「Easy」の視点から、服薬カレンダーの活用や宅食弁当の導入、簡潔な説明を行うことは、本人の負担を軽減し、自然に健康行動を取り入れやすくする有効な方法である。
- 2) 「Attractive」の視点から、興味関心に寄り添った関わりや肯定的フィードバックを行うことは、動機づけを高め、行動を内発的に持続させる要因となる。
- 3) 「Social」の視点から、社会的価値を意識化したり、家族とのつながりを話題にしたり、小さな約束を重ねることは、行動の継続や生活への意欲を高める支えとなる。
- 4) 「Timely」の視点から、体調に応じた介入のタイミングを見極め、短期的な利益を強調し、事前に対応を確認しておくことは、無理なく継続できるセルフマネジメントにつながる。
- 5) ナッジ理論を基盤とした EAST の枠組みに沿った介入は、Bさんの価値観や生活背景を尊重しながら行動変容を支援する有効なアプローチであり、在宅での糖尿病セルフマネジメントにおいて有用である。

VI おわりに

糖尿病性神経障害や心不全を有し、独居生活の中でセルフマネジメントに困難を抱える対象者に対して、従来の指導的アプローチだけではなく、ナッジ理論に基づく環境調整や本人の価値観を尊重した支援の重要性を強く実感した。特に、看

護者が寄り添い共に歩む関わりのなかで、小さな行動変容が積み重なり、本人の自己効力感や生活の質向上につながることを感じた。

今後は、こうしたナッジ理論を用いた支援をさらに実践に取り入れ、多様な背景を持つ高齢者や慢性疾患患者の生活の質向上を目指していきたい。また、本人の「生き方」や価値観に寄り添う看護実践の普及を図るとともに、多職種や地域との連携強化による包括的な支援体制の構築を進めていくことが重要であると考えている。

この研究に当たり、受け持ちをさせていただいた利用者さん・温かい指導をいただいた指導者さんはじめスタッフの方々に心より感謝いたします。

参考引用文献

- 1) 森谷満：「新しい時代の「保健医療の行動科学再考」～医師の視点からみた社会的アプローチ：社会的処方とナッジ理論」『日本保健医療行動科学会雑誌』第37巻第1号，2022，p16
- 2) 高橋勇太・村山洋史・竹林正樹：保健活動で使える！ナッジ—押さえておくべき基本と実践例．第1版，株式会社医学書院，東京，2023，p25
- 3) 厚生労働省：2022（令和4）年 国民生活基礎調査の概況
(<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/k-tyosa/k-tyosa22/index.html>) 最終閲覧日 2025/9/28
- 4) 臺有桂・石田千絵・山下留理子：ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論①地域療養を支えるケア．第7版，株式会社メディカ出版，大阪，2024
- 5) 高橋勇太・村山洋史・竹林正樹：保健活動で使える！ナッジ—押さえておくべき基本と実践例．第1版，株式会社医学書院，東京，2023

私の高校生活と料理への想い ～挑戦と成長、そして未来へ～

三重県立相可高等学校

食物調理科 3年 宇井 真優

私は中学生のころから料理に興味を持ち、家でもよく母の手伝いをしていました。小さな頃から地域で開催されていた料理教室にも積極的に参加し、自分で作った料理を家族が「美味しい」と笑顔で食べてくれることがとても嬉しくて、「もっといろいろな料理が作れるようになりたい」という気持ちが自然と芽生えました。食を通して人に喜んでもらえることの喜びを早くから感じていた私は、「将来は料理の道に進みたい」と考えるようになり、高校は相可高校の食物調理科に進学することを決意しました。

入学当初は、他の高校とは全く異なる専門的なカリキュラムについていけるのか不安もありました。しかし、授業が始まると、毎日が新しい発見の連続で、学ぶこと自体がどんどん楽しくなっていました。包丁の正しい持ち方、出汁の取り方、盛り付けの工夫、さらには衛生管理の重要性など、家では学びきれない多くの知識と技術を、実践的に身につけることができています。調理実習では、ただ料理を完成させることだけが目的ではありません。調理中の時間配分や器具の扱い、衛生管理、そして何よりもチームメイトとの連携やコミュニケーションがとても重要だと感じています。一人では成し遂げられないことも、仲間と協力することで達成できる。それを実感したのが、1年生の時に初めて先輩方と一緒にいった実習です。初めての本格的な実習に私は緊張して何をどう動けばいいのか分からず、戸惑うばかりでした。しかし、

2年生や3年生の先輩たちは、無駄のない動きで次々と作業を進めながらも、私に丁寧に指示を出し、優しくサポートしてくれました。忙しい中でも私の様子を気にかけてくれたその姿に感動し、「私もいつか、こんなふうに後輩を導ける先輩になりたい」と強く思いました。この経験は、単に料理の技術だけでなく、人との関わりの中で得られる成長や学びの大切さを教えてくれました。そして、調理技術だけでなく知識面でも大きな成長がありました。食物調理科では、栄養学や食品衛生学、食文化など、食に関する幅広い分野を学びます。栄養学の授業では、日々の食事が私たちの体や心にどんな影響を与えるのかを学び、食品衛生学では、安全な食の提供のためにどれほど細かな管理が必要かを知りました。こうした授業を通して、食べ物はただ「お腹を満たす」だけではなく、人の健康や生活の質に深く関わっていることを理解し、食に対する意識が大きく変わりました。また、学校行事や地域のイベントなどで料理を提供する機会にも多く恵まれました。そうした場では、来場された方々に料理の説明をしたり、目の前で実演調理を行ったりすることもありました。自分たちが作った料理に対して、「美味しい」「見た目もきれい」といった言葉を直接いただけたときの嬉しさは、何ものにも代えがたいものでした。料理は、味だけでなく見た目や香り、雰囲気を通して、人の心に残る体験を届けることができるものだと思えて実感しました。さらに、私は授業以

外でも積極的に料理コンクールに参加しました。コンクールに向けては、メニュー構成、材料の選定、下ごしらえの工夫、時間配分など、準備段階からたくさんの試行錯誤が必要でした。ペアで参加するコンクールでは、息を合わせて動くために事前の打ち合わせや練習が欠かせず、協力することの大切さを改めて学ぶ機会にもなりました。本番では緊張の連続でしたが、限られた時間内で無事に料理を完成させたときの達成感は格別でした。また、他の出場者の工夫を凝らした料理を目にすることで、自分にはない視点や技術、発想力に触れ、大きな刺激と学びを得ることができました。これらの経験から、料理の楽しさはもちろん、努力を続けること、失敗を恐れず挑戦し続けることの大切さを身をもって感じました。そして私にとって、もっとも印象に残っている経験の一つが、海外研修です。この研修は、言葉も文化も違う国で、料理を通じて交流するという、私にとって大きな挑戦でした。最初は言葉が通じるか不安で、何を話せばよいか分からず戸惑っていましたが、料理という共通の言語を通じて自然と距離が縮まりました。お互いの国の料理を紹介し合ったり、伝統料理を一緒に作ったりする中で、調理方法の違いや食文化の背景にも興味を持つようになりました。研修では、ただ調理技術を学ぶだけでなく、「自分の知らない世界に踏み出すことの大切さ」を実感しました。研修で一緒になった学生たちは、自分たちの文化に誇りを持ち、堂々と自分の意見を発言していました。そんな姿に刺激を受け、私ももっと積極的に発信していこうという気持ちになりました。実際、これ以降、私は学校の授業や発表の場でも自信を持って意見を言うようになり、以前よりも積極的に行動できるようになったと感じています。このような国際交流を通して、視野が大きく広がり、料理の世界が国境を越えて人をつなげる力を持っていることを感じました。料理は、味だけでなく、その土地の文化や歴史、考え方までも伝えることができる手段です。私はこれ

からも、異なる文化や価値観を学びながら、柔軟な視点を持った料理人として成長していきたいと思っています。高校生活の中で、食物調理科という専門的な分野にじっくりと向き合い、多くの経験を積んでこられたことは、私にとって非常に貴重で、かけがえのない財産になっています。日々の授業や実習を通して、技術と知識の両面で成長を感じられたことはもちろん、仲間と励まし合いながら壁を乗り越えた経験、地域や国を越えた人々との交流の中で得た刺激など、教科書では学べないたくさんのお話を体験の中から学びました。

将来は、日本料理を提供する仕事に就き、和食の魅力を広く伝えていきたいと考えています。和食は、素材の持ち味を活かし、四季を感じさせる繊細な味付けや盛り付け、美しい器づかいなど、日本の文化や心を表現する料理だと思っています。日本料理の伝統を守りつつ、新しいアイデアや現代的な感覚も取り入れた料理をつくり、多くの人に和食の魅力を伝えていきたいです。そのためには、調理技術や知識をさらに深めていくのはもちろん、料理を通じて人とつながる力、相手を思いやる心、異なる文化を理解する姿勢も大切だと考えています。料理は国境や言葉の壁を越え、人と人をつなげる力を持っています。私は和食を通して、国内外を問わず多くの人と心を通わせることができるような料理人を目指しています。「和食ってこんなに奥深いんだ」「また食べたい」と思ってもらえる料理を作れる人になることが、私の目指す姿です。これからも、新しいことに挑戦する気持ちを忘れずに、自分の可能性を広げ続けていきます。料理を通して誰かの笑顔や健康につながれるよう、そして和食の良さを多くの人に届けられるよう、これからも真剣に学び、成長していきたいと思っています。

挑戦の先に広がる未来

三重県立明野高等学校

生産科学科 3年 辻井 悠斗

「おはよう」「大きくなったなー！」「今日も元気かい？」朝起きてすぐハウスに出向きメロンに話しかける。それが毎日の日課だ。

私は幼い頃から自然が大好きで、家の農業も物心ついた頃から手伝い、自然と野菜に囲まれ育ってきた。私の両親は4町半の農地でダイコンを中心に野菜を栽培しており、幼い頃から手伝いをしてきた。父は特に土作りを大切にしている。化成肥料をなるべく減らすために裏作としてエンバクを栽培し、緑肥としている。また牛糞など有機肥料も多く取り入れている。そうすることにより肌のきれいな甘いダイコンが出来上がる。手伝いをしていく中で、収穫したダイコンはとてもおいしいと感じた。このことをきっかけに、もっとダイコン栽培を極めて、たくさんの人に自分の栽培したダイコンを食べてもらいたいと強く思うようになった。幼い頃からダイコン一筋だった私。そんな私がメロンと出会ったのは中学生の頃。「美味しかったあのメロンをもう一度食べたい！」そのような安易な考えから食べたメロンの種を鉢へ播き、栽培に挑戦してみた事があった。栽培は初めてで、露地の畑に植え替え挑戦したが知識も技術も何一つなく、雨によって果実が腐りとても悔しい思いをした。「やっぱりメロンなんてそう簡単に作れるものではない。」諦めかけたが令和5年の春、明野高校に入学したことをきっかけに急展開。野菜専攻で“温室メロン”を栽培していることを知った私は、情熱が燃え上がり「メロン栽培を教えて欲

しい」「本気でメロン栽培を学びたい」と先生に頼み込んだ。メロンの管理作業に積極的に参加させてもらい、栽培方法を1から学んだ。また、2年の夏休みには小俣町でメロン栽培をしている大西農園でインターンシップを経験し、収穫から出荷までの作業を体験した。栽培について話を聞く中で、特に灌水作業の重要性について深く学び、“灌水ひとつで果実の質が変わる”ことや“一人前になるには10年かかる”という言葉から農業の奥深さを改めて実感した。管理のひとつひとつが品質に直結する、繊細で根気のいる仕事であることを学んだと同時に、タイミングの大切さや野菜に対する気配りなど、すべてが高品質な農産物を作るために必要なのだと痛感した。また「メロンが今何を求めておりどのようにして欲しいのか見極める事が大事だ。まずはメロンと会話ができるようになる必要がある」ともアドバイスいただきメロン栽培の奥深さと面白さを実感した。

父に「もう一度メロン栽培に挑戦したい！」と申し出た。露地ではなくビニールハウスで栽培するため、父に教わりながらビニールハウスを建て、本格的なメロン栽培に挑戦した。毎朝起きてはすぐハウスに飛び出し様子を見に行く。灌水や芽かき、誘引……同じような作業にみえてもメロン達は1本1本違う顔をみせてくれる。朝から作業を行い時間がきたら学校へ行く。そして家に帰ってきたらまたハウスへ。いつ見ても違った顔を見せてくれるため管理していて本当に楽しい。「次はど

んな顔が見れるかな？」そうわくわくしながらハウスに向かい、メロンに話しかけながら、その日の作業をこなす。ついに、待ちに待った収穫の日。1玉1玉、傷つけないよう丁寧に収穫していく。追熟をさせたら完成！食べたメロンの味が忘れられず、もう1度栽培すると決めたあの日からやっとの思いで完成したメロン！口に入れたあの味は今でも忘れない一生の宝物だ。収穫したものは学校の先生方や大西さんにも食べてもらい、「とても甘かった」「1年目にしては素晴らしい出来栄えだ！」と好評をいただきとても嬉しかった。誘引や芽かきなど毎日の管理は大変だったが、自分で1から育て収穫し、食べて喜んでもらう。この“やりがい”こそが農業にはあり、今までで1番喜びを感じた瞬間だった。

さらに今年も夏のメロン栽培に挑戦した。良かった点や反省点を活かしつつ、試験区ごとに土づくりや灌水量を比較して挑んだ。また大西さんからは「昨年は上手く栽培できたが今年も同じとは限らない。天候も違えば気温も異なる。油断せず臨機応変に対応しないとイケないぞ！」と助言を受け、気持ちが引き締まりメロンへの情熱が一層強まった。自分なりに考え試行錯誤を重ねた結果、今年はネットが白くて細かい、とても立派なメロンを収穫することができた。その瞬間、努力が報われた。昨年度と同じ方々に食べてもらい、「昨年よりもさらに甘く質の高いものができたね！」「メロン栽培の腕をまたさらに上げたな！」と激励をいただき、大きな喜びを実感した。あの時の喜びは今も鮮明に覚えている。来年度からは販売に向けてさらに完成度を高められるよう励んでいきたい。父のように誰が食べても“美味しい”と笑顔になる野菜を自分も作り上げるのが夢だ。夢に向けて私の挑戦はまだまだ終わらない。「挑戦しなければ、成長もない」そう思うようになったのは、農業高校での学びや、数々の挑戦と向き合う中で自分が変わってきたからだ。そんな私が“農業の面白さ”を実感したのは高校1年の農業実習だっ

た。“農業と環境”の授業で、夏と冬の2期にわたり季節野菜を栽培した。トマトやナス、ダイコンなどを育てる中で、毎日の芽かきや灌水、追肥など、1つ1つの作業が確実に成果につながっていくのを目の当たりにした。野菜は正直だ。ごまかしが効かない。でもその分、手をかけた分だけ応えてくれる。私はこの“手応え”に魅了された。

令和5年の夏、意見発表三重県大会を終えた私は、父が言っていた「この地域では育たない」という夏のダイコン栽培に挑戦した。伊勢のような高温地域では栽培が難しいと言われている夏のダイコン栽培だが、「挑戦してみないとわからない」「管理さえ徹底すれば育てられるはず」と信じ、クラスの仲間と一緒に学校の畑を借り、試行錯誤を重ねた。寒冷紗を使った高温対策やストチュウトラップ、牛乳散布を用いた害虫防除、地温を抑えるための土壌の工夫。教科書にない挑戦の連続だった。けれど結果は失敗。それでも、仲間と共に目標に向かって取り組んだ時間は、何よりも貴重な経験となった。期待していたようなダイコンは育たなかったけれど、悔しいというより、不思議と清々しかった。自分たちで考え工夫し、動いた経験は失敗以上の価値を持っていたからだ。“失敗は、挑戦した者にしか得られない特権だ”この私の想いは、自身の行動を一層後押しするようになった。そして将来は、“夏はメロン、冬はダイコン”という二つの柱を中心に、伊勢の地から全国に自分の名前を広められるようなブランド野菜を作っていきたい。目指すのは、“誰かと同じ野菜”ではなく、“自分にしか作れない野菜”。

日々野菜と向き合い、変化に気づき、丁寧に、誠実に、野菜と会話をする農業を私は続けていきます。私は将来、父を超えるつもりです。挑戦の先にこそ自分の未来がある。そう信じて私はこれからも、野菜と真剣に向き合い続けます。

ダイコンと言えば三重県。三重県のダイコンと言えば・井ダイコン。そうなるよう、まずは伊勢の地からコツコツと…………。

苦手とにらめっこ

三重県立伊勢工業高等学校
機械科 3年 橋野 心子

「かっこいい！」誰もが、ブルーインパルスの特集番組を見ると、選ばれたパイロットの飛行技術の凄さにこう思うのですが、私はこの番組に映っていた女性整備士（鈴木里穂さん）を見て「かっこいい！」と思ったのです。

中学生で進路を決める大切な時期であった私は、「女性であることで男性よりも劣っている部分が沢山あるのではないだろうか」と不安に思うことがあり、高校進学の方角性を見失っていました。

しかし、女性であっても整備士の仕事に就いて、国を守るため戦闘機を整備している女性がいることを知り「かっこいい」だけじゃ収まりきらない高揚感を覚えました。私は、女性は力や体力が必要な仕事には向いていないと思い込んでいたことに気がつきました。

ただそのかっこよさに憧れ、私は、「将来は戦闘機の整備士になりたい」と考えるようになりました。正直、女性である私がほぼ男子校である工業高校に入って上手く高校生活を送っていけるのかという、漠然とした不安がありましたが、そんな不安よりも、鈴木里穂さんのような女性整備士になりたいと思う憧れの方が強く、この憧れが私の進学先を工業高校へと導いてくれました。

最終学年を迎えた今、工業高校生活を振り返ると、幾つかの経験が私を成長させてくれたのだと思ひ返されます。

入学して直ぐ、心配していたとおりに非力や体力の無さから、実習等で何度かミスをしてしまう

ことがありました。その度に、こんなについていけない私が、戦闘機の整備士になれるのかと不安が膨らみました。そこで私は、自分の夢を諦めないために、勉強や資格取得だけではなく自分出来る活動や取り組みなどを精一杯頑張ろうと決めました。

最初に、危険物取扱者乙種第4類免許を取得することを目標にしました。しかし、1度目の受験では、不合格になってしまい、資格取得の難しさを痛感し、分からない所は分かる人に積極的に聞いたり、自分の勉強方法を見直したりと試行錯誤し2回目の受験で合格しました。

自分が決めた目標に向かって決して諦めないことが大切なのがベースで、勉強方法を工夫したり、自分が苦手だなと感じていることをあえて積極的に知ろうとしたり挑戦してみたりすることが、自分にとって強みになることを知りました。

また、この時に積極的に話しかけたことで、コミュニケーションは簡単にとれるのだと壁がなくなった気がしました。

次に私は、小さい子供が少し苦手です。だから「体験講座の補助として参加してみないか」と先生から誘われた時に、すぐに「参加します！」とは言えませんでした。しかし、自分が「苦手だ」と感じていることに挑戦することは、「自分の強みになる」ことを資格勉強で学んでいたもので、1度挑戦してみようと思ひ参加することにしました。

体験講座に参加して子供たちと話をしたり、作

り方の説明をしたりして、とても有意義な時間を過ごすことができました。体験講座終了後、先生から「お疲れ様」と声をかけていただきましたが、疲れよりも、子供たちと話せたことが楽しく、「子供って可愛いな」と思っている自分に気づきビックリし、とても良い経験をしたと思いました。

この体験から、子供に対する苦手意識が少し和らぎ、次の体験講座に誘われた時にはすぐに、「参加します」と返事ができ、同時にその体験講座をちょっとだけ楽しみにしている自分がいることに驚き、人ってこんなにも変わるのだなと感心しました。

極めつけが、高校生ものづくりコンテスト溶接部門への挑戦です。私の中では1番考え方が変わり、「成長した」と思える経験です。

最初、「この大会に出てみないか」と言われたとき、正直出来るか不安でした。もっと言えば出場することに対して、少し後ろ向きの感情さえ持っていました。

何故なら、3年生機械科の女子は2人しかいません。昨年、この大会にもう一人の女子（瀬田琴音さん）が2年生で出場し、県2位の結果で東海大会出場という成績を残しました。ただでさえ難しい溶接の大会で、しかも3年生の出場者が多かった中で、県2位という成績を残した彼女は、本当にすごいなと思いました。

そんな彼女の後に私が出場して、しかも先生からは「県2位を超えて1位を狙おう」と言われ、とてもじゃないけど無理だと思ったのです。

しかし、先生に参加を勧められ、不安もありましたが、「苦手」と感じていることに挑戦する。この考えを持ち続けていた私は、参加することを決意しました。

私には昔からのモットーがあります。それは、「やると決めたら全力で取り組む」です。やるからには、県1位を取り東海大会に出場することが「無理」から「目標」に代わりました。

私はその大会へ向け時間が許す限り、放課後に

練習し、春休みも練習を重ねました。

「新しいノートを1冊用意してくれ」最初の練習を始める前に先生から言われた言葉です。「え、なんで？」と最初は疑問に思いましたが、その理由は1回目の練習を終えてすぐに分かりました。それは、練習のたびに内容を振り返り、反省や感想をノートに書く宿題が課せられたからです。

最初、この宿題は私にとって億劫でしかありませんでした。しかし、反省をしっかりと文字に起こして整理していくことで、自分では気付くことの出来なかったことに気づけたり、今何が出来て何が出来ないのかを知れたりし、現状を把握することができました。このノートのおかげで、自己分析をして次の課題を見つけて練習できていることを知りました。このノートを書かなければ、自分のことは分かっているつもりになってしまっている自分がいることに気付きませんでした。

結果、目標には届かずすごく悔しかったです。しかし、「頑張ってたよかった」と感じている自分があります。

私は、「高校生活3年間で成長した」と胸を張って言えます。高校入学前は、挑戦することを好まず、不安になることを恐れていた私が、今は初めてのことに挑戦し、不安なことや苦手だと感じることに「前向きに向き合っていきたい」と感じていて、その挑戦から自分が何を得たのかを振り返ることが大切だと学べたからです。

私は今年、三菱重工業（株）名古屋航空宇宙システム製作所の就職試験を受けます。

三菱重工業の仕事内容は、航空機、宇宙機器、制御機器、飛昇体の製造・修理に直接従事するというもので、求人票を見たときに「これだ!」と思いました。戦闘機の整備ではありませんが、航空機に関わる仕事です。この仕事に就けたときには、挑戦することを躊躇せず、不安に思うことや苦手だなと感じることに前向きに向き合い、将来は、鈴木里穂さんのような「かっこいい」と思ってもらい、目標にしてもらえる女性になります。

商業が与えてくれた夢

三重県立宇治山田商業高等学校

国際科 3年 森本 陽菜

私の将来の夢は、経営コンサルタントになることです。経営コンサルタントとは、簡単にいうと会社や組織の経営に関する課題を見つけて、解決するためのアドバイスやサポートをする専門家のことです。この夢を持ったきっかけは、2年前に商業高校に入学してたくさんの経験を経て、商業がどういういったものかを知ったことです。

商業高校に入学する前は、看護師になることが夢でした。幼い頃から医療ドラマを見て感銘を受け、人を救う職業の素晴らしさに惹かれていました。医療に関することは大学進学後に学ぶつもりで、これからは英語の話せる看護師の需要も多くなるかなと思い、当時英語が得意だった私は英語に特化した授業の多い国際科があることを重視し、宇治山田商業高校に進学することを決めました。英語を重点的に学ぶことで普通科の高校を卒業する子たちと比べて強みを持つと考え、日々オールイングリッシュの英語の授業に精進していました。

しかし、蓋を開けてみると英語と同じくらい商業の授業が多く、日常の家庭学習は簿記の復習をすることで精一杯でした。週に6単位も簿記の授業があり、その他にもビジネスコミュニケーションやビジネス基礎など商業科目の多さに驚いたのを覚えています。今思えば商業高校なので当たり前ではありますが、義務教育で学ばなかった「商業」の奥深さを知りました。英語の授業ももちろん頑張っ

てはいましたが、クラスメイトも英語が得意な子が多く、自分の英語力への自信が少しずつ欠けていくのに思うように英語の学習時間を作ることができず、やりきれない気持ちでいっぱいでした。

そんな私に「商業」の面白さを教えてくれ経営コンサルタントという夢を持たせてくれたのは、専門高校特有の「課題研究」という授業です。私たちの学校では3年次に「課題研究」という授業を全学科混合で複数の講座に分かれて受けます。そして、3学期に3年生の先輩方が「課題研究」の成果発表を全校生徒を前に行う機会があります。1、2年生はそれを見学して、「課題研究」という授業でどのようなことをするのかイメージします。1年次に聞いた成果発表で私は東北大学の三橋教授と出会いました。三橋教授は「美食地政学」という独自の観点から地域が抱える食と環境の問題を解決するプロジェクトを行っている方で、当時の3年生の先輩方とは未利用魚のアイゴを使ったナゲットを作っていました。成果発表に加えて「美食地政学」のプロジェクト概要の説明もあり、山商のOGでもある三橋さんは簿記を学ぶことの大切さも教えてくれました。また、「美食地政学」のプロジェクトでは学生が積極的に行動を起こしやすく、地域の事業者さんによるサポートも手厚いため、私は1年次に成果発表を聞いた後すぐに、3年生になったら「美食地政学」の課題研究を選ぶことを心に決めました。3年生になり、私は課題研究の講座選択の際に「商品開

発」という講座を選びました。この講座は、講座内で大きく2つの班に分かれ、そのうちの1つが「美食地政学」の班だったので私は迷わずそちらを選択しました。以前から期待を寄せていたこの授業で、先輩方のように地域の課題を解決できる商品を開発できることはとても楽しみでした。年度初めの授業で三橋教授から現在問題になっている食材について教えてもらいました。そこでは、磯焼けの原因になっているアイゴ、ウツボに加え、麦芽粕が問題になっていると知りました。そもそも麦芽粕という単語を初めて聞いた私は、麦芽粕がどんなものかを調べることにしました。すると、麦芽粕とはビールの醸造過程において残る麦芽の絞り粕のことで、食材として再利用できるものの保存が困難だったり匂いや味が独特なため大量に廃棄されていることがわかりました。食べられるのに捨てられてしまう。この現実を知り、多くの人にこの現実を知ってもらいたいと思い、麦芽粕を使って商品開発をすることにしました。そして、日々の授業の中でグループディスカッションを重ね、麦芽粕を使ったチャンククッキーを作ることに決めました。なぜチャンククッキーにしたのかというと、クッキーなら特殊な機械が不要で多くのお菓子屋さんに製造を依頼しやすく、材料も身近な場所で揃えられるため作業コストも抑えられるからです。商品開発の講座での最終目標は店舗で商品を販売することです。そのため、グループディスカッションの時点でいかに利益を出すのか、原価はいくらくらいになるのか、人件費・光熱費はどのように算出するのかなど、自分たちが今まで簿記の授業で何気なく学んでいたことを実際に考えなければなりません。しかし、このことが私が経営コンサルタントという夢を目指すきっかけになりました。実際に自分たちでレシピを考えたり、試作をして原価を算出したりする中で、「したいこととできることは違う」ということを身に染みて感じました。どうすれば利益が出るのか、また他の競合との差別化をする

にはどうすればいいのか。そのように考えていくうちに、企業の経営戦略を考えることが自分に向いているのではないかと思うようになり、経営コンサルタントという職業を目指そうと考え始めました。

現在、商品開発の授業では一度目の試作を終え、改善策を話し合っています。最終的にはレシピを確定させ、事業者さんの力を借りて商品販売できたら良いなと思っています。そして、将来的には「課題研究」がきっかけで志した経営コンサルタントになって経営者の観点から企業が行いたいことを踏まえ、なおかつ地域の課題も解決できるようなビジネスプランを提案できるような人材になりたいです。このような夢を持つことになったのも、数ある学校の中から、高校生から商業科目を学ぶことができる商業高校を選んだからだと思います。

将来の夢とこれからの自分 ～子どもたちの笑顔と成長を支えるために～

三重県立四日市農芸高等学校
生活文化科 3年 中原 聖菜

子どもたちが「また明日も来たい！」と思える保育園。そんな場所をつくる保育士になることが、私の夢です。子どもたちが安心して過ごせる環境を整え、笑顔を引き出し、ひとりひとりの成長に寄り添う、そんな保育士の姿に、私は強く憧れています。保育園は、子どもたちにとって初めての集団生活の場であり、社会とのつながりを学ぶ大切な場所です。だからこそ、保育士は子どもたちの心に寄り添い、信頼される存在であるべきだと感じています。

私が保育士を目指す理由は三つあります。まず一つ目は、幼い頃に通っていた保育園の先生に憧れたことです。将来の夢について考えたとき、真っ先に思い浮かんだのが保育園の先生でした。小さい頃の記憶で曖昧ではありますが、泣いている時や一人である時に、いつもそばにいてくれた先生の優しさは今でも心に残っています。一緒に泥団子を作ったり絵を描いたり、何気ない会話まで私にとって大好きな先生との大切な思い出です。

「今日は保育園に行きたくないな」と思う日もありましたが、その先生のおかげで楽しく通うことができました。そんな先生のように、子どもたちが毎日笑顔いっぱい楽しく通える保育園をつくりたいという思いが、私の夢の原点です。

二つ目は、子どもが好きだからです。私は小さい頃から子どもが大好きで、無邪気な笑顔や小さな手で一生懸命何かをしようとする姿を見ると、とても心が温かくなります。一緒に遊んだり、お

世話をしたりする時間に、幸せを感じてきました。子どもたちの笑顔や成長していく姿を見ることが、何よりの喜びです。そんな子どもたちの大切な時間に深く関わることができる「保育士」という仕事に強く魅力を感じています。一人ひとりの個性を大切に、安心して過ごせる環境をつくりながら、子どもたちの成長をそばで支えていける保育士になりたいと思っています。

三つ目は、保育実習を通して保育するというところにやりがいを感じたからです。実習に行く前は、「保育士の仕事は子どもと楽しく遊ぶこと」というイメージが強く、明るく元気に子どもと接することができれば良いと思っていました。しかし、保育実習やインターンシップで実際に保育の現場に立ち、多くの子どもたちや保育者と関わる中で、その考えは大きく変わりました。子ども一人ひとりの性格や発達段階を理解し、その子に合った関わり方を考えることが重要だと知りました。

特に印象に残っているのは、ある子どもが少しずつ私に心を開いてくれた瞬間です。最初はなかなか話してくれなかった子が、少しずつ笑顔を見せ、最後には「もっと遊びたい」と言ってくれた時、胸が熱くなりました。また、高校二年生の時、「赤ちゃん先生」という授業を受け、0歳5ヶ月の赤ちゃんと約半年間、三回に分けてふれあいました。初めは泣いているか寝ているかのどちらかでしたが、次に会った時には首がすわり、寝返りができるようになっていたり、機嫌が良い時など

に発する「あー」や「うー」などのクーイングや「あーうー」などの喃語、手足をバタバタさせる動きなど、成長を間近で感じることができました。その変化に感動し、子どもの成長を支える仕事の尊さを実感しました。

現在、私は生活福祉コースの三年生として、実習を中心に学んでいます。地域コミュニケーションという授業では、五月から地域の学童保育所や保育園に行って実習を行いました。そこでは、二年生で学んできた基礎的な知識や技術を、それぞれの実習先でどのように生かすかが重要であると気づきました。

例えば、学童保育所へ実習に行ったときには、クイズを○×形式に作りました。すると子どもたちが答えやすかったようで、大変盛り上がりました。しかし、工作をした時には、その日の課題が低学年の子どもにとって少し難しい場面もありました。小学一年生から六年生までの幅広い年齢の子どもたちがいるため、学年に関係なく楽しめる内容を考えることは難しいと改めて実感しました。

次に、保育園の実習では、「水分とった?」「帽子持った?」と積極的に声をかけたり、子どもたちが怪我をしないように落ちているおもちゃを見つけたらすぐに拾って元に戻すということを意識し、外でも中でも安全に過ごせるように気をつけました。また、学童保育所で使ったクイズの問題をひらがなに変えて活用しましたが、ただひらがなにするだけでは分かりづらいことに気づきました。問題文の書き方や伝え方を工夫することの大切さを学びました。

さらに、子育て支援の場である「すくすくサロン」では、乳幼児の子どもたちとふれあいましたが、絵本の読み聞かせや手遊びを披露したときに、緊張で声が小さくなったり、子どもと会話する際に視線を合わせることを忘れてしまったりと、大変苦戦しました。自分の未熟さを痛感した実習でした。

このように、実習では二年生での学びを生かせ

たこともありますがすべてが順調に進んだわけではなく、実習後の反省会で多くの改善点が見つかりました。そこで、どうすれば子どもたちが楽しんでくれるのか、学校の先生や実習先の保育園の先生、短期大学の講師の方々から多くのアドバイスをいただき、友人と一緒に、授業中や休み時間、放課後を使って、何度も練習に励みました。そのおかげで、次の実習からは子どもたちと一緒に活動を楽しむことができました。

また、実習を通して、保育士という仕事は子どもだけでなく、保護者や地域の方々との信頼関係を築くことも大切だと感じました。保護者の方が安心して子どもを預けられるように、日々の様子を丁寧に伝えることや、子どもの小さな変化に気づく観察力が求められます。そうした信頼関係は、保護者だけでなく地域の人たちとのつながりにも広がっていくと感じました。子どもたちがのびのびと育っていきけるような環境づくりに、私も積極的に関わりたいと思いました。

こうした高校での学びを通じて、子どもたちが安心して楽しく活動できるように、自分自身が事前の準備や伝え方を工夫することの重要性を実感しました。保育士は子どもたちの未来に関わる大切な仕事であり、深い知識と確かな実践力が必要です。これからも学んだ経験を生かしながら、保育士になるために必要な力を身につけ、子どもたちの笑顔と成長を支え、信頼される保育士を目指して努力を続けていきます。

海と共に学び成長する日々

三重県立水産高等学校

海洋・機関科 3年 植田 愛夢

私の出身は奈良県で、海のない地域で育ちました。だからこそ、小さいころから「海」に対する興味が強くありました。広くて、深くて、美しい海を、もっと知りたい、もっと近くで関わりたいと思うようになりました。進路を考える時、自分にとって何が大切かを考えました。私は勉強があまり得意ではなく、普通科で毎日机に向かう高校生活は自分には向いていないと感じていました。だからこそ、好きなことを学びたいという気持ちを大切に、水産高校を志望しました。自分の「好き」を学びにできる場所がここだと信じて、奈良から海のある志摩へ進学する決断をしました。親元を離れての下宿生活は、初めての経験で不安だらけでした。家事はうまくできるのか、友達ができるのか、勉強についていけるのかなど、心配なことばかりでした。しかし、それと同時に、自分で考えて決めた道であり、絶対にやり抜こうという覚悟と、好きなことに向き合えるという期待で胸がいっぱいでもありました。

クラスには女子が私を含めて二人しかおらず、最初は緊張しましたが、先生やクラスメイトたちが優しく接してくれたおかげで、すぐに環境に慣れることができました。一年生の時には、エンジンの仕組みや漁業、水産に関する基礎的なことを学びました。普通の高校では経験できない内容ばかりで、とても新鮮で興味深かったです。さらに、二泊三日の短期航海も行われました。機関室、船橋の見学や、ロープワークなどを行いました。実

際に船に乗って過ごし、海の上での生活を体験することで、教科書だけでは学べないリアルな知識と経験を得ることができました。

二年生になると、海洋コースと機関・工学コースに分かれて学ぶこととなります。私はマリンスポーツに興味があり、より広く海に関わりたと思っていただけ、海洋コースを選びました。海洋コースでは、スキューバダイビングの実習や30日から40日間にもわたる長期航海実習が合わせて二回あります。

スキューバダイビング実習では、最初は器材の使い方すらわからず、水中で呼吸をすることにも緊張していました。しかし、何度も潜っていくうちに、水中での動き方や、耳抜きタイミングなど、技術を少しずつ身につけていくことができました。知識だけでなく、実際の体の感覚や危機管理能力も必要だということを身をもって学びました。

長期航海では、瀬戸内海、伊勢湾、東京湾など、さまざまな海域を航路見学や四時間ごとに交代で行う航海当直、カツオの一本釣りの操業など、実際の船員と同じような仕事を体験し、船の運航に関する幅広い知識と技術などを学びました。初めての航海実習では、慣れない船内生活や船酔いに苦しむこともありましたが、そういった困難を乗り越えるたびに、自分の成長を実感することができました。航海実習の中で、パラオにも行き、パラオ高校との交流を通じて現地の文化に触れたり、

ミルキーウェイなどでの、スキューバダイビングやシュノーケリング、プライベートビーチで色とりどりの魚たちを見たりと、日本では味わえない経験をすることができました。その帰りにも沖ノ鳥島を見ることができたのは、とても貴重な体験でした。人生の中で何度も見られる場所ではないため、その景色は一生の思い出です。寄港地として東京に立ち寄った際には、仲間たちと一緒に観光し、思い出をたくさん作りました。また、静岡県焼津市では、操業実習で漁獲した魚を水揚げし、温泉に入ることでもでき、心も体も癒されました。こうした体験を通して、クラスメイトとの絆が深まり、団結力も高まりました。今では、互いに支え合える大切な仲間たちです。

さらに実習を通じて、私は「ただ好きなだけではダメなんだ」ということを感じました。海は美しいだけではなく、時に危険もあります。その中で働く人たちは、知識・技術・体力・判断力すべてを使って、命をかけて仕事をしているということに改めて実感しました。私もその厳しさや尊さに触れることで、ますますこの分野で学ぶことに誇りと責任を感じるようになりました。

現在、三年生となった私は、実習でスキューバダイビングやサーフィン、さらに多くのマリンスポーツや、小型船舶の操作など様々な事を学んでいます。進路もだんだんと具体的になってきました。水産高校では、小型船舶やスキューバダイビングの資格など、さまざまな資格を取得することができます。卒業後は、海技士などの様々な資格をとり、航海士、漁師、潜水士など、海に関わる多様な職業に進む人が多く、それぞれが夢に向かって努力を続けています。

私自身は、そうした「海の仕事」に直接関わる人たちを支える立場で働きたいと考えるようになりました。私は海が好きなので、その海を守り、地域を支える仕事がしたいと思うようになり、市役所で働くことを目指しています。志摩という地域を、そして海とともに生きる人々を、支えられ

る存在になれるよう、これからも努力を続けていきたいです。

水産高校で過ごした日々は、決して楽なことばかりではありませんでしたが、どれもが今の自分をつくる大切な経験でした。好きなことを学ぶ喜び、自分の力で選んだ道を歩む覚悟、仲間と支え合いながら成長する充実感そうしたすべてが、私の将来に向けた大きな力になっています。この高校で学べたこと、大切な人達に出会えたこと、本当に感謝しています。これからも海のまちで、人と自然をつなぐ存在を目指し、水産高校で得た学びを、自分の仕事にしっかりと活かしていきたいと思います。

患者さんの言葉が教えてくれたこと

三重県立桑名高等学校

衛生看護科 3年 豊住 優里奈

「看護師になりたい」と夢を持ってから、二年が過ぎました。看護の勉強は難しくて、思うようにいかないことも多いけれど、それでも私はこの道を選んで良かったと思っています。今回の二週間の病院実習は、そんな気持ちを改めて感じさせてくれるような経験になりました。

実習先は急性期混合病棟で、誤嚥性肺炎や尿路感染症、胆管炎などで急に入院される患者さんが多く、病室の環境も多床室・個室・観察室と、患者さんの状態によって細かく分けられていました。そんな病棟の中で、私はたくさんの看護を見て、感じて、学ぶことができました。

最初はやっぱりとても緊張していました。特に、患者さんとのコミュニケーションは自信がなくて、言葉をかけるタイミングや話すスピード、声の大きさなど、どうすればいいのかわからなくて戸惑うことが多かったです。高齢な方なため耳が遠く、会話が續かないと落ち込んでしまうこともありましたが、でも、うまく会話ができたときには患者さんも会話を楽しんで笑ってくれました。そこからは、相手の口の動きを見ながら話したり、反応をよく観察したりして、少しずつですがコミュニケーションが取れるようになりました。

清拭や手浴・足浴などの援助にも挑戦させてもらいました。最初は手順や道具の準備に手間取ってしまって、患者さんに不快な思いをさせてしまったこともありましたが、そのとき、看護師さんが「準備の段階から、もう看護は始まっているんだよ」

と教えてくれたことがとても印象に残っています。それからは、援助の目的や患者さんの気持ちを考えながら、準備や声かけを丁寧に行うように心がけました。足浴をしたときに、患者さんに気持ちが良いか尋ねると笑顔で頷いてもらえて、そのとき自分の看護が患者さんの役に立てたんだと実感することができました。

私が受け持たせてもらった患者さんは生活リズムが夜型になってしまっていた患者さんでした。その方は、髪型や服装にとってもこだわりがある方で、入浴をしたあと、髪を乾かすときに自分で髪分け目を決めていたりするのを見て患者さんに一人ひとり個性があることを感じました。また、昼寝をしないように日中に声をかけて話をすると、次の日、夜はぐっすり眠れたか患者さんに聞いたときに頷いてくれたことがうれしくて、「看護は生活の質を支えることなんだ」と実感しました。

バイタル測定では、ただ数値を測るだけでなく、その意味を考えることが大切だということも学びました。私は初めてバイタル測定をしたとき、血圧を測った後にすぐ記録に意識が向いてしまって、正常値だったこともあり患者さんの体調をしっかりと確認しなかったことがありました。そのことを反省してからは、測定値の背景にある身体の状態や変化にも目を向けるようになりました。正常値かの判断だけでなく患者さんの体調や状態に気づく力を、これからもっと身につけていきたいです。情報共有の大切さも、今回の実習で改めて感じま

した。看護師さんたちは、医師や薬剤師、理学療法士さん、栄養士さんなど、いろんな職種の人たちと連携して患者さんのことを考えていました。患者さんがどんな生活を送っていたのか、どんな性格なのか、何に困っているのか、そういったことをみんなで共有して、その人に合った看護やケアをしていることがわかりました。私もその輪の中に少しだけ入れてもらえて、「チームの一員」としての看護のあり方を学ぶことができました。

リハビリでは、立ち上がって歩くことができた患者さんが「立ったら景色が違って見える」と言って、すごく嬉しそうにしている姿を見ました。病室に貼ってあった季節の飾りを見て「こんなのがあったんだ」と話している姿を見て、回復することの喜びを肌で感じることができました。

二週間の実習の中では、できなかったことや反省点もたくさんありました。例えば、ベッドメイキングのとき、動きがぎこちなくて時間がかかってしまったり、役割分担がうまくできなかつたりしたこともありました。でも、それらをひとつずつ振り返って、「どうすればもっとよくできるか」を考えることが、今の私にとって大切な学びだと感じています。

そして、患者さんの言葉で忘れられないのが、「ほんとうにあなた達は良くしてくれる」という言葉です。たった数日の関わりでも、誰かの心に残ることができる看護師という仕事のすごさと、そこに込められた信頼の重さを感じました。

実際の患者さんと関わる中で、教科書で学んだことを実習でしっかり活かせることができました。援助をする時の体位の工夫や声かけの大切さ、清潔を保つことがどれほど患者さんの心と体に影響を与えるのかを、目の前の患者さんから学ばせてもらいました。とくに、患者さんの「こうしてほしい」という思いや、何気ない表情の変化に気づくことの大切さを実感しました。また、反対に授業で習うことだけでは看護の現場の半分も理解できていないなと思い、実習をすることの大切さも

感じました。

今回の実習で、私はまた一步、看護師という夢に近づけた気がします。まだまだ足りないことばかりで、うまくいかないことの方が多けれど、それでも「誰かの力になりたい」という気持ちを忘れずに、これからも前に進んでいきたいです。

患者さん一人ひとりの生活や思いに寄り添えるような、そして、看護師さんがいてくれてよかったと思ってもらえるような看護師を目指して、今自分にできることをコツコツと積み重ねていきたいと思います。この2週間の実習を通して技術面の未熟さを痛感した一方で、看護の本質に少しだけ触れることができた気がしています。患者さんの「ありがとう」の言葉や笑顔が、どれほど私の心を支えてくれたかを思うと、看護師は人の心に関わる仕事なのだと改めて感じました。これから先も、迷ったり立ち止まったりすることがあると思います。でも、そんなときこそ今回の実習を思い出して、初心の気持ちを大切にしながら、一歩ずつ前へ進んでいきたいです。

総合学科の学びから描く未来

三重県立いなべ総合学園高等学校

総合学科 3年 桑原 陸

私の将来の夢はスマートフォンのモバイルゲームを開発することです。中学生の頃からゲームを通じて、多くの人が楽しさや感動を共有しているのを見てきました。自分自身もゲームに夢中になるうちに、人々に笑顔や感動を届けるゲームを創りたいと強く考えるようになりました。その中でも私は単に遊びとしてのゲームではなく、学びや人との繋がりを生み出せるような作品を創りたいと考えています。日常生活の知識をエンターテイメントに取り入れた、実用性と楽しさを兼ね備えた作品を生み出すことが目標です。年齢や国境を超えて人々が繋がり、愛される作品を創る。そのような未来を実現するためには、プログラミングの知識など確かな技術力を身に付けることはもちろん必要です。しかし、それだけではなく、ゲーム作品を豊かにするために必要なプログラミング以外の様々な知識や見方、チームで作品を創り上げる協調性も必要です。私はこれらの力をいなべ総合学園高校の総合学科ならではの学びを通して身に付けることができました。

私が通っている三重県立いなべ総合学園高等学校には6つの系列があり、1年次に自身の進路にあった系列を選択することができます。私は将来の夢のために、高校では情報分野を学びたいと考えていました。しかし、系列を選ぶ際、私は情報分野に特化した情報ビジネス系列ではなく、理系分野に特化した自然科学系列を選びました。理由は、情報の科目に加え、幅広い教科を選択することができたからです。情報の科目だけに偏るのではな

く、総合学科という特徴を活かして幅広い分野を学び、自分の視野を広げたいと考えたためです。

実際に、自然科学系列を選んだからこそプログラミングといった情報に関わることと数学や物理といった理系科目を同時に学ぶことで、プログラミングだけを学んでいては気づけなかった視点を持つことができました。例えば、数式を使ったプログラムを作る際、数学の知識がそのまま役に立ち、情報科目と理系科目の繋がりを強く感じました。こうした体験からプログラミングにおいて単にコードを書くだけではなく、幅広い知識を組み合わせることで解決方法が生まれるということに気づくことができました。これらの学びから、ゲーム作品を豊かにするために必要なプログラミング以外の様々な知識や見方を身に付けました。

もちろん、プログラミングの知識やチームで作品を創り上げる協調性も自然科学系列を選択したことで学ぶことができました。特に「情報システムのプログラミング」という授業では身を持って実感しました。授業の一環として、チームごとに分かれて課題に取り組む共同制作があります。主にPythonやVisual Studio Codoといったソフトを使い、制作します。情報の分野に興味はあったものの、取り組む内容は初めての経験がほとんどでした。私は簡単なコードを書くだけでもつまづくことが多く、チームの力になれるか不安でした。同時に世の中の機械やアプリケーションはより複雑で高度なプログラムによって動いているのかと実感しました。そのような時、同じ班の仲間や先生方が

丁寧に教えてくれました。特にプログラムが得意な友人は、エラーの原因を一緒に探してくれたり、正しい書き方を教えてくれたりしました。自分1人では解決できなかった問題も、仲間と協力することで乗り越えることができたのです。それでも、プログラムが思うように動かず、何度もエラーが出てしまう時がありました。悔しくて何度もプログラムを書き直し、仲間と共に試行錯誤を重ねてようやく課題通りに動いた時には大きな達成感を味わうことができました。その瞬間、プログラムを動かすことは苦勞する分だけ面白いということに気づくことができました。このような授業での体験を通して、技術力と協調性を身に付けていきました。

協調性と同時に、ゲーム制作者にとって重要な利用者の立場に立って物事を考える力も身に付けることができました。どれほど完成度が高いゲームであっても、利用者が楽しさや魅力を感じられなければ意味ありません。自然科学分野で学んだ「仲間と協力することの大切さ」は、まさにユーザーの視点を養うための貴重な学びでした。チームでの共同制作は、自分の考えを伝えるだけでなく、仲間の意見にも耳を傾けることで、1人では思いつかないようなアイデアや、より良い解決策が生まれることを実感しました。これは、将来、ゲーム開発をする際に利用者の様々なニーズや完成を理解し、寄り添うための基盤となるはずです。

他にも技術力を身に付ける上では、特筆した授業として、「IVY タイムⅡ」を挙げることができます。いなべ総合学園高校では3年次に自分の興味や関心に合わせて探究活動を行う「IVY タイムⅡ」という名前の「総合的な探究の時間」があります。この時間には、自らテーマを設定する自主設定テーマと、学校側が指定した特定の目標に向かって学ぶ学校設定テーマの2つがあり、私は後者の学校設定テーマを選択しました。なぜなら、このテーマはIT業界に入る上で必ず役に立つスキルであるワープロ検定の合格を目指すためのカリキュラム

が含まれているからです。コンピュータで文字を速く、正確に入力する力や、効率的な文章作成能力はプログラマーとして働く上で、きっと必要不可欠な基礎力になると考えました。もちろん、自分でテーマを見つけて深く探究する自主設定テーマにも魅力を感じましたが、将来の目標に直結する確実なスキルを身につけることを優先したかったのです。プログラミングの授業で学んだ基礎的な知識があったからこそ、新しいことにも積極的に挑戦する意欲が湧いたのだと思います。

現在は、検定合格に向けて日々練習を重ねています。最初は指が思うように動かず、時間内に正しく打ち直すことができませんでした。しかし、練習を重ねることで正確性が増し、次第に速さも身についてきました。タイピング能力は、一見地味に思えるかもしれませんが、プログラムを組む際に欠かせない基礎力であり、集中力や忍耐力も練習を通して養うことができたと感じています。検定合格は1つの通過点に過ぎませんが、IT分野で活躍するための大きな1歩になると考えています。

このような自然科学系列で学んだプログラミング知識や技術、様々な学びを通して身に付けた知識・見方、仲間と協力して1つのものを創り上げた経験をさらに深めたいため、高校卒業後は専門学校に進学したいと考えています。より専門的な分野を学び、技術を身につけたいです。専門学校では自分よりも技術や経験を積んだ人がいると思うので、交流を通して知識を深め、さらに自分の視野も広げたいです。そして、将来の夢であるモバイルゲームの開発に繋がりたいと考えています。

私はいなべ総合学園高校で幅広い分野を学び、仲間と協力して挑戦を重ねてきたからこそ、自分の将来を具体的に描けるようになりました。このような経験は専門学校でさらに成長するための大きな土台となり、かけがえのない財産にもなると思います。これからも自分の夢に向かって努力を惜しまず、仲間と共に新しい価値観を生み出しながら、夢の実現に向けて努力していきたいです。

あの頃の私と今の私

三重県立明野高等学校

福祉科 3年 阪本 明優

私が福祉に興味を持ったのは、中学3年生の頃に父方の祖母がパーキンソン病になったことがきっかけである。最初はパーキンソン病自体どういった病気なのかも知らなかった。だが病気が進行するにつれ、だんだん動くのが遅くなり、話すのもしんどそうになっていく姿をみて、「パーキンソン病」とはこういうことなんだと実感した。それまで元気だった祖母が、家の中でも転びそうになる姿、車のドアを開けるのに苦戦する姿を見るのは、けっこうショックだった。でも一番悔しかったのは、何もできない自分だった。「大丈夫?」「手伝うよ」と声をかけるだけで、本当に助けられているのか分からない。そんなもどかしさを感じた私は、自然と「福祉」について調べるようになり、段々と福祉の特に介護について興味を持つようになった。だから福祉科のある高校を選び、今では介護や障害福祉についていろんなことを学んでいる。授業やボランティアを通して思うことは、福祉の仕事は人間らしいということだ。もちろん大変だし、体力も必要だが、誰かの「ありがとう」や「笑顔」が心にととも残る。実際に福祉施設で実習をした際、「あなたと話す元気になるわ」と言ってくれた利用者さんの言葉は、今でも忘れられない。だが、現場で働く職員の方たちの話を聞いた際、「人手が足りない」「給料が低くて続けづらい」「夜勤が多くてしんどい」など、課題もたくさんあることを知った。現在祖母の通っているデイサービスでも、若い職員がどんどん辞めており、

半年後にはデイサービスを閉めるらしく、叔母は新しい施設を探しているそうだ。こんなに必要とされている仕事なのに、なぜもっと社会から支えられないのだろうか?そんな疑問を持つようになった。私は「福祉は人の幸せを支える仕事」だと思っている。だが、その福祉を支える人たちが疲れきっていたら、本末転倒だと思う。もっと安心して働ける環境をつくるためには、福祉を“産業”として育てる視点が大事なんじゃないかと考えるようになった。私は「福祉を支える人たちの環境を良くすることこそが、地域の産業を元気にすることなんじゃないか」と思うようになった。介護や福祉の仕事は、これからますます必要になるが、きつい・人が足りない・給料が低いというイメージがまだ強い。だが、それを放っておくと、福祉サービスを受けるお年寄りや障がいのある人が困るのはもちろん、地域そのものが元気を失ってしまうと思う。

私は、福祉の現場にもっと地元の企業やテクノロジーが入ってくるべきだと考えている。たとえば、私の町にある機械部品の工場が、介護用のリフトや歩行器のパーツをつくったらどうだろう。今ある技術を福祉の道具に活かせば、工場も新しい商品が製造でき、介護の現場も助かる。一石二鳥だと思う。介護現場の困りごとを地域の産業で解決していくことが、福祉の未来を支えることになると思う。さらに、働く人が少なくなる中で、介護の職場にITやロボットを取り入れて仕

事を効率化することも、産業としての発展につながると思う。介護記録をタブレットで書けるようになれば時間の節約になり、見守りカメラがあれば夜勤の負担も減る。それらの技術を開発・販売する企業が増えれば、福祉を支える「地域の産業」が育っていくはずだ。介護や福祉は、「人に寄り添う仕事」だからこそ、人だけに頼りすぎると限界がくると思う。だから、産業の力、つまりモノづくりや技術、システムの発想をもっと取り入れ、「支える人を支える仕組み」を地域で育てていくことが大切だと思う。福祉と産業が手を取り合えばどちらも前に進めるはずだ。

たとえば、地元の企業と協力して、介護ロボットや見守りセンサーなどを開発できたら、介護士の負担を減らせるし、高齢者も安心できる。ICTを活用し、記録や情報共有がもっとスムーズになれば、残業も減り職場の雰囲気もよくなるかもしれない。福祉を技術とつなげていくことで、新しい雇用も生まれるし、地域の産業にもつながっていくと思う。さらに、「農福連携」というアイデアもある。これは、障がいのある人や高齢者が農業に関わることで、社会とつながるという取り組みである。私の町は田畑が多くて、高齢化も進んでいる。農業も人手不足で困っていると聞く。だったら、福祉と農業が協力すること、お互いの力になれるかもしれない。祖母は、病気になっても「誰かの役に立ちたい、迷惑をかけるだけでは嫌だ」とよく言っている。そんな祖母を見て、「支えられる人」も、「支える側」になれるんだと思った。福祉は、ただ助けるだけではなく、誰もが社会の中で役割を持って生きていくためのものなんだと思う。

私は将来、福祉の仕事に関わりながら地域とつながれるような活動をしたい。そして、福祉の仕事がもっと評価され、若い人が「やってみたい」と思えるような社会をつくりたい。そのためには、制度やお金のことだけではなく、地域全体で福祉を“自分ごと”として考えていくことが大事だと

考える。

今、祖母はパーキンソン病の影響で手足が震え、動作が遅くなり、日常生活がどんどん難しくなっている。認知症もパーキンソン病にかかっているから、一気に進行した。最初は、私も家族も祖母がこんな病気にかかってしまったことに驚き、どう接すればいいのか分からなかった。しかし、福祉の勉強を始めることで、病気や高齢者のケアについて理解を深めることができた。福祉の授業では、介護やサポートの方法、またご利用者様やそのご家族の心のケアの重要性について学んだ。これらを祖母にどう活かすかを考えるようになり、少しずつではあるが、祖母と接する方法も変わってきた。祖母の病気の症状を見ていると、毎日が大変だと思うが、私ができることも増えてきた。例えば、祖母が歩きにくいときには手を貸し、祖母の歩くスピードに合わせて歩いている。

祖母の震える手に、私がそっと手を添えた日。「あったかいね」と言ってくれたその言葉を私はずっと覚えている。あの手のぬくもりが、私の進む道を照らしてくれている。祖母が私を忘れても、私は絶対に祖母を最後まで支えると誓った。私がこれまで学んできた福祉の学びを、未来の誰かの笑顔につなげられるように、私はこの道を進んでいきたいと思う。

デザインを通して学んだ「伝える力」とその可能性

三重県立亀山高等学校

システムメディア科 3年 伊藤 吏玖

私は高校生活の中で、Photoshop や Illustrator といったデザインソフトを用いた制作活動に取り組んできました。中でも特に印象に残っているのは、中学生向けの学校説明会のポスターを作成した経験です。ポスターは、ただ見栄えが良いだけでは意味がありません。誰に向けて、どんな内容を、どのように伝えるのかを深く考える必要がありました。この制作活動を通じて、私は「デザインとは情報を伝えるための手段である」という本質を実感することができました。ポスターの制作に取りかかるにあたって、最初に意識したのは、ターゲットである中学生の視点に立つことでした。

中学生たちは、これから進学先を選ぶという大きな決断を控えています。そのため、学校生活の魅力や特色を、彼らにも分かりやすく伝えることが重要でした。ただ漠然と「楽しい高校生活」と伝えるのではなく、何がどう楽しいのか、どんな学びがあり、将来にどうつながっていくのかといった内容を、具体的かつ明確に示す必要がありました。限られた紙面の中で、視覚的にこうした情報を伝えるためには、工夫を凝らす必要がありました。実際の制作では、Photoshop や Illustrator といったソフトを活用しました。色の組み合わせやフォントの選び方、写真やイラストの配置など、視線の流れを意識したデザインが可能になりました。たとえば、タイトルにはインパクトのあるフォントを使用し、読者の視線が自然に必要事項へと流れるように構成することで、内容を無理なく

理解してもらえるよう工夫しました。また、余白の取り方一つで全体の印象が変わることも学びました。情報を詰め込みすぎないようにし、伝えたいポイントを絞って強調することで、より伝わりやすいポスターに仕上がったと私は感じています。

この経験を通して私が最も学んだことは、「伝える」ためには「相手の立場に立つ」ことが必要不可欠だということです。デザインの技術ももちろん大切ですが、それ以上に重要なのは、誰に向けて何を発信するのかを常に意識する姿勢です。この姿勢は、デザインに限らず、プレゼンテーションや文章の作成など、あらゆる「伝達」に関わる場面で必要とされるものであり、今後の人生においても大いに役立つ力であると感じています。高校でのこのような経験は、将来の仕事にも大きく関わってくると思っています。例えば、社会に出て製品やサービスを紹介したり、企画を提案したりする際には、「どう伝えるか」が結果を左右することも少なくありません。私はデザインを通して、ただ情報を並べるのではなく、相手に「伝わる」形で表現することの重要性を学びました。この力は、営業やマーケティング、商品企画、さらには教育や医療といった、さまざまな職業において応用可能な普遍的なスキルであると実感しています。

また、デザインソフトの操作技術そのものも、私にとっては大きな財産となりました。Photoshop や Illustrator といったプロ向けのツールは、最初は操作が難しく感じましたが、実際に手を動か

しながら学ぶ中で、徐々に使いこなせるようになりました。色の使い方やレイアウトの工夫、画像の加工など、基本的なスキルに加えて、それぞれのツールの特性を理解することで、表現の幅も広がりました。デザインは単なるセンスや感覚に頼るものではなく、情報をどう整理するかという論理的な構成力や、課題をどう解決するかという視点が求められる分野であることを、実践を通して学ぶことができました。さらに、完成したポスターについて先生方やクラスメイトからフィードバックを受ける中で、自分では気づけなかった視点や改善点にも目を向けることができました。第三者の意見を受け入れ、より良いものを目指して修正していく姿勢は、チームで協力して取り組む社会の中では欠かせない姿勢だと思います。意見を交わしながらより良いものを目指すプロセスは、自分自身の視野を広げ、柔軟な考え方を育む大切な経験でした。

今後、進学や就職など、人生のさまざまな場面で「伝える力」が求められる機会は、確実に増えていくと思います。そのようなとき、私は高校でのこの経験を土台として、自信を持って臨むことができていると感じています。デザインという手段を通して、情報を的確に届けることの楽しさと難しさを知ったからこそ、これからも「伝える」ことを大切にしていきたいと思います。もし将来、製品やサービスの魅力を社会に伝える立場に立つことができたなら、この高校での学びは、きっと大きな力になると信じています。高校生活は、単に知識やスキルを身につけるだけの時間ではなく、自分の適性や将来の方向性を模索する大切な期間だったと感じています。その中で私は、デザインという分野に出会い、「表現すること」の奥深さを知ることができました。そして、相手の立場に立って考える姿勢や、論理的に構成する力など、社会に出てからも役立つ力を養うことができたと思っています。今後もこの経験を糧に、自分の力をさらに伸ばしていくことができるように、これか

らも努力を続けていきます。

WROJapan 決勝大会に参加して

鈴鹿市立天栄中学校

3年 渡辺 和樹

私は今年初めて、WRO(World Robot Olympiad) JAPAN 三重県予選会・全国大会へ参加した。

WRO とは自律型ロボットを駆使し、プログラムにより自動制御する技術を競う大会で World Robot Olympiad という名前の通り、国際大会までつながる大会である。

WRO には ROBO MISSION、FUTURE ENGINEERS などいくつかの競技があるが、私は ROBO SPORTS という競技に参加した。ROBO SPORTS という競技は、各チーム2台ずつ合計4台の自律型ロボットが8個のオレンジ色の卓球ボールと2個の紫色の卓球ボールを打ち合うという対戦型ロボット競技である。

ROBO SPORTS へ参加することになったのだが、他に参加しているロボットコンテストの経験により、ロボットのメカニカルな部分には自信があったものの、プログラムを組むという経験は浅く、はじめは三重県予選会で勝負のできる自信が全くない状態で取り組んでいた。

プログラム・ロボット本体には、レゴ® エデュケーション SPIKE™を使用した。今まで経験してきたロボコンは、材料を加工してロボットのパーツを作成してきた。しかし、レゴは出来合いのパーツを組み合わせる必要がある。これにより、決まった形のレゴパーツを組み合わせなくてはならないという制約があり、すべて自由な形で作ることができないことで、ギアの組み合わせなど苦戦していた。

他にもカラーセンサーの感度やコートの上とロボットの引っかかりなど苦戦することはあったものの、チームメイトの子が困っていたところを解決してくれ、一つ一つ解決することができた。その後、どんどん改良していき、ある程度ボールを打ち返せるようになった。しかし、三重県予選会が始まるまでは、初めての参加ということもあり、どのくらい勝負できるのかわからなかった。自信がないまま三重県予選会へと挑んだ。

三重県予選会では想像していたよりも周りのレベルが高いわけではなく、予選リーグの結果や決勝トーナメントの組み合わせによっては全国大会へ進める可能性を感じ始めていた。

コート上には、ロボットが触れると即時負けになってしまう場所がある。その場所だけには触れないように自分たちのロボットは安定性重視でプログラムを組んでいた。しかし、他のチームは攻めてその場所に触れてしまっているチームもあった。メリット・デメリット、リスク・リターンのバランスを考えてプログラムを組んだり物事をしっかり考えたりするのがいいのだと感じた。

決勝トーナメントでは、多少妥協のあるものの、満足できるロボットの動きをプログラムすることができた。そこで、プログラムの変更をして誤作動が起こるリスクを無くそうと、あえてプログラムの改良は一度もせずそのままの状態決勝戦に臨んだ。最終的にはその判断が吉と出て、後からプログラムの変更をした強豪チームのエラーもあ

り、三重県予選会で優勝し、全国大会へと進むことができた。

三重県予選会から全国大会までの間では妥協していた部分を少し改良するなどして全国大会へ備えた。そして迎えた全国大会。全国大会では、ロボットの根本的な考え方や構造、搭載している物のレベルの高さに驚きが多かった。AIカメラを使用して壁もボールの色も認識しているチーム、相手コートへ送ると不利になる紫色ボールをロボット内へ蓄えておくチーム、壁での方向転換に物理センサーを使わないチームなど学びの多い大会だった。

一方、私達のチームでは、ボールの色合いが県大会と少し違い、センサーが反応しない状態で苦戦を強いられた。オレンジ色ボールは相手チーム側のコートに送ると有利になり、逆に紫色ボールを送ると不利になってしまうというルールにより、カラーセンサーが機能しないと紫ボールも相手コートへ送ってしまうという状態になってしまった。

この影響もあり予選リーグ1勝2敗で決勝トーナメントへ進むことはできなかった。

しかし、大会後、カラーセンサーの色味を調整できることが発覚し、少し悔しさの残る大会となってしまった。しかし、初参加で知識も浅かったこともあったが、この経験が来年の後輩たちの参考になれば良いと思う。

予選敗退後、韓国から招待されていたナショナルチームとの国際交流エキシビジョンマッチをすることができた。勝つことはできなかったが、普段あまり関わりのない海外の人たちが自分たちと同じルールでロボットを創り、同じ競技に取り組んでいることで、世界とつながりを感じることができていい経験になった。

今回、初参加であったWROだが、ロボットの知識だけでなく、日常でも使える考え方なども学ぶことができた。現在、中学校3年生であり、来年高校でWROに出場することができるかどうかは分からない。それでも、今後の人生に、今回の経験

を活かしていきたい。

農業部会

1. 三重県高等学校教育研究会農業部会総会

期日：令和7年5月13日（火）

会場：四日市農芸高校

内容：農業部会の昨年度の活動報告と今年度の活動計画を提案し、これからの農業教育の在り方について確認した。

2. 意見発表三重県大会

期日：令和7年7月9日（水）

会場：三重県農業大学校

内容：Ⅰ類、Ⅱ類、Ⅲ類の各分野に分かれて、競い合った。農業教育を通じて学んだことを中心に、普段感じている事や将来の夢などについて発表した。

最優秀

Ⅰ類 四日市農芸 Ⅱ類 四日市農芸
Ⅲ類 明野

3. 東海ブロック大会

期日：令和7年8月5日（火）

会場：三重県総合文化センター

内容：愛知県を舞台に意見発表・プロジェクト発表会が開催された。

プロジェクト発表 最優秀

Ⅰ類 四日市農芸

4. 家畜審査競技会兼FFJ検定上級

期日：令和7年8月2日（土）

会場：三重県家畜研究所

内容：肉牛の部と乳牛の部に分かれて審査、筆記試験をおこなった。また、受検者全員が筆記試験に合格することができた。

最優秀 乳牛の部 四日市農芸

肉牛の部 相可

5. 平板測量競技三重県大会

期日：令和7年8月1日（金）

会場：久居農林高校

内容：各校より代表チームが出場し、日々の学習の成果を競い合った。

最優秀 久居農林高校

6. 三重県高等学校教育研究会農業部会研究大会

期日：令和7年8月25日（月）

会場：三重県教育文化会館 大会議室他

参加人数：100名

内容：「専門性を高め、豊かな人間性を育む農業教育の推進～農業教育を通して地域や社会の未来を担う人材を育てる～」を大会のテーマとし、講演、特別研究発表、分科会における各校の取組発表、意見交換をおこなった。

7. 第76回日本学校農業クラブ全国大会

期日：令和7年10月22日（水）～24日（金）

会場：西関東（東京・山梨・神奈川）

参加人数：36名

内容：意見発表会、プロジェクト発表会、農業鑑定競技会、クラブ員代表者会議、代議員会に出場した。農業鑑定競技会では森林部門で全国最優秀を受賞するなど、勉強の成果を上げることができた。

参加者

プロジェクト発表：四日市農芸 9名

農業鑑定競技：四日市農芸 6名

久居農林 6名

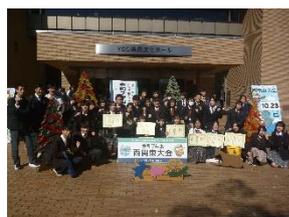
相可 2名

明野 2名

伊賀白鳳 3名

愛農学園 1名

クラブ員代表者会議：各校より 1名



8. プロジェクト発表三重県大会

期日：令和8年1月23日（金）

会場：三重県農業大学校

参加人数：120名

内容：校内予選を通過した各校の代表者が日々の学習から得た課題に向き合い、問題解決に向けて取り組んだ内容を発表した。

Ⅰ類 四日市農芸 Ⅱ類 四日市農芸

Ⅲ類 四日市農芸

工業部会

年間活動報告

【2月】

○ものづくりコンテスト三重県大会

2月15日(土)

(電子回路部門) 場所: 四日市工業高校

1位: 四日市工業 2位: 津工業

【5月】

○三重県高等学校工業教育研究会総会・研究協議会

5月9日(金)

場所: 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

総会: セミナー室A

研究協議会(分科会): セミナー室A・B



【6月】

○ものづくりコンテスト三重県大会

6月14日(土)

(化学分析部門) 場所: 四日市工業高校

1位 四日市中央工業 2位 四日市中央工業

(溶接部門) 場所: ポリテクセンター三重

1位 松阪工業 2位 松阪工業

6月15日(日)

(木材加工部門) 場所: 四日市工業高校

1位 伊勢工業 2位 伊勢工業

6月21日(土)

(電気工事部門) 場所: 四日市工業高校

1位 桑名工業 2位 伊勢工業

【7月】

○夏期研修・見学(隔年計画)

電気教育研究会

7月31日(木)

講習内容: 電気工事士技能試験の指導力向上

場所: 津工業高校

【8月】

○三重県高等学校工業教育研究大会

8月8日(金)

場所: 男女共同参画センター「フレンテみえ」

セミナー室A

内容: 4校4科の先生の研究発表

NIN 多度製作所(株) 管理部

安藤志保様 山家綾乃様の講演

講演内容「社会への貢献と共に発展し

従業員が明るく元気に働ける会社づくり」



○夏期見学会

機械教育研究会

8月5日(火) 見学先: (株) 前田テクニカ

建築教育研究会

8月5日(火) 見学先: 多気郡明和町小学校建設現場



○教員技術力向上講習

機械教育研究会(機械加工)

8月21日(木) 22日(金)

場所: 四日市工業高校ものづくり創造専攻科棟

講習内容: からくりで学ぶカイゼン実践研修

機械教育研究会(溶接)

8月20日(水)

場所: JFEエンジニアリング(株) 津製作所

講習内容: アーク溶接作業の技能と指導力の向上

○三重県工業高校生フェア・作品展示・ものづくり体験
8月3日(日) 場所: みえこどもの城



3kg級ロボット
ラジコン型 優勝 松阪工業高校
自立型 優勝 四日市工業高校
500g級ロボット
ラジコン型 優勝 四日市工業高校
自立型 優勝 松阪工業高校



○三重県工業高校生フェア・エコテクノ競技大会
8月28日(木) 場所: 鈴鹿ツインサーキット
省エネカー競技 優勝 伊賀白鳳
新エネカー競技 優勝 津工業



○機械教育研究会・研究協議会
10月31日(金) 桑名工業高校

【12月】

○土木教育研究会
12月3日(水) 場所: 津工業高校

○建築教育研究会・研究協議会
12月9日(火) 場所: 伊勢工業高校

【9月】

○授業改善のための実践研修
9月3日(水) 場所: 伊賀白鳳高校
研修授業内容:
建築デザイン科 在来軸組工法の軸組模型の作成

○教員技術力向上講習 自動車教育研究会
12月10日(水) 場所: 四日市工業高校
講習内容: 2040年までに実用化するモビリティの高度運転支援技術と自動運転技術

【10月】

○教員技術力向上講習 電気教育研究会
10月9日(木) 場所: 桑名工業高校
講習内容: 電磁開閉器回路

【1月】

○三重県高等学校ロボコン競技大会
1月25日(日)
場所: イオン名張 リバーナ3階ホール
寒波による名阪国道・伊勢自動車道の通行止めにより中止

○第35回三重県高等学校産業教育フェア
10月18日(土)～19日(日)
イオンモール津南 つどいの広場

○先端技術講習会
見学先: JFEエンジニアリング(株)津製作所
1月14日(水) 松阪工業 機械科 1年生
1月27日(火) 津工業 機械科 1年生
2月20日(金) 伊勢工業 機械科 2年生
※ 伊勢工業は中部運輸局三重陸運支局も見学

○三重県高等学校ロボット競技大会
10月19日(日)
場所: イオンモール津南 イオンホール

【役員会・委員会】

○役員会

- 第1回 4月11日(金) 伊勢工業高校
- 第2回 5月9日(金) 男女共同参画センター
- 第3回 6月12日(木) 四日市工業高校
- 第4回 7月11日(金) 伊賀白鳳高校
- 第5回 9月5日(金) 四日市中央工業高校
- 第6回 10月10日(金) 松阪工業高校
- 第7回 11月10日(月) 桑名工業高校
- 第8回 1月15日(木) 津工業高校
- 第9回 2月19日(木) 津工業高校

○ロボット実行委員会

- 第1回 6月3日(火) 伊賀白鳳高校
- 第2回 10月7日(火) 伊賀白鳳高校
- 第3回 12月18日(木) 伊賀白鳳高校
- 第4回 2月26日(木) 伊賀白鳳高校

○工業高校生フェア実行委員会

- 第1回 4月24日(木) みえこどもの城
- 第2回 6月3日(火) みえこどもの城
- 第3回 8月3日(日) みえこどもの城
- 第4回 10月9日(木) みえこどもの城

○溶接研究会

- 第1回 6月10日(火) 津工業高校
- 第2回 10月7日(火) 津工業高校

○産業教育フェア担当者会議(工業部会)

- 第1回 6月13日(金) オンライン
- 第2回 7月17日(木) 書面
- 第3回 10月14日(火) 書面

○エコテクノ競技実行委員会

- 第1回 6月30日(月) 伊勢工業高校
- 第2回 2月20日(金) 伊勢工業高校

商業部会

1 商業教育研究会総会

- (1)期日 令和7年5月13日(火)
 (2)会場 三重県総合文化センター大会議室
 (3)内容 令和6年度事業・決算報告
 令和7年度事業計画
 令和7年度役員改選等

2 三重県高等学校生徒商業研究発表大会

- (1)期日 令和7年8月1日(金)
 (2)会場 三重県総合文化センター 小ホール
 (3)結果
 最優秀賞 四日市商業高校(東海大会出場)
 優秀賞 松阪商業高校
 優良賞 宇治山田商業高校、津商業高校



優勝した四日市商業の発表の様子

3 三重県高等学校商業教育研究大会

- (1)期日 令和7年8月7日(木)
 (2)会場 三重県総合文化センター 小ホール
 (3)内容 テーマ
 「持続可能な社会に貢献する商業教育」
 講演会「伊勢志摩の資源を生かしたマーケティング」講師：有限会社 伊勢志摩冷凍
 代表取締役 石川 隆将様
 会計分野、総合実践・課題研究分野、ビジネス
 情報分野、マーケティング・ビジネス経済分野
 での実践発表および、テーマ別分科会を実施

4 三重県立高等学校産業教育フェア

- (1)期日 令和7年10月18日(土)19日(日)
 (2)会場 イオンモール津南
 (3)内容 開発商品・特産品の販売
 各校の特色ある取組紹介ブースの設置

5 東海地区高等学校商業実務総合競技大会

- (1)期日 令和7年11月1日(土)
 (2)会場 浜松商業高等学校
 簿記、珠算、電卓、英文ワープロ、ワー
 プロ、情報処理の6種目において、東海
 4県から約730名の生徒が参加し競技を
 実施

6 東海地区高等学校商業実務総合競技大会三重県予選

- (1)期日 令和7年9月6日(土)
 (2)会場 四日市商業高等学校
 (3)団体の部結果

	優勝	準優勝	3位
簿記	津商	四商	松商
珠算	津商	-	-
電卓	津商	四商	
ワープロ	四商	津商	亀山
英文ワープロ	四商	津商	松商
情報処理	山商	津商	-

7 各分野研究委員会研修会

①(会計分野)簿記会計セミナー

- (1)期日 令和7年12月4日(木)
 (2)会場 松阪商業高校
 (3)内容 わくわくするイマーシブな授業づくり

②(総合実践・課題研究分野)企業見学研修会

- (1)期日 令和7年12月9日(火)
 (2)会場 カネソウ株式会社
 (3)内容 説明、施設見学等

8 商業教育研究会主任会研修会

- (1)期日 令和7年12月5日(金)
 (2)会場 四日市商業高校
 (3)内容 全国商業教育指導者研修会報告
 指導者育成講座(ケースメソッド)報告
 商業高校独立4校による合同視察報告



書店とのコラボ・販売実習の様子(産業教育フェア)

家庭部会

産業教育振興会家庭部会には以下の6校が加盟し、各科、コースでそれぞれの専門的な取り組みを行っています。

○四日市農芸高等学校 生活文化科

- ⇒ 食物経営コース 製菓衛生コース
- 生活福祉コース 服飾経営コース

○亀山高等学校 総合生活科

- ⇒ 幼児教育系列 人間福祉系列
- 食物文化系列

○白子高等学校 生活創造科

- ⇒ 食彩コース 服飾コース

○久居農林高等学校 生活デザイン科

- ⇒ 食生活コース 衣生活コース
- リビングコース

○相可高等学校 食物調理科

- ⇒ 調理師コース 製菓コース

○明野高等学校 生活教養科

- ⇒ デザインコース 調理コース

《主な取り組み》

1 家庭科教育研究会総会・協議会

- (1) 期日：5月9日(金)
- (2) 会場：四日市市文化会館
- (3) 参加人数：64名
- (4) 議題
 - ① 令和6年度活動報告・会計報告
 - ② 令和7年度役員選出
 - ③ 令和7年度活動計画・予算
- (5) 家庭科教育振興のための協議会
- (6) 全国高等学校家庭クラブ
研究発表大会三重大会に向けて

2 第73回全国高等学校家庭クラブ研究発表大会 (三重大会)

- (1) 期日：7月31日(木)～8月1日(金)
- (2) 会場：四日市市文化会館

(3) 参加人数：大会1日目 768名

大会2日目 788名

(運営生徒・教員含む)

大会の運営には学科設置校の生徒が関わり、一人ひとりが一生懸命自分の役割を果たしました。



3 第76回近畿高等学校家庭科教育研究大会 (大阪大会)

- (1) 期日：8月6日(水)
- (2) 会場：大阪工業大学 梅田キャンパス(大阪市)
- (3) 参加人数：438名
- (4) 趣旨：高等学校における家庭科の充実・発展を図るため、近畿各府県における研究成果を発表し、今後の新しい家庭科教育のあり方について研究・協議する。
- (5) 研究発表

【奈良県】「消費生活におけるウェルビーイングの向上を目指して」～消費行動において成年になる前に身に付けておきたいこと～

【滋賀県】「専門学科における課外活動の活用と授業の精選」～生徒と指導者双方向のステップアップに向けた仕掛けづくり～

【三重県】「経済的自立を目指した金融教育」～教科(単元)横断的な指導の模索～

(6) 分科会

【京都府】「住生活分野における実践的・体験的な学習活動」～どうする空き家？ カードゲームの活用～

【大阪府】「保育分野の学び」～保育検定の活用～

【和歌山県】「フードデザインから考える防災」～「もしもの時」を生きぬく力、地域に貢献できる力の育成を目指して～

【兵庫県】「生活を考える」～理想のワーク・ライフ・バランスとは～

(7) 講演会

演題：「食事文化論」

講師：土井 善晴 様

4 家庭科技術検定 各種研修会

(1) 被服研修会

期日・場所：8月5日（火）白子高等学校
内容：わかりやすく色の組合せを伝える指導方法

(2) 食物調理技術研修会

期日：8月20日（水）
場所：ユマニテク調理製菓専門学校
内容：ソース、盛付け時の工夫

(3) 保育研修会

期日・場所：8月8日（金）白子高等学校
内容：保育における言語表現技術について

5 三重県産業教育フェア

(1) 期日：10月18日（土）・19日（日）

(2) 会場：イオンモール津南

(3) 企画

①各校展示・即売



②四日市農芸高校、白子高校、明野高校
ファッションショー



③相可高校 GAP弁当販売



④亀山高校 エプロンシアター&制作遊び



⑤白子高校 大徳屋長久とのコラボ企画



6 三重県家庭クラブ連盟 研究発表大会

(1) 期日：11月20日（木）

(2) 会場：津リージョンプラザ

(3) 大会スローガン：「輝く未来に 一歩前進！」

(4) ホームプロジェクト発表

①最優秀賞 明野高等学校 生活教養科
2年 徳永 百花

②優秀賞 四日市農芸高等学校 生活文化科
2年 松井 優衣

③努力賞 相可高等学校 食物調理科
2年 藤村 茉緒

④奨励賞 白子高等学校 生活創造科
2年 中村 柚香
亀山高等学校 総合生活科
2年 宮川 みづき

久居農林高等学校 生活デザイン科
2年 森下 桜空

7 その他の取り組み

各校で、地域交流、インターンシップ、各種コンクールへの参加、各種講習会、資格取得など、様々な取り組みが行われています。地域産業に貢献できる人材育成をめざしています。

8 家庭科教育研究会のその他の行事

- ・全国指導者養成講座（7/24・25）
- ・中勢地区別協議会、研修会（12/4）
- ・北勢地区別協議会、研修会（12/5）
- ・南勢地区別協議会、研修会（12/5）
- ・近畿高等学校家庭科教育府県連絡協議会（1/28）

水産部会

1 水産教育研究会総会

- (1) 期日 令和7年4月1日(火)
- (2) 会場 水産高校会議室
- (3) 内容 昨年度の活動報告、今年度の活動計画、活動体制、各種研究会等への参加教員の確認

2 全国高等学校水産教育研究会 関東・東海地区研究協議会

- (1) 期日 令和7年6月19日(木)～20日(金)
- (2) 主管校 茨城県立海洋高等学校
- (3) 内容 主題「新しい時代をリードする、創造的な水産・海洋教育とはどのようにあるべきか」
学科別協議：資源増殖系「資源増殖分野において、将来の産業界を支える人材育成を図るため、次の学習指導要領改訂に求められることは何か」をテーマに水産資源科アクアデザインコースの教諭が授業の取組内容を中心に協議題について発表しました。

3 関東・東海地区水産・海洋高等学校産業教育意見・体験発表会

- (1) 期日 令和7年6月26日(木)～27日(金)
- (2) 主管校 群馬県立万場高等学校
海洋・機関科3年機関コースの生徒が、「船舶機関士への憧れ」と題して発表を行いました。

4 第61回全国高等学校水産研究大会 全国大会

- (1) 期日 令和7年8月4日(月)～6日(水)
- (2) 主管校 山口県立大津緑洋高等学校
- (3) 会場 セントコア山口
- (4) 内容 主題「新しい時代をリードする、創造的な水産・海洋教育とはどのようにあるべきか」
学科別協議：資源増殖系「資源増殖分野において、将来の産業界を支える人材育成を図るため、次の学習指導要領改訂に求められることは何か」をテーマに水産資源科アクアデザインコースの教諭が全国の資源増殖分野を担当する教員とのグループディスカッションを行いました。

5 三重県産業教育フェア

- (1) 期日 令和7年10月18日(土)～19日(日)
- (2) 会場 イオンモール津南店
水産資源科3年フードコースの生徒が実習で製造した、カツオとマグロの缶詰を販売しました

6 関東・東海地区水産・海洋高等学校生徒研究発表大会

- (1) 期日 令和7年11月13日(木)～14日(金)
- (2) 主管校 栃木県立馬頭高等学校
- (3) 会場 とちぎ青少年センター アミークス
- (4) 内容 海洋・機関科3年海洋コースの生徒1名が「我らの英虞湾を取り戻し未来へつなぐ！～ガングゼ調査とアラメ増殖による藻場再生～」と題して、発表を行い、結果は4位でした。

7 全国マリンロボットコンテスト

- (1) 期日 令和7年12月6日(土)～7日(日)
- (2) 主管校 神奈川県立海洋高等学校
- (3) 会場 海洋研究開発機構 横須賀
海洋・機関科3年水産工学コースの生徒2名が参加し、実技コンテスト2位でした。

看護部会

桑名高等学校衛生看護科は、5年一貫教育で看護師を養成する学科です。衛生看護科1～3年と衛生看護専攻科1・2年合計200名が、看護師をめざして日々、学習に励んでいます。臨地実習では病院、施設の方々の御指導の下、直接患者様と関わることで、知識や技術だけに留まらず、多くのことを得ることができ、貴重な学びの機会となっています。



◇論文発表会

11月10日(月) 柿安シティホール

看護論文・作文発表会を開催しました。衛生看護科3年生は、実習の経験から自分の言葉や関わりが患者さんの心に残り信頼に繋がる重大さについて「患者さんの言葉が教えてくれたこと」というテーマで作文発表しました。また、衛生看護専攻科2年生は、臨地実習での事例研究を通して代表3名が5年間の学びとして発表しました。

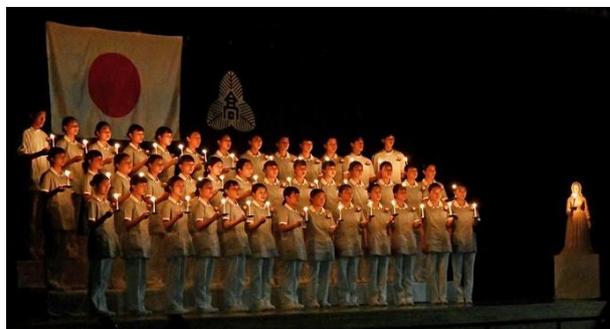


◇戴灯式

11月11日(火) 桑名高校 体育館

衛生看護科2年生が臨地実習に臨むにあたり戴灯式を行いました。一人ひとり決意の言葉を述べたあと、ナイチンゲールからの灯火を受け継ぎ、

全員でナイチンゲール誓詞を唱えました。初めて受け持ち患者さんにケアを行う基礎実習の前にこの式に臨み、看護師としての職責を改めて心に刻む行事となりました。



◇三重県産業教育フェア

10月18日(土) イオンモール津南

身体計測、血圧測定などを衛生看護科1年3名、2年生8名、専攻科1年生4名が行いました。

多くの方々にご来場頂き、健康に関心を持っていただけるよう、コミュニケーションを図りながら実施しました。



◆その他

- ・産業教育作文審査会 8月28日(木)
桑名高校
- ・第56回全国看護高等学校研究協議大会 福岡大会 7月31日(木)、8月1日(金) 福岡市
3名参加
- ・高等学校看護研究協議会
11月7日(金) 東京都 3名参加
- ・全国看護高等学校長協会東海支部春季研究協議会 6月23日(月) 14名 桑名高校
- ・全国看護高等学校長協会東海支部秋季研究協議会 12月1日(月) 3名参加
愛知県立宝陵高等学校

総合学科部会

【三重県の総合学科設置高校 8校】

いなべ総合学園高校、みえ夢学園高校、
飯南高校、昴学園高校、鳥羽高校、
名張高校、あけぼの学園高校、木本・熊野青藍高校

1 三重県高等学校総合学科教育研究協議会 第1回役員会・総会

(1)期日 令和7年4月17日(木)

(2)会場 三重県立鳥羽高等学校

(3)内容

- ・令和6年度事業・決算報告
- ・令和7年度事業計画・予算

2 東海地区総合学科高等学校長協会総会 第1回研究協議会

(1)期日 令和7年6月13日(金)

(2)会場 静岡県浜松市福祉交流センターホール

(3)内容

- ・総会(事業・決算・予算報告)
- ・講演会、研究協議(分科会、全体会)

3 三重県高等学校総合学科教育研究協議会 第2回役員会

(1)期日 令和7年7月3日(木)

(2)会場 三重県立いなべ総合学園高等学校

(3)内容

- ・本年度研究テーマ
- ・三重県産業教育フェア

4 総合学科部会 作文審査

(1)期日 令和7年8月26日(火)

(2)形式 オンライン

(3)内容

- ・産業教育に関する研究文・作文コンクールの審査

5 三重県高等学校総合学科教育研究協議会 第3回役員会

(1)期日 令和7年10月16日(木)

(2)会場 三重県立みえ夢学園高等学校

(3)内容

- ・産振作文の審査結果
- ・全国・東海大会
- ・三重県産業教育フェア

6 三重県高等学校産業教育フェア

(1)期日 令和7年10月18日(土)、19日(日)

(2)会場 イオンモール津南

(3)内容

- ・生徒作品の展示・販売
- ・地元特産品の販売
- ・体験コーナー等

7 全国高等学校総合学科教育研究大会

(1)期日 令和7年11月13日(木)、14日(金)

(2)会場 KDDI 維新ホール

(3)内容

- ・公開授業
- ・講演会
- ・各校の実践及び研究発表等

8 東海地区高等学校総合学科教育研究大会 第2回研究協議会

(1)期日 令和7年11月28日(金)

(2)会場 静岡県立小笠高等学校

(3)内容

- ・グループワーク
- ・授業見学
- ・研究協議(分科会・全体会)

9 三重県高等学校総合学科教育研究協議会
第4回役員会

- (1)期日 令和7年12月2日(火)
(2)会場 三重県立あけぼの学園高校
(3)内容
- ・産業教育フェアの振り返り
 - ・総合学科教育研究大会

12 三重県高等学校総合学科教育研究協議会
第6回役員会

- (1)期日 令和8年2月26日(木)
(2)会場 三重県立名張高等学校
(3)内容
- ・研究紀要の校正
 - ・次年度事業計画・役員体制

10 三重県高等学校総合学科教育研究大会
・職員研修会

- (1)期日 令和7年12月25日(木)
(2)会場 アスト津 アストホール
(3)内容

<前半>

- ・学習成果発表会
 - ・・・県内8校の生徒が各系列の特色ある取組を発表し、質疑応答を実施した。

<後半>

- ・ディスカッション(交流会)
 - ・・・県内8校の生徒・教職員・関係者をグループに分け参加者全員で交流した。交流を通して、参加者は他校の学習内容や取組の工夫を知り、自分たちの学校の良さや課題に気付くことができた。総合学科における学びの意義を再認識する機会となった。

11 三重県高等学校総合学科教育研究協議会
第5回役員会

- (1)期日 令和8年1月22日(木)
(2)会場 三重県立飯南高等学校
(3)内容
- ・研究大会の振り返り
 - ・本年度活動の総括
 - ・研究紀要
 - ・次年度の事業計画

福祉部会

1 総会

- (1) 期日：令和7年4月22日（火）
- (2) 会場：三重県立朝明高等学校

2 第11回三重県高校生介護技術コンテスト

- (1) 期日：令和7年7月24日（木）
- (2) 会場：三重県立朝明高等学校
- (3) 内容：県内6校が出場し、課題に沿った介護計画・介護方法を発表した。
最優秀校：三重県立明野高等学校
優秀校：三重県立みえ夢学園高等学校

3 全国福祉高等学校長会第29回総会・研究協議会並びに福祉担当教員等研究協議会

- (1) 期日：令和8年8月7日（木）、8日（金）
- (2) 会場：愛媛県県民文化会館
- (3) 内容：基調講演、生徒体験発表、研究協議会、記念講演等を全国福祉高等学校長会の加盟校（三重県立みえ夢学園高校、三重県立明野高校、三重県立伊賀白鳳高校、三重県立朝明高校）の先生方が参加した。

4 第10回東海地区高校生介護技術コンテスト

- (1) 期日：令和7年8月23日（土）
- (2) 会場：静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」
- (3) 内容：福祉を学ぶ高校生及び特別支援学校高等部の生徒が、課題事例に対する介護技術とアピールを競い合うことにより、日頃の学習活動で身につけた介護技術の向上を図るとともに、様々な介護の場面において、適切かつ安全に支援できる能力と態度を育成することを目的とし、開催された。また、東海地区で福祉を学ぶ高校生及び特別支援学校高等部の生徒の相互交流の場とした。東海地区の8校が出場した。

最優秀校：静岡県立清流館高校

優秀校：岐阜県立岐阜各務野高校

5 産業・情報技術等指導者養成事業（H-1研修）

- (1) 期日：令和7年8月25日（月）、
8月26日（火）、8月27日（水）
- (2) 会場：四日市商工会議所、神宮会館
- (3) 内容：高校福祉教育の現状と今後の課題、介護の独立性を考える、介護福祉士を取り巻く状況、介護実習の評価、最新介護福祉機器活用について、観光と介護について考える。全国より福祉の教諭34名が参加した。教員介護知識技能講習を兼ねるものである。

6 授業改善のための実践研修

- (1) 期日：令和7年11月26日（水）
- (2) 会場：三重県立伊賀白鳳高等学校
- (3) 内容：「社会福祉基礎」
授業者：三重県立伊賀白鳳高等学校
教諭 平井 由希
指導助言：三重県教育委員会
指導主事 曾野 亜希子

7 第12回全国高校生介護技術コンテスト

- (1) 期日：令和7年10月26日（日）
- (2) 会場：福島県 聖光学院高等学校
- (3) 内容：全国の地区代表校が出場し、課題に沿った介護を実施し、エビデンスを発表した。予選を勝ち抜いた11校が出場した。東海地区代表として静岡県立清流館高校が出場した。

8 三重県産業教育フェア

- (1) 期日：令和7年10月18日（土）、19日（日）
- (2) 会場：イオンモール津南
- (3) 内容：介護福祉用具体験、ハロウィンワークショップ、未来屋書店とコラボ（福祉に関する本のPOP作成）

9 マイスター・ハイスクール普及促進事業

- (1) 期日：令和7年12月16日（火）
- (2) 会場：鈴鹿医療科学大学
- (3) テーマ：福祉科教育研究成果発表会
- (4) 参加校：三重県立みえ夢学園高校、三重県立明野高校を拠点校とし、三重県立伊賀白鳳高校、三重県立朝明高校を連携校として令和6年度から令和7年度の2年間の成果を生徒たちが発表した。



ポスターセッション

10 第19回福祉教育研究フォーラム

- (1) 期日：令和8年1月31日（土）
- (2) 会場：日本福祉大学名古屋キャンパス
- (3) 内容：今日の福祉をめぐる教育的課題
高大連携・教育実践の交流

11 総会

- (1) 期日：令和8年2月19日（木）
- (2) 会場：三重県立朝明高等学校

12 春期研修会

- (1) 期日：令和8年3月26日（木）
- (2) 会場：三重県立みえ夢学園高等学校
- (3) 内容：主体的・対話的で深い学びを促すためのひとつの方法として「問い」がある。どのような問いを生徒に投げかけることで、主体的・対話的、深い学びになるのか、問いの立て方についてみなで考える。

情報部会

三重県産業教育振興会情報部会の加盟校は亀山高校だけです。亀山高校は、県内で唯一の「情報」の専門学科であるシステムメディア科が設置されています。全国でも専門学科「情報科」の設置校は少なく、16府県に20校しかありません。

亀山高校システムメディア科では、充実した施設・設備の中でコンピュータに関する幅広い知識と専門的な技術を身に付けた高度情報社会で活躍できる職業人の育成を目標としています。

■全国専門学科情報科研究協議会総会・研究協議会

○研究協議会での生徒発表(8月18日(月))

会場：ソフトピアジャパンセンター

内容：「モーションキャプチャ・VRを活用した体感型コンテンツ開発」と題して、課題研究で開発したゲームアプリの発表



■三重県立高等学校産業教育フェア

(10月19日(日))

会場：イオンモール津南

内容：課題研究で制作したモーションキャプチャ・VRを活用したゲームの試遊



■三重県高等学校情報教育研究会の活動

○研究協議会総会(5月14日(水))

会場：稲生高校

内容：

1. 総会

2. 講演

演題：大学入学共通テスト「情報I」

問題分析と指導のポイント

講師：株式会社ベネッセコーポレーション

3. 情報交換会

○夏期研修大会(7月31日(木))

会場：名張青峰高校

内容：講演・ワークショップ

「生成AIの教育活用事例研究とワークショップ」

講師：向山 明佳先生(名張青峰高校)

○公開授業研究(11月21日(金))

会場：津東高校

授業内容：情報I「情報通信ネットワーク」

授業実施者：池畑 陽介先生(津東高校)

○研究大会(12月5日(金))

会場：稲生高校

内容：

1. 講演：学校現場で広がる生成AI活用
-事例と実践のヒント-

講師：ライフイズテック株式会社

2. 実践報告：

「DX推進事業における亀山高校の本年度の
取組と今後の展望～2年目～」

中村 俊介先生(亀山高校)

「第2回 みんなで創る未来の学びフェス
報告」

向山 明佳先生(名張青峰高校)

3. 情報交換会

中学校部会

創造アイデアロボットコンテスト三重県大会は、今年度で第21回目の開催となりました。

ルールに関しては、「基礎部門」、「計測・制御部門」、「応用・発展部門」の3部門があります。基礎部門に15チーム、計測・制御部門に8チーム、応用・発展部門に10チームがエントリーしました。また、参加校は7校とNPO法人からの1チーム、エントリー生徒数は107名となりました。

大会結果 ■ロボコン大賞

鈴鹿市立天栄中学校

■応用・発展部門 優勝

鈴鹿市立天栄中学校

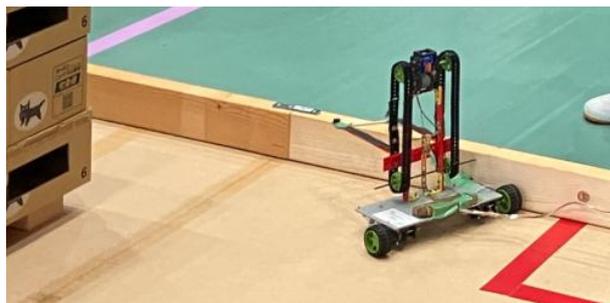
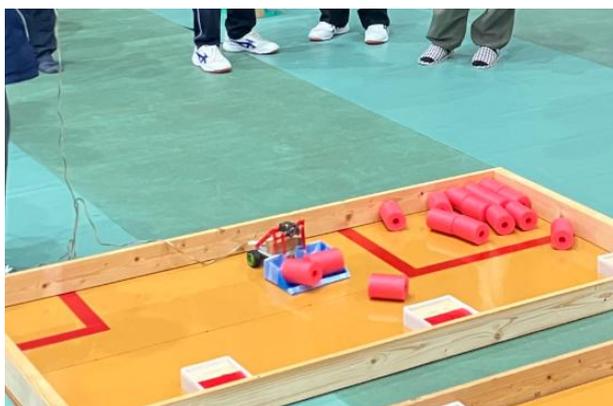
■計測・制御部門 優勝

三重大学教育学部附属中学校

■基礎部門 優勝

津市立一身田中学校

今年度はさまざまな方々にご協賛いただきました。カーネル・ソフト・エンジニアリング様にはロボットカーのデモをしていただきました。また、伊勢村田製作所様にはロボットデモをしていただきました。中部電力パワーグリッド様にはエネルギー変換に関する教材を展示していただきました。さらに、三重大学大学院工学研究科研究科長様より、県大会のご講評をいただくことができました。ロボット製作に取り組んできた生徒にとって有意義なものとなりました。



三重県大会後、優秀なロボット（チーム）は静岡県で開催された東海・北陸大会にエントリーしました。東海・北陸7県から集まったロボット、チームが熱い戦いを繰り広げました。東海・北陸大会でも予選を勝ち抜き、決勝トーナメントに駒を進めたチームも複数ありました。残念ながら全国大会に進むチームはありませんでしたが、決勝トーナメントでもベスト8に入るなど、熱い戦いを繰り広げることができました。

三重県で開催するロボットコンテスト（通称はロボコン）は、「アイデア1st」をテーマとしています。競技による勝ち負けではなく、そのロボットを作り出すための豊かな創造性を第一に考え、子どもたちの想像力の育成やそれを実現するための技術の育成を目指しています。

競技をする中で、他の学校のチームのロボットのアイデアをみて学ぶことや、勝敗だけではなく、それぞれのロボットのアイデアを称賛したり、アイデアを参考にしたりしながら、互いを認め合い、さらなる工夫につなげていくことが大切です。

中学校部会では、中学校技術・家庭科の授業等で培った能力や態度の成果を披露する場として、今後もロボットコンテスト三重県大会等を継続していきますので、県内各地からのエントリーをお待ちしております。また、引き続き、三重県産業教育振興会の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

段ボール、だけじゃない。どんな願いも、包み込む。

前野段ボール株式会社は、段ボール箱の製造だけではなく、プラスチックダンボール、樹脂トレイなどの包装資材の設計、製造、販売を通じて、お客様の物流の楽と安心を量産する使命感を大切に仕事をしています。工場のラインで働く人に作業性の高い包装資材や、海上コンテナによる長時間の輸送でも製品に傷ひとつ付けられない品質を保つ包装資材など、使う人に喜んで頂けるような包装資材を設計、開発しています。「どんな願いも、包み込む。」ビジョンを持って、様々なニーズに創業から73年間お応えしてきました。お客様は、井村屋様をはじめとした食品メーカー様や本社のある三重県内の地場の企業様、トヨタ自動車様をはじめとした自動車業界の様々な企業様とお取引させていただいています。

段ボールケース



段ボール内材



緩衝材



樹脂切削品



プラダン



感動商品



薄物トレイ



厚物トレイ



一人ひとりの力を、全員の幸せへ。長所を生かす職場づくり。

近年は、一人一人が長所を活かし強みを発揮して働ける職場づくりにも力を入れています。当社では「全員協力して幸せになる。」という使命を大切にしています。お客様の楽と安心を量産する、いわゆる売り上げや利益を出していくだけでは、この使命は達成できないと考えており、職場の関係性の質の向上、自立した個人の育成を重要視しています。職場の関係性の質の向上にあたっては、原田教育研究所様のICM/ECMのメソッドを活用して、関係性の質の強化を図っています。関係の質を高めることで、思考の質・行動の質が向上し、最終的に結果の質が高まるという考えに基づいています。

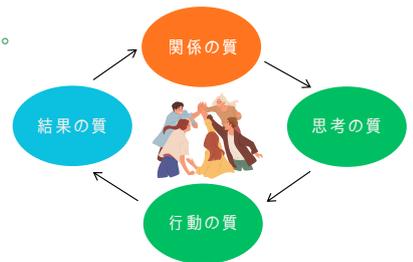
ユーザー・社会視点
QCDS5SSSを大切にし
ユーザーの「楽」と「安心」を量産

職場視点
関係の質と生産性の高い職場で
優れた製品とサービスを提供



個人視点
高い熱量と技術をもった
自立した個人の育成
生活水準の向上

ダニエル・キムの成功循環モデル



職場の関係性の質向上のために

ICMのメソッドは、簡単に答えられる23の問に社員が回答することで職場がおかれている状況を判断することができるツールです。ICMを利用すると、組織を5つのタイプに分類することができます。組織の問題点を把握するとともに、関係の質を強化するために職場アナリストチームが職場アンケートを活用して、職場を定性的に捉え、①続けて欲しいこと②やめて欲しいこと③新たに始めて欲しいことをヒアリングします。経営層や管理職を中心に、その声に耳を傾け、フィードバックをします。フィードバックの内容は食堂に貼りだし、進捗が一目で見てわかるようにします。職場の願いを真摯に受け止め、実現できるように職場で考え、協力しあう動きが、信頼関係を生み、関係性の質を高める原動力になります。



Ideal Company Method(®)回答フォームA

このアンケートは、23問の「選択方式アンケート」に回答頂くことで、職場環境の改善点を発見し、理想的な職場環境の実現に役立てるためのものです。ご多用の甲斐入りますが、ご協力の程、どうぞよろしくお願い致します。

本アンケートは【有記名】式です。

このアンケートはあくまで、「より良い職場環境実現」のためのものであり、人事評価・その他の目的での利用は一切ありませんので、恐ろしくお断り致します。

なお、選択頂く数字には以下の意味があります。

- 1:全くあてはまらない
- 2:あまりあてはまらない
- 3:どちらとも言いえない
- 4:あてはまる
- 5:とてもあてはまる

3分で終わる23の
承認感・不安感
に関する質問

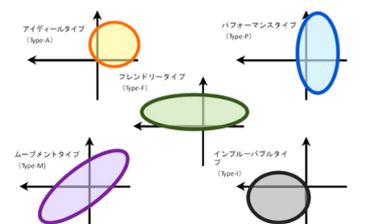
回答を依頼し、フィードバックをさせていただきます。回答を終了された後は、内容に実装も含まれませんのでご了承ください。

daki.maeno@maeno-db.com アカウントを切り替える

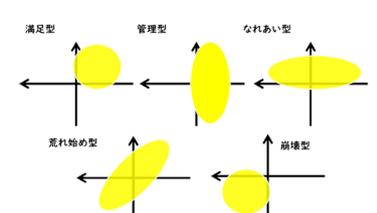
共有なし

※ 必須の欄です

組織の5つのタイプ



学級・部活の5つのタイプ



職場アンケートの結果やフィードバックを自社の最新デジタル印刷機で見える化



1800mm×2400mm、厚み30mmのサイズまで
多彩な材料に印刷ができるUV印刷機



白色の段ボールで大きく印刷して進捗を可視化

サーキュラーエコノミーに即したものづくり

サーキュラーエコノミー（循環経済）の推進についての活動をご紹介します。当社の主力製品の素材である段ボールは世界で最もリサイクルの仕組みが確立している素材です。包装資材は海を越えて他国に渡りますが、行先の他国においても古紙として回収されリサイクルされます。こんな視点で段ボールを見ると、すごく優秀で素敵素材に思えてきませんか？三重県はものづくりを行う企業がたくさんあり、どの会社も原価低減や売上拡大に努力されていることと存じます。同時に、環境負荷の低減やCo2排出量削減など、社会的影響力の大きい企業市民として地球環境に対して果たすべき役割があります。

前野段ボールでもその役割と意義を理解し、様々な活動を行っています。まず2026年に3年目を迎える「サステナブルクリエイションラボ」では、四日市でものづくりについて学ぶ学生さん向けに”サーキュラーエコノミーとは“の講義から”前野段ボールの廃材を使って新しい価値を創造できないか？”をテーマにしたワークショップをご提供し、サーキュラーエコノミーの概念を広めています。

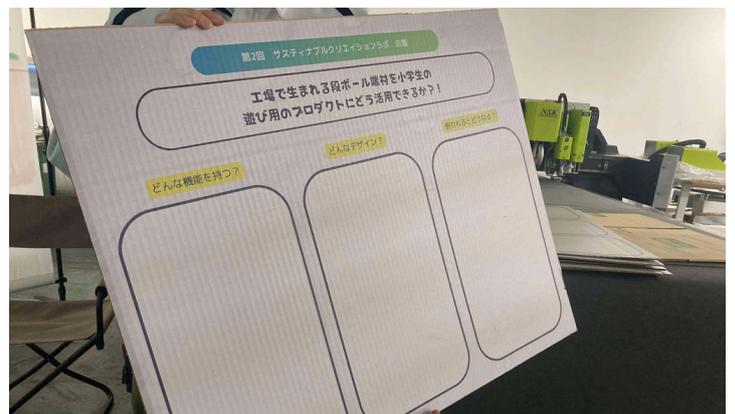


当社の多種多様な設備

工場に不要な材料



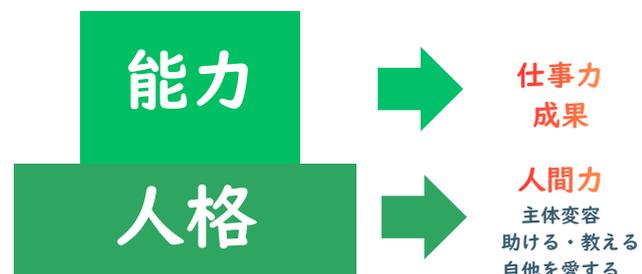
サーキュラーエコノミーをテーマに若者と共創



UV印刷機で制作したワークショップ用ボード

新しく仲間になっていただける方に期待すること

当社は図の通り、成果を生む「能力」は確かな「人格」という土台の上からこそ成り立つと考えます。ゆえに採用ではスキルを基本的に問わず、主体的な変化や他者への貢献といった「人間力」を最優先します。実務スキルは入社後の教育環境で習得可能ですが、人間力こそが長く活躍する鍵となります。だからこそ事前の対話を尽くし、価値観の共有によりミスマッチを防ぎます。「全員協力して幸せになる。」という理念の下、仕事を通じて自らの目標を発見・実現できるキャリア支援も当社の大切な役割と考えています。生徒様が社会人として心豊かに成長できる未来に伴走させていただきます。



県教育委員会事務局高校教育課より

三重県産業教育振興会会員の皆様におかれましては、日頃より本県の産業教育の振興に御尽力を賜り誠にありがとうございます。

県教育委員会では、貴振興会の会員様をはじめとした産業界の皆様にご支援をいただきながら、小学校、中学校、高等学校の発達段階に応じた系統的なキャリア教育を実施しており、児童生徒に勤労観・職業観を育成するための取組を推進しています。

令和7年度の産業教育に関する主な取組や、令和6年度三重県立高等学校卒業者の進路状況等を紹介させていただきます。

○ 令和7年度三重県立高等学校産業教育フェア

三重県立高等学校産業教育フェアは、本年度で35回目を迎え、10月18日（土）と19日（日）の2日間、イオンモール津南で開催しました。イオンモール津南での開催は今回で5回目となり、店舗とのコラボレーション企画のほか、新たな取組としまして、スタンプラリーに2次元コードを使用し、デジタル化しました。協賛いただいた事業者からいただいた景品を進呈し、多くの方に喜んでいただきました。

生徒は、様々な年代の方への接客をとおしてコミュニケーション力を育むとともに、興味をもっていただけるよう、創意工夫しながら取り組むことができました。また、他校生徒との交流や自校以外の取組を知ることで、今後の学習意欲の向上につながりました。教職員にとっても、学校生活では見られない生徒の姿や、成長する生徒の様子を見ることができた機会となりました。

一般の来場者からは、「子どもも色々体験できて楽しめた」「様々な学校の活動がよく分かった」等の声をいただきました。

【農業】



フラワーアレンジ体験

【工業】



プログラミング体験

【商業】



開発商品等販売

【水産】



実習缶詰の販売

【家庭】



絵本の読み聞かせ

【看護】



健康チェック

【福祉】



ハロウィンワークショップ

【情報】



オリジナルゲーム体験

【総合学科】



ハイドロカルチャーの製作
(土を使わない植物の栽培)

【特別支援】



生徒作品販売

来場者数合計	一般来場者数	参加生徒数	参加教職員数
55,740人 (54,984人)	55,140人 (54,319人)	437人 (476人)	163人 (189人)

※（ ）内は、令和6年度の数値

○ 高校生が県内の特色ある企業や大学等と連携した取組を実施

- ・高等学校DX加速化推進事業（DXハイスクール）

高校段階におけるデジタル分野を支える人材育成を強化することを目的に、企業や大学と連携しICTを活用した文理横断的・探究的な学びを推進

- ・進学予定高校生への職業理解促進事業 7月7日（月）・14日（月）・10月8日（水）

進学希望者が多い普通科で学ぶ高校生を対象とした、県内企業の技術やノウハウを体験できる企業展の開催（3校実施）

- ・多文化共生社会で活躍できるリーダー育成プロジェクト（ベトナム研修）

7月28日（月）・8月6日（水）・8月18日（月）～22日（金）

外国人労働者を雇用している県内企業や海外事業所を訪問し、施設見学・意見交換

- ・未来のスペシャリスト育成プログラム 8月20日（水）・26日（火）

三重大学と県内企業と連携し、先端技術の見学や体験・企業経営者等による講演

- ・最先端技術を活用して社会に貢献するデジタル人材育成プロジェクト（東京・つくば研修）

12月6日（土）・12月25日（木）～26日（金）

県内に事業所を持つ企業や研究所を訪問し、最先端技術を持つ現場に直接触れる体験学習

○ 三重県立高等学校卒業者の進路状況

令和7年3月県立高等学校卒業者の進路状況は（表1）、令和8年3月県立高等学校卒業予定者の就職内定状況は（表2）のとおりです。

（表1）令和7年3月県立高等学校卒業者の進路状況（令和7年5月1日現在）

進路	課程	全日制		定時制		通信制		合計	
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
卒業生数		10,048	-	262	-	122	-	10,432	-
大学等 進学者	大学	4,773	47.5	14	5.3	19	15.6	4,806	46.1
	短大	359	3.6	15	5.7	11	9.0	385	3.7
	小計	5,132	51.1	29	11.1	30	24.6	5,191	49.8
	その他	62	0.6	0	0.0	0	0.0	62	0.6
	合計	5,194	51.7	29	11.1	30	24.6	5,253	50.4
専修学校（専門課程）		1,434	14.3	21	8.0	14	11.5	1,469	14.1
専修学校（一般課程・各種学校・公共職業訓練所等）		278	2.8	6	2.3	0	0.0	284	2.7
就職者		2,894	28.8	125	47.7	39	32.0	3,058	29.3
上記以外の者		248	2.5	81	30.9	39	32.0	368	3.5

※「%」は各値の小数第2位を四捨五入

（表2）令和8年3月県立高等学校卒業予定者（全・定）の就職内定状況（令和7年12月末現在）

	北勢	中勢	松阪	南勢	伊賀	東紀州	合計
就職内定率 （%）	96.5% (95.6%)	96.8% (96.5%)	98.4% (99.1%)	94.5% (92.5%)	94.7% (90.9%)	89.6% (90.3%)	96.2% (95.4%)
就職希望者数	1,053	838	318	363	208	77	2,857
就職内定者数	1,016	811	313	343	197	69	2,749
就職未内定者数	37	27	5	20	11	8	108
うち結果待ち生徒数	8	4	1	2	2	2	19

※（ ）内は令和6年12月末の数値

一般会員名簿

令和8年3月1日現在（担当高校・五十音順別）

担当高校名	事業所(団体)名	郵便番号	住所	電話番号
1. 桑名高等学校				
1	(株)A D E K A 三重工場	511-0251	員弁郡東員町山田3707-1	0594 (76) 2330
2	桑名商工会議所	511-8577	桑名市桑栄町1-1	0594 (22) 5155
3	(株)佐藤製作所	511-0000	桑名市修徳町509	0594 (22) 1829
4	医療法人(社団)佐藤病院	511-0065	桑名市大央町21-15	0594 (23) 3547
2. 桑名工業高等学校				
5	(株)アベテック	511-0844	桑名市福岡町473-16	0594 (22) 0618
6	(有)伊藤鋳造工所	511-0838	桑名市大字和泉247	0594 (22) 2265
7	エイベックス(株)桑名先進工場	511-0118	桑名市多度町御衣野3600-18	0594 (49) 2610
8	エバ工業(株)	511-0252	員弁郡東員町瀬古泉339-1	0594 (86) 1500
9	(株)M I E テクノ	511-0912	桑名市星川1001	0594 (31) 3131
10	(株)續橋製作所	510-8112	三重郡川越町大字亀須新田202	059 (363) 1333
11	長島観光開発(株)	511-1135	桑名市長島町大字浦安333	0594 (45) 1111
12	(株)北勢自動車学校	511-0839	桑名市大字安永992	0594 (23) 2525
13	(株)マルデ鋳器	511-0225	いなべ市員弁町西方538-2	0594 (74) 5613
14	水谷建設(株)	511-0861	桑名市大字蛸塚新田328	0594 (21) 8111
15	水谷精工(株)	511-0836	桑名市大字江場宮之島357	0594 (22) 4125
16	ヤマザキマザックマニユファクチャリング(株)いなべ製作所	511-0211	いなべ市員弁町松名新田字松名1	0594 (84) 1300
17	ヤマモリ(株)	511-8711	桑名市陽だまりの丘6-103	0594 (33) 3860
3. いなべ総合学園高等学校				
18	新光ゴム工業(株)北勢工場	511-0428	いなべ市北勢町阿下喜3027-1	0594 (72) 2626
19	TOYO TIRE(株)桑名工場	511-0254	員弁郡東員町大字中上2400	0594 (86) 0100
5. 四日市農芸高等学校				
20	旭電気(株)	512-1201	四日市市上海老町字東大沢1648-90	059 (326) 8181
21	軽金属押出開発(株)	510-0951	四日市市小古曾東2-2-2	059 (345) 4228
22	コスモ電子(株)	510-0844	四日市市宝町1	059 (349) 1120
23	三昌鶏卵(株)	510-0874	四日市市河原田町1037-1	059 (346) 5573
24	三陽化成(株)	510-0951	四日市市小古曾東2-3-1	059 (346) 2351
25	昭永工業(株)	510-0851	四日市市塩浜町1	059 (345) 1481
26	東海物産(株)	512-0923	四日市市高角町2997	059 (326) 3931
27	中島製茶(株)	510-0882	四日市市追分2-1-11	059 (346) 4651
28	(株)フジ技研	511-0275	いなべ市大安町鍋坂2262-8	0594 (78) 0200
29	四日市海運(株)	510-0011	四日市市霞2-5	059 (325) 7212
30	四日市合成(株)	510-0843	四日市市宮東町2-1	059 (345) 1161
31	(株)四日市南自動車学校	510-0954	四日市市采女町340-1	059 (348) 3373
6. 四日市工業高等学校				
32	エムイーシーテクノ(株)	510-0886	四日市市日永東3-8-13	059 (345) 7274
33	九鬼産業(株)	510-0048	四日市市中納屋町8-18	059 (352) 7541
34	K H ネオケム(株)四日市工場	510-8502	四日市市大協町2-3	059 (331) 0624
35	コスモ石油(株)四日市製油所	510-0022	四日市市大協町1-1	059 (354) 8700
36	大宗建設(株)	510-0044	四日市市相生町1-1	059 (353) 6661
37	(株)ダイハツ三重	510-0062	四日市市北浜田町1-3	059 (353) 5315
38	トヨタカローラ三重(株)	510-0062	四日市市北浜田町10-3	059 (353) 5251
39	生川建設(株)	510-0065	四日市市中浜田町1-10	059 (355) 2310
40	日本アエロジル(株)四日市工場	510-0841	四日市市三田町3	059 (345) 5111
41	(株)白揚ブックセンター	510-0063	四日市市十七軒町12-1	059 (353) 1468
42	三重日野自動車(株)	512-8044	四日市市中村町1947-23	059 (365) 5111

43 四日市自動車学校 510-0064 四日市市新正3-7-6 059 (353) 0151

7. 四日市中央工業高等学校

44 上野製菓(株)四日市工場 510-0011 四日市市霞1-4 059 (364) 5121
45 キオクシア(株)四日市工場 512-0906 四日市市山之色町800 059 (330) 1006
46 サンレックス工業(株) 512-8054 四日市市朝明町1 059 (336) 2200
47 太陽化学(株) 512-1111 四日市市山田町800 059 (340) 0800
48 (株)トヨタトータルデザイン 512-1212 四日市市智積町3196-1 059 (325) 2588
49 (有)萩事務機販売 510-1233 三重郡菰野町菰野4604-1 059 (391) 0880
50 富士電機ITソリューション(株)
三重支店 510-0086 四日市市諏訪栄町1-12 059 (356) 2285
51 富士電機(株)
食品流通事業本部三重工場 510-8631 四日市市富士町1-27 059 (330) 1511
52 富士電設(株) 510-0063 四日市市十七軒町12-13 059 (354) 0088

8. 四日市商業高等学校

53 (株)伊藤製作所 512-8061 四日市市広永町101 059 (364) 7111
54 (株)I N A T E T S U 512-8061 四日市市広永町74 059 (363) 0600
55 北伊勢上野信用金庫 510-8666 四日市市安島2-2-3 059 (354) 1611
56 教育産業(株)三重営業所 510-8011 四日市市東茂福町2-11 059 (364) 8967
57 (株)小林機械製作所 510-0947 四日市市八王子町2435 059 (321) 2121
58 三昌物産(株) 510-0863 四日市市大字塩浜180 059 (345) 0921
59 (株)三洋商会 510-0084 四日市市栄町3-2 059 (351) 1666
60 (株)シー・ティー・ワイ 510-0093 四日市市本町8-2 059 (353) 6500
61 住友電装(株) 510-8503 四日市市西末広町1-14 059 (354) 6200
62 (株)扇港電機 510-8525 四日市市北浜町8-16 059 (351) 1101
63 東ソー(株)四日市事業所 510-8540 四日市市霞1丁目8 059 (364) 1114
64 東洋電機(株) 510-0067 四日市市浜田町13-16 059 (353) 3281
65 日産プリンス三重販売(株) 510-0001 四日市市八田3-3-32 059 (364) 2235
66 日本トランスシティ(株) 510-8651 四日市市霞2-1-1四日市港ポートビル 059 (363) 5211
67 前野段ボール(株) 510-0018 四日市市白須賀1丁目15-10 059 (331) 3211
68 三重リコピー(株) 514-0131 津市あかつ台4丁目6-3 059 (273) 5775
69 明治安田生命保険(相)
四日市支社 510-0061 四日市市朝日町1-3 059 (352) 2161
70 四日市商工会議所 510-8501 四日市市諏訪町2-5 059 (352) 8191

9. 北星高等学校

71 カネソウ(株) 510-8101 三重郡朝日町縄生81 059 (377) 4747
72 (株)大藤工務店 510-0942 四日市市東日野町289-3 059 (321) 1800
73 (株)中部コーポレーション 511-0943 桑名市大字森忠463 0594 (32) 1111
74 松岡建設(株) 510-8114 三重郡川越町大字亀崎新田51-1 059 (365) 2171

10. 白子高等学校

75 (株)O-G-O-E 512-8061 四日市市広永町1182-1 059 (361) 0005
76 工業化成(株)鈴鹿工場 513-0012 鈴鹿市石薬師町2451 059 (374) 4800
77 小林機械(有) 514-0819 津市高茶屋2-12-55 059 (234) 3435
78 新成運輸(株) 510-0103 四日市市楠町北五味塚392-1 059 (397) 5935
79 (株)鈴鹿テクト 513-0036 鈴鹿市矢橋3-4-12 059 (382) 3241
80 スーパーサンシ(株) 513-0806 鈴鹿市算所2-5-1 059 (373) 4034
81 (株)中勢自動車学校 510-0254 鈴鹿市寺家6-1-20 059 (386) 1452
82 学校法人ひかり学園 510-0242 鈴鹿市白子本町2-38 059 (386) 1150
83 三重工熱(株) 513-0817 鈴鹿市桜島町4-2-6 059 (382) 6262
84 医療法人博仁会 村瀬病院 513-0801 鈴鹿市神戸3-12-10 059 (382) 0330

11. 飯野高等学校

85 清水清三郎商店(株) 510-0225 鈴鹿市若松東3-9-33 059 (385) 0011
86 鈴鹿商工会議所 513-0802 鈴鹿市飯野寺家町816 059 (382) 3222

87	本田技研工業(株)鈴鹿製作所	513-0847	鈴鹿市平田町1907	059 (378) 1212
12. 亀山高等学校				
88	カメヤマ(株)	519-0111	亀山市栄町1504-1	0595 (82) 3111
89	亀山商工会議所	519-0124	亀山市東御幸町39-8	0595 (82) 1331
90	(株)スチールセンター亀山事業所	519-0102	亀山市和田町五反田510	0595 (82) 3316
91	古河電気工業(株)三重事業所	519-0212	亀山市能褒野町20-6	0595 (85) 1111
92	堀田建設(株)	519-0124	亀山市東御幸町231	0595 (82) 3311
93	(株)ミヤガク中京 カメヤマドライバースクール	519-0131	亀山市井尻町667-1	0595 (82) 0112
13. 津工業高等学校				
94	荒川制服(株)	514-0021	津市万町津174	059 (228) 3059
95	グリコマニュファクチャリン グジヤパン(株)三重工場	514-0304	津市雲出本郷町1846-5	059 (234) 8293
96	ダイソウ工業(株)	514-2213	津市芸濃町北神山1470-3	059 (265) 5700
97	ダイワ空調設備(株)	514-0002	津市島崎町248	059 (226) 1277
98	東海土建(株)	514-0035	津市西丸之内2-15	059 (227) 6101
99	マクセルクレハ(株)	514-0062	津市観音寺町255	059 (226) 4161
100	一般社団法人三重県建設業協会	514-0003	津市桜橋2-177-2	059 (224) 4116
101	三重県中小企業団体中央会	514-0004	津市栄町1-891 三重県合同ビル6F	059 (228) 5195
102	三重トヨペット(株)	514-0806	津市上弁財町4-1	059 (227) 7171
14. 津商業高等学校				
103	岡三証券(株)津支店	514-0032	津市中央5-20	059 (226) 1511
104	グロー・オフィス	510-0256	鈴鹿市磯山二丁目20-8	090 (3306) 0264
105	三恵技研工業(株)安濃工場	514-2302	津市安濃町安濃2560-8	059 (268) 2311
106	(株)誠文社	510-0074	四日市市鶴の森2-10-7	059 (353) 7171
107	津商工会議所	514-0033	津市丸之内29-14	059 (228) 9141
108	(株)津松菱	514-0028	津市東丸之内4-10	059 (228) 1311
109	東海税理士会 三重県支部連合会	514-0006	津市広明町121	059 (226) 3222
110	日本生命保険(相)津支社	514-0028	津市東丸之内20-12	059 (228) 0311
111	三重県漁業協同組合連合会	514-0006	津市広明町323-1 水産会館内	059 (228) 1200
112	一般社団法人 三重県銀行協会	514-0033	津市丸之内29-14 津商工会館 4F	059 (228) 7772
113	三重県商工会議所連合会	514-0004	津市栄町1-891 三重県合同ビル6F	059 (227) 1666
114	三重県商工会連合会	514-0004	津市栄町1-891 三重県合同ビル6F	059 (225) 3161
115	三重県信用保証協会	514-0003	津市桜橋3-399	059 (229) 6011
116	三重交通(株)	514-8635	津市中央1-1	059 (229) 5511
117	三重テレビ放送(株)	514-0063	津市洪見町小谷693-1	059 (226) 1133
118	(株)ミエデン	514-0003	津市桜橋2-177-3	059 (225) 1111
15. みえ夢学園高等学校				
119	インフォコネク(株)	515-0085	松阪市湊町190-1	0598 (20) 8161
120	佐藤ライト工業(株)	514-2211	津市芸濃町椋本2768-2	059 (265) 3211
121	長谷川印刷	514-0025	津市東町津8	059 (228) 4465
122	三重トヨタ自動車(株)	514-0821	津市垂水99-1	059 (226) 2181
123	三重日産自動車(株)	514-0821	津市垂水557-1	059 (225) 2355
124	ミヤタスポーツ	514-1101	津市久居明神町2487-1	059 (255) 2949
16. 久居農林高等学校				
125	(株)朝日屋	514-0033	津市丸之内20	059 (226) 2983
126	伊藤印刷(株)	514-0027	津市大門32-13	059 (226) 2545
127	井村屋グループ(株)	514-8530	津市高茶屋7-1-1	059 (234) 2131
128	(株)オクムラ	515-0841	松阪市曲町637-1	0598 (23) 4059
129	(株)おやつタウン	514-1254	津市森町1945-11	059 (254) 3082
130	河西工業ジャパン(株)	514-1255	津市庄田町2202-23	059 (255) 3080

131	(株)くろがね工作所津工場	514-0084	津市片田町字壺野田731-2	059 (237) 4101
132	全国共済農業協同組合連合会 三重県本部	514-0004	津市栄町1-960	059 (229) 9127
133	全国農業協同組合連合会 三重県本部	514-0004	津市栄町1-960 JA三重ビル	059 (229) 9065
134	(株)大興	514-1255	津市庄田町2202-21	059 (254) 6626
135	大建工業(株)三重工場	514-1254	津市森町1945-3	059 (255) 0611
136	(株)ニチリン白山	515-2613	津市白山町山田野3434	059 (262) 2512
137	長谷川設備(株)	514-1125	津市久居元町2268	059 (256) 1591
138	八昇製菓(株)	515-0001	松阪市大口町字新地1510-45	0598 (51) 1260
139	(株)葉山電器製作所	514-2105	津市美里町五百野1285	059 (279) 3131
140	(株)百五銀行	514-8666	津市岩田21-27	059 (223) 2326
141	藤田医科大学七栗記念病院	514-1295	津市大鳥町424-1	059 (252) 1555
142	マリンプーズ(株)三重工場	514-0300	津市香良洲町5536-28	059 (292) 2211
143	丸栄食品(株)	514-1118	津市久居新町2739-5	059 (256) 1121
144	三重県厚生農業協同組合連合会	514-0004	津市栄町1-960	059 (229) 9191
145	三重県農業協同組合中央会	514-0004	津市栄町1-960	059 (229) 9004
146	(株)三重高等自動車学校	514-0112	津市一身田中野192-1	059 (231) 1325
147	(有)ミフジ印刷	514-1255	津市庄田町2339-1	059 (255) 6851

17. 白山高等学校

148	(株)エヌ・エス・アイ	514-0101	津市白塚町1929-1	059 (236) 5580
149	(株)おやつカンパニー	515-2516	津市一志町田尻420	059 (293) 2233
150	(株)ライジング明和工場	515-0311	多気郡明和町平尾481-6	0596 (52) 2158

18. 松阪工業高等学校

151	(株)ウッドベル	515-2121	松阪市市場庄町塔田	0598 (56) 5616
152	宇野重工(株)	515-0031	松阪市大津町1607-1	0598 (51) 1313
153	(株)北村組	515-0019	松阪市中央町306-1	0598 (51) 3400
154	セントラル硝子プロダクツ(株)	515-0001	松阪市大口町1521	0598 (53) 3131
155	THK(株)三重工場	515-0832	松阪市丹生寺町1088	0598 (58) 2811
156	ハセガワ理化	515-0811	松阪市塚本町字聖御前474-4	0598 (26) 5224

19. 松阪商業高等学校

157	(株)大戸	515-0104	松阪市高須町3866-10	0598 (51) 1511
158	健栄製菓(株)松阪工場	515-0053	松阪市広陽町25	0598 (29) 6171
159	(株)コスモス・コーポレーション	515-1104	松阪市桂瀬町718-1	0598 (60) 1827
160	(株)松和自動車学校	515-0001	松阪市大口町1624-1	0598 (51) 1907
161	住友理工(株)松阪製作所	515-0005	松阪市鎌田町1001	0598 (52) 2121
162	(株)フレンズ	515-0084	松阪市日野町646	0598 (26) 7781
163	(株)ホンダカーズ三重	515-0813	松阪市大塚町381-1	0598 (52) 4166
164	松阪金融協会	515-0005	松阪市鎌田町103-1	0598 (52) 5105
165	松阪商工会議所	515-0014	松阪市若葉町161-2	0598 (51) 7811

20. 飯南高等学校

166	グリーンウッドタクミ協同組合	515-0088	松阪市木の郷町12	0598 (20) 2233
167	(株)田上	515-1303	松阪市飯南町下仁柿134	0598 (32) 2983
168	藤原運輸(株)松阪事業部	515-0001	松阪市大口町1162-38	0598 (53) 3431
169	(株)三ツ知製作所	515-1412	松阪市飯南町向粥見159-3	0598 (32) 2200
170	社会福祉法人 有徳会	515-0044	松阪市久保町1855-113	0598 (30) 6508

21. 相可高等学校

171	大内山酪農農業協同組合	519-3111	度会郡大紀町大内山3248-2	0598 (72) 2221
172	瀬古食品(有)	515-0212	松阪市稲木町字市本254-1	0598 (28) 2428
173	(株)ダイヘン三重事業所	519-2155	多気郡多気町大字東池上800	0598 (38) 3131
174	ノリタケ(株) 松阪工場	515-0053	松阪市広陽町20	0598 (29) 5611
175	万協製菓(株)	519-2174	多気郡多気町五桂1169-142	0598 (30) 5266

176	(株)フレックスホテル	515-0019	松阪市中央町36-18	0598 (52) 0800
177	みえなか農業協同組合	515-0205	松阪市豊原町1043-1	0598 (28) 2111
22. 昴学園高等学校				
178	(株)魚国総本社三重支社	510-0885	四日市市日永1-2-20	059 (346) 1112
179	(株)岡田建設	519-2404	多気郡大台町佐原555-7	0598 (82) 1076
180	(株)三栄建設	519-2505	多気郡大台町江馬148-4	0598 (76) 1121
181	(株)水谷住建	519-2504	多気郡大台町小切畑553	0598 (76) 0011
23. 伊勢工業高等学校				
182	(株)三水フーズ	516-0003	伊勢市下野町653-20	0596 (36) 3535
183	シンフォニアテクノロジー(株) 伊勢製作所	516-8550	伊勢市竹ヶ鼻町100	0596 (36) 1111
184	松田工業(株)	516-0054	伊勢市粟野町635	0596 (22) 1231
185	(株)山口工務店	516-0062	伊勢市浦口2丁目9-25	0596 (23) 1578
24. 宇治山田商業高等学校				
186	伊勢市金融協会	516-0036	伊勢市岡本1-3-3	0596 (25) 0105
187	伊勢商工会議所	516-0037	伊勢市岩淵1-7-17	0596 (25) 5151
188	角仙合同(株)	516-0009	伊勢市河崎1丁目8-29	0596 (25) 7100
189	神宮司庁	516-0023	伊勢市宇治館町1	0596 (24) 1111
190	ミマス(株)	519-0493	度会郡玉城町佐田626	0596 (58) 3131
25. 伊勢まなび高等学校				
191	日本特殊陶業(株)伊勢工場	516-1108	伊勢市円座町字細越871-6	0596 (39) 1511
26. 明野高等学校				
192	(株)赤福	516-0025	伊勢市宇治中之切町26	0596 (22) 2154
193	(株)ぎゅーとら	515-0592	伊勢市西豊浜町655-18	0596 (37) 5500
194	ノリタケ伊勢(株)	519-2736	度会郡大紀町打見670-5	0598 (83) 2311
195	IXホールディングス(株)	519-0594	伊勢市小俣町相合1306	0596 (22) 0297
196	ほめちぎる教習所伊勢	519-0503	伊勢市小俣町元町1648-10	0596 (23) 1155
197	横浜ゴム(株)三重工場	516-8530	伊勢市御園町高向1038	0596 (28) 3151
27. 鳥羽高等学校				
198	(株)石鏡第一ホテル	517-0026	鳥羽市石鏡町字与八338-5	0599 (32) 5301
199	一般社団法人鳥羽市観光協会	517-0022	鳥羽市大明東町1-7	0599 (25) 3019
200	鳥羽商工会議所	517-0022	鳥羽市大明東町1-7	0599 (25) 2751
201	(株)御木本真珠島	517-8511	鳥羽市鳥羽1-7-1	0599 (25) 2028
202	(株)ミキモト鳥羽工場	517-0011	鳥羽市鳥羽1-4-65	0599 (25) 3216
28. 水産高等学校				
203	尾鷲物産(株)	519-3612	尾鷲市林町1-33	0597 (22) 2323
204	(株)賢島宝生苑	517-0593	志摩市阿児町神明718-3	0599 (43) 1218
205	(株)志摩電子工業	517-0505	志摩市阿児町甲賀4480	0599 (45) 2200
206	(株)みえかつ	516-0043	伊勢市藤里町711-1	0596 (25) 1255
207	都リゾート奥志摩アクアフォレスト	517-0604	志摩市大王町船越3238-1	0599 (73) 0001
30. 伊賀白鳳高等学校				
208	旭ダイヤモンド工業(株)三重工場	518-0131	伊賀市ゆめが丘7-8-1	0595 (26) 7321
209	上野ガス(株)	518-0838	伊賀市上野茅町2706	0595 (21) 3611
210	上野キャノンマテリアル(株)	518-0022	伊賀市三田字東大町410-7	0595 (24) 3111
211	上野商工会議所	518-0873	伊賀市上野丸之内500ハイビル7伊賀3F	0595 (21) 0527
212	(株)エクセディ上野事業所	518-0825	伊賀市小田町字新田2418	0595 (23) 8101
213	岡三証券(株)伊賀上野支店	518-0861	伊賀市上野東町2920	0595 (21) 5131
214	社会医療法人畿内会 岡波総合病院	518-0842	伊賀市上野桑町1734	0595 (21) 3135

215	ケイミュー(株)	518-0022	伊賀市三田字東大町410-1	0595 (24) 1811
216	五洋紙工(株)上野工場	518-0001	伊賀市佐那具町金神塚1773-3	0595 (23) 6431
217	大陽日酸JFP(株)三重工場	518-1403	伊賀市炊村2500	0595 (46) 1316
218	(株)ナベル	518-0131	伊賀市ゆめが丘7丁目2-3	0595 (21) 5060
219	(株)日本ハウスウッドワークス中部	518-1301	伊賀市西湯舟2981	0595 (43) 2020
220	(株)ミヤケ	518-0001	伊賀市佐那具町1626	0595 (23) 5111
221	(株)ミルボン	518-0131	伊賀市ゆめが丘7丁目7-5	0595 (26) 3838
222	モリテックスチール(株) 三重大山田工場	518-1403	伊賀市炊村大平2330-2	0595 (46) 1301
223	(株)LIXIL上野緑工場	518-0809	伊賀市西明寺2820	0595 (23) 1222

31. あけぼの学園高等学校

224	(株)アスター美容	518-0131	伊賀市ゆめが丘7丁目9-2	0595 (21) 9827
225	(株)ジェイテクトファインテック	518-0001	伊賀市佐那具町1535-1	0595 (23) 3380
226	(株)LAWAIA	518-0007	伊賀市服部町2-67-3	0595 (23) 5751

32. 名張高等学校

227	(株)亀井商事	518-0406	名張市すずらん台西1番町341	0595 (62) 3131
228	ZACROS(株)名張事業所	518-0751	名張市蔵持町芝出1109-1	0595 (63) 7311
229	ZACROS(株)三重事業所	518-0411	名張市滝之原3889-1	0595 (42) 8100
230	(有)写真の川地	518-0622	名張市桔梗が丘2-3-5	0595 (65) 1932
231	シンキ配送(株)	518-0609	名張市西田原2080	0595 (66) 2882
232	ダイバア(株)名張工場	518-0751	名張市蔵持町芝出1109-1	0595 (63) 1421
233	(株)タカキタ	518-0441	名張市夏見2828	0595 (63) 3111
234	(株)なばり自動車学校	518-0603	名張市西原町2463	0595 (65) 3070
235	名張商工会議所	518-0729	名張市南町822-2	0595 (63) 0080
236	(株)フジシール名張工場	518-0605	名張市八幡字口入野1300-3	0595 (64) 2111
237	(株)丸栄建設	518-0722	名張市松崎町1440-1	0595 (63) 2155

34. 尾鷲高等学校

238	(株)伊藤工作所	519-3600	尾鷲市中川1-17	0597 (22) 1633
239	伊藤石油(株)	519-3604	尾鷲市港町1-9	0597 (22) 0014
240	(有)ウチヤマスポーツ	519-3652	尾鷲市古戸町7-26	0597 (22) 0216
241	尾鷲商工会議所	519-3611	尾鷲市朝日町14-45	0597 (22) 2611
242	海洋ゴム(株)	519-3404	北牟婁郡紀北町海山区中里658	0597 (36) 1331
243	望月観光(株)	519-3664	尾鷲市坂場町5-3	0597 (22) 0040

35. 熊野青藍高等学校

244	熊野市金融協会	519-4324	熊野市井戸町619-10 (百五銀行熊野支店)	0597 (85) 2111
245	熊野商工会議所	519-4323	熊野市木本町171	0597 (89) 3435
246	北越コーポレーション(株) 紀州工場	519-5701	南牟婁郡紀宝町鶴殿182	0735 (32) 1111

99. 事務局

247	トヨタ車体(株)	448-0000	刈谷市里山町金山100	056 (636) 7515
248	(株)日新化成製作所	519-2179	多気郡多気町仁田752-60	0598 (20) 8451
249	野村證券(株)名古屋支店 プライベート・ウェルス・マネジメント三部	460-8689	愛知県名古屋市中区錦2-19-22	052 (201) 1880
250	みらいこ(株)	516-0074	伊勢市本町8-11	

学校会員名簿

学校名	設置学科	郵便番号	住所	電話番号	地区名
1 桑名高等学校	(全) 普・理・看・(定) 普	511-0811	桑名市東方 1795	0594 (22) 5221	桑・員
2 桑名工業高等学校	工	511-0944	桑名市芳ヶ崎 1330-1	0594 (31) 5231	桑・員
3 いなべ総合学園高等学校	総	511-0222	いなべ市員弁町御菌 632	0594 (74) 2006	桑・員
4 朝明高等学校	普・福	512-1304	四日市市中野町 2216	059 (339) 0212	三・四
5 四日市農芸高等学校	農・家	510-0874	四日市市河原田町 2847	059 (345) 5021	三・四
6 四日市工業高等学校	(全) 工・(定) 工	510-0886	四日市市日永東 3-4-63	059 (346) 2331	三・四
7 四日市中央工業高等学校	工	512-0925	四日市市菅原町 678	059 (326) 3100	三・四
8 四日市商業高等学校	商	512-0921	四日市市尾平町字永代寺 2745	059 (331) 8324	三・四
9 北星高等学校	(定) 普・商・(通) 普	510-8027	四日市市茂福字横座 668-1	059 (363) 8110	三・四
10 白子高等学校	普・家	510-0243	鈴鹿市白子 4-17-1	059 (386) 0017	鈴・亀
11 飯野高等学校	(全) 英・応ヱ・(定) 普	513-0803	鈴鹿市三日市町東新田場 1695	059 (383) 3011	鈴・亀
12 亀山高等学校	普・情・家	519-0116	亀山市本町 1-10-1	0595 (83) 4560	鈴・亀
13 津工業高等学校	工	514-0823	津市半田 534	059 (226) 1285	津
14 津商業高等学校	商	514-0063	津市洪見町 699	059 (227) 0271	津
15 みえ夢学園高等学校	(定) 総	514-0803	津市柳山津興 1239	059 (226) 6217	津
16 久居農林高等学校	農・家	514-1136	津市久居東鷹跡町 105	059 (255) 2013	津
17 白山高等学校	普・商	515-3133	津市白山町南家城 678	059 (262) 3525	津
18 松阪工業高等学校	(全) 工・(定) 普	515-0073	松阪市殿町 1417	0598 (21) 5313	松阪
19 松阪商業高等学校	商・国教	515-0205	松阪市豊原町 1600	0598 (28) 3011	松阪
20 飯南高等学校	総	515-1411	松阪市飯南町粥見 5480-1	0598 (32) 2203	松阪
21 相可高等学校	普・農・家	519-2181	多気郡多気町相可 50	0598 (38) 2811	松阪
22 昴学園高等学校	総	519-2593	多気郡大台町茂原 48	0598 (76) 0040	松阪
23 伊勢工業高等学校	工	516-0017	伊勢市神久 2-7-18	0596 (23) 2234	南・志
24 宇治山田商業高等学校	商	516-0018	伊勢市黒瀬町 1193	0596 (22) 1101	南・志
25 伊勢まなび高等学校	(定) 普・工	516-0016	伊勢市神田久志本町 1560	0596 (25) 3690	南・志
26 明野高等学校	農・家・福	519-0501	伊勢市小俣町明野 1481	0596 (37) 4125	南・志
27 鳥羽高等学校	総	517-0021	鳥羽市安楽島町 1459	0599 (25) 2935	南・志
28 水産高等学校	水	517-0703	志摩市志摩町和具 2578	0599 (85) 0021	南・志
29 伊勢学園高等学校	普・看	516-0018	伊勢市黒瀬町 562-13	0596 (22) 4155	南・志
30 伊賀白鳳高等学校	農・工・商・福	518-0837	伊賀市緑ヶ丘西町 2270-1	0595 (21) 2110	伊賀
31 あけぼの学園高等学校	総	519-1424	伊賀市川東 412	0595 (45) 3050	伊賀
32 名張高等学校	(全) 総・(定) 普	518-0711	名張市東町 2067-2	0595 (63) 2131	伊賀
33 愛農学園農業高等学校	農	518-0221	伊賀市別府 690	0595 (52) 0327	伊賀
34 尾鷲高等学校	(全) 普・商・工・(定) 普	519-3659	尾鷲市古戸野町 3-12	0597 (22) 2115	牟婁
35 熊野青藍高等学校	(全) 普・総・(定) 普	519-4394	熊野市木本町 1101-4	0597 (85) 3811	牟婁
36 大木中学校		513-0045	鈴鹿市北堀江 2-15-1	059 (385) 0316	中学
37 天栄中学校		510-0258	鈴鹿市秋永町 1839	059 (386) 0444	中学

三重県高等学校案内 (三重県教育委員会) <http://www.mie-c.ed.jp/rainbow/>

公益財団法人 産業教育振興中央会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-8-1 工業教育会館 6階

TEL : 03-5211-6861 FAX : 03-5211-6863

E-mail : info@sansinchuoukai.or.jp <http://www.sansinchuoukai.or.jp>

三重県産業教育振興会

事務局 三重県立久居農林高等学校内

〒514-1136 三重県津市久居東鷹跡町105

TEL・FAX 059-255-3575 (直通)

e-mail mie-sanshin@mxs.mie-c.ed.jp

URL <https://mie-sanshin.jp>

理事長 萬井 洋

書記 奥田 毅

会計 松本 卓也

事務職員 松本由加里

本会ホームページはこちら

